

しんじゅくの図書館

2018

刊行にあたって

平成 30 年（2018 年）版の新宿区立図書館年報「しんじゅくの図書館 2018」をお届けします。この年報は、新宿区立図書館の前年度（平成 29 年度）の実績を可能な限り数量的に把握できるものを中心に編集し、毎年 9 月に年報として発刊しているもので、今回で第 45 報となります。

平成 29 年度は、平成 27 年度に改定した「新宿区立図書館基本方針」を具現化するために、区立図書館ごとに策定、公表したサービス計画に基づき、様々な事業を実施しました。サービス計画は、新宿区立図書館基本方針の「区民にやさしい知の拠点」の使命のもと、「Ⅰ区民に伝える図書館」、「Ⅱ区民を支える図書館」、「Ⅲ区民が集う図書館」、「Ⅳ子どもの成長を応援する図書館」、「ⅤICT の利活用の推進」、「Ⅵ図書館環境の整備」の 6 つの方針ごとに、各図書館の目標値と重点的な取り組みを示すものです。

このサービス計画を毎年策定するとともに、前年度の計画について、点検・評価を行い、公表をしました。また、点検・評価を踏まえ、次年度のサービス計画に反映するという事業サイクルが確立しました。

図書館の情報発信機能の強化については、地域資料データベースや商用データベースを拡充し、様々な調べものやレファレンスに対応できるよう導入を進め、区民の課題解決を支援する環境を整備しました。

博物館・大学等との連携については、平成 29 年 9 月に開設した漱石山房記念館の一部資料がオンライン化され、図書館情報システム上で検索が可能になりました。

その図書館情報システムについては、平成 30 年 1 月に新システムに移行し、新たなシステムでは、従来からの機能に加え、スマートフォン版の新設、返却期日の直前の案内メールや利用者自身による予約の変更などができるようになりました。

子ども読書活動の推進については、「第四次新宿区子ども読書活動推進計画」（計画期間：平成 28 年度～ 31 年度）に基づき、保護者向けの「本と絵本の講座」、子ども向けの「子ども読書リーダー講座」など各種講座の開催、病院や区立学校等への団体貸出、学習支援、「子育てメッセ」での PR 活動など読書活動の支援をはじめ、5 つの施策体系のもと全 64 事業を区立学校、子育て支援施設など関係機関とともに推進し、不読者率（1 か月間に本を 1 冊も読まない児童生徒の割合）の減少、子どもへの年間貸出冊数等の目標を達成することができました。

新中央図書館の建設については、「新宿区立図書館基本方針」の位置付けを踏まえ、新たな総合計画及び第一次実行計画、並びに教育ビジョンを策定する中で、引き続き検討を行いました。なお、新中央図書館等の建設については、新宿区公共施設等総合管理計画の中で東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会の開催と、その後の社会経済状況を見据えて検討することとなっています。

この年報にあるすべての実績は、区民をはじめご利用者のみなさま、関係の方々、関係機関のご理解とご協力の賜物です。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご指導のほどを重ねてお願い申し上げます。

新宿区教育委員会 中央図書館長 佐藤 之哉

例言・凡例

■例言

- 1 本書は、新宿区立図書館の年報である。
- 2 内容は、平成 29 年度及び平成 30 年度前半期の新宿区立図書館の事務事業を中心に、関連する資料、統計等を記載したものである。
- 3 本書は、図書館の事務事業資料をもとに、中央図書館がとりまとめた。

■凡例

- 1 データ
 - 掲載した数値データは、特に定めのある場合を除き、平成 30 年 3 月 31 日現在のものであり、実績は、平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日のものである。
- 2 単位表示
 - 数値の単位未満は四捨五入を原則とする。したがって、合計と内訳の計の数値が一致しない場合がある。また、端数処理の関係で合計数が一致しない場合がある。
- 3 統計表の記号
 - 統計を取っていないものは、「－」と表記する。
 - 比率（％）は、特に定めのない場合を除き、小数点以下第 2 位を四捨五入する。表章単位に満たないものは「0.0」と表記する。

目 次

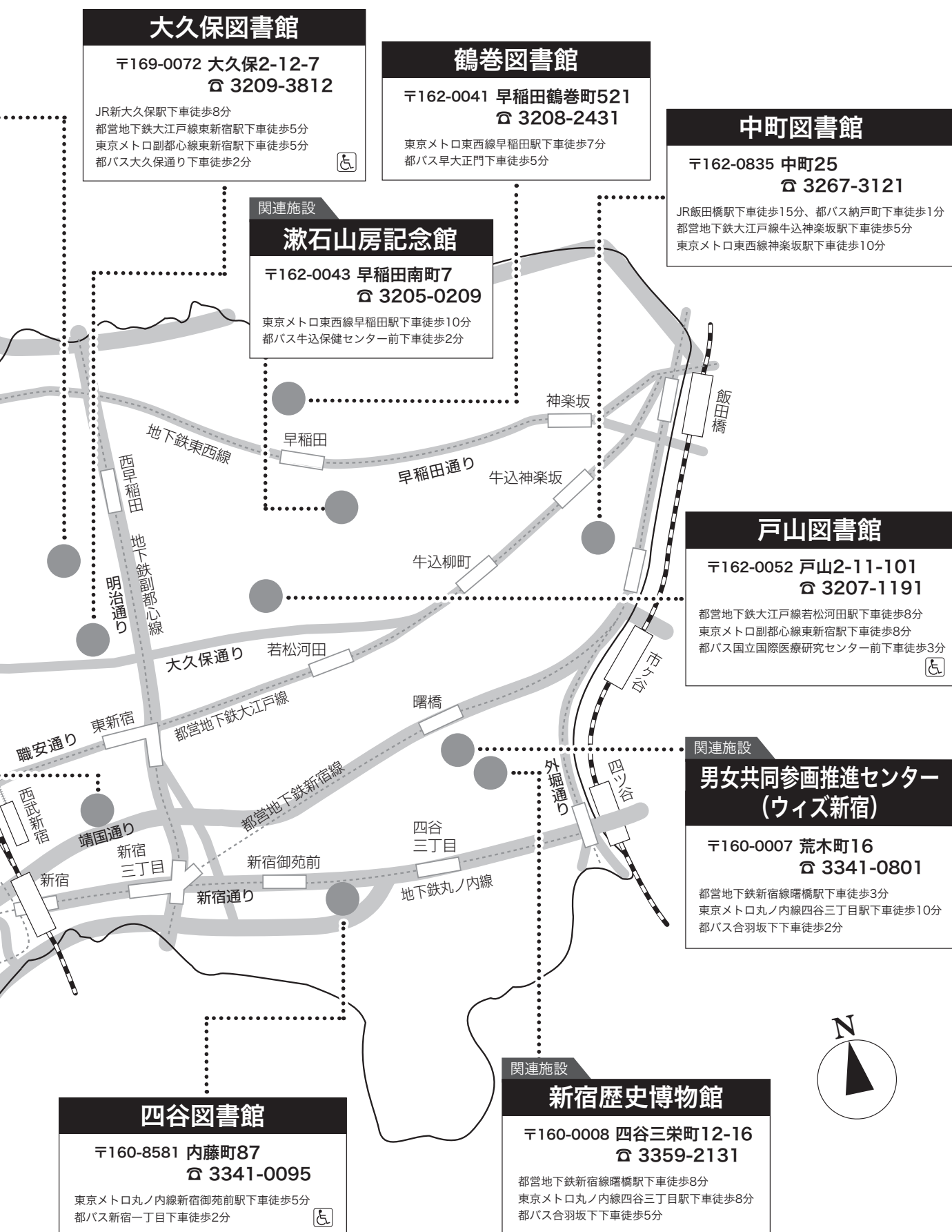
I	新宿区立図書館の概要	2
第1	図書館運営	2
1	図書館等配置図	2
2	施設・設備	4
3	組織	6
第2	実績総括	8
第3	サービス考課	11
II	事業内容及び実績	12
第1	図書館資料	12
1	所蔵資料	12
2	地域資料	12
3	受入・除籍	13
4	リサイクル	14
第2	図書館サービス	15
1	利用登録者・団体	15
2	貸出	20
3	予約・相互貸借	24
4	複写	25
5	レファレンス（調べもの相談）	26
6	読書案内（企画資料展示）	26
7	ICT を利活用したサービス	27
8	ビジネス情報支援	28
9	児童サービス	29
10	視覚障害者等サービス	33
11	図書館への来館が困難な方へのサービス（家庭配本サービス）	34
12	集会・行事サービス	35
13	平和事業	37
14	夏目漱石関連事業、東京 2020 オリンピック・パラリンピック	38
15	他の図書館、学校その他教育機関等との相互協力	39
16	会議室の利用	40
17	16 ミリ発声映写機関連	40
18	図書館サポーター制度	41
第3	管理運営	42
1	図書館運営協議会	42
2	子ども読書活動推進会議	44
3	指定管理者制度	47
4	新しい中央図書館の検討	48
5	図書館へのご意見・ご要望	49
III	沿革	50
IV	資料編（法令、条例・規則等）	56

第1 図書館運営

1 図書館等配置図

図表 1 図書館等配置図＜住所・電話番号・アクセス方法等＞





2 施設・設備

図表 2 施設・設備一覧

図書館名	創設年月日	現用館の竣工年	施設の構造 使用階	施設形態 併設・複合施設	専有延床面積	<上段> 書架総延長 <下段> 図書収納能力※1	所蔵資料
					m ²	上段 : km 下段 : 万冊	
中 央	S47.4.18	S37	・鉄筋コンクリート造 ・中央 地上 1,2,4 階	単独館 (敷地面積 : 7,339 m ²)	5,773 (中央 4,693 m ²) (こども 1,080 m ²)	6.72 29.9	図書 レコード(*)・CD(*) ビデオ・DVD 16ミリフィルム *試聴・再生可能
こども	H18.5.5	S37	・こども 地上 3 階			1.64 11.1	図書
区役所 内分室	S60.1.26	S41	・鉄骨鉄筋コンクリート造	新宿区役所 区政情報センター内	53	- - -	図書
四 谷	S26.3.25	H8	・鉄骨鉄筋コンクリート造 ・地上 7,8 階	四谷特別出張所 四谷地域センター 四谷区民ホール	2,351.4	2.54 12.0	図書 CD(*) ビデオ(*) DVD(*) *試聴・再生可能
鶴 巻	S49.9.5	S49	・鉄筋コンクリート造 ・地下 1, 地上 1,2,3 階	単独館 (敷地面積 : 247 m ²)	654	1.03 5.1	図書
西落合	S54.4.11	S53	・鉄筋コンクリート造 ・地上 1,2 階	単独館 (敷地面積 : 541 m ²)	527.17	0.83 4.1	図書
戸 山	S55.4.26	S55	・鉄骨鉄筋コンクリート造 ・地上 2 階	戸山生涯学習館 都営住宅	1,121	1.74 8.4	図書 CD カセットテープ
北新宿	S57.4.1	S56	・鉄筋コンクリート造 ・地上 3 階	北新宿生涯学習館 北新宿第二地域交流館 北新宿子ども家庭支援センター 北新宿子ども園	593.43	1.38 6.9	図書
中 町	S58.10.1	S58	・鉄筋コンクリート造 ・地下 1 階	中町地域交流館 中町児童館 あいじつ子ども園	515.22	1.25 6.2	図書
角 筈	H1.9.5	H1	・鉄骨鉄筋コンクリート造 ・地上 5,6 階	角筈特別出張所 角筈地域センター 角筈区民ホール	1,041.98	1.47 6.9	図書 CD
大久保	H6.5.6	H5	・鉄骨鉄筋コンクリート造 ・地上 2 階	大久保特別出張所 大久保地域センター	730.24	1.26 6.2	図書 CD
下落合	H29.3.11	H29	・鉄筋コンクリート造 ・地上 1,2 階	西部公園・工事事務所	1,090.82	1.2 6.2	図書 CD DVD
合計							

- ※1 書架総延長は、事務用、整理用を除き、所蔵資料を収容するための書架の延長数。
棚1段あたりの幅を90cm、棚1段あたりの平均冊数を一般書40冊、児童書60冊、紙芝居125冊、本1冊あたりの厚さを一般書2.25cm、児童書1.5cm、実際の書架総延長及び所蔵冊数と一致しない場合がある。
- ※2 上記の他に、年末年始、特別図書整理期間(年間7日以内)が休館。
月曜日(四谷図書館は原則として火曜日)・館内整理日が祝休日と重なる場合は、原則として翌日が休館。四谷図書館は、火曜日がその他の図書館が休館。
- ※3 新聞閲覧台及びこども図書館内おはなしのへやの席は除く。
- ※4 ICT (Information and Communication Technology) 情報通信技術。IT (Information Technology) は、情報技術のことだが、これに通信技術 (Communication Technology) を加えることで、コンピュータ、ソフトウェア、ネットワークといった幅広い分野をカバーする言葉となっている。

視覚障害者等 サービス	開館時間		休館日 ※ 2	閲覧席※ 3			内数	I C T環境等 ※ 4		その他			
				閲覧机 あり	椅子 のみ	計	パソコン 持込						
					席	席	席	席					台
大活字本 対面朗読	火～土 日祝休	9:00 ～ 21:45 9:00 ～ 18:00	月曜日 館内整理日 (第 3 木曜日)	一般	149	78	227	46	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	3 7 3	会議室 イベントルーム カラーコピー機	80 40 2	席 席 台
大活字本	火～日 (祝休日含む)	9:00 ～ 18:00	月曜日 館内整理日 (第 3 木曜日)	児童	26	37	63	0	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 2 1	カラーコピー機	1	台
	月～金	8:30 ～ 17:00	土、日曜日 祝休日	一般 児童	- -	- -	- -						
対面朗読	月・水～土 日祝休	9:00 ～ 21:45 9:00 ～ 18:00	火曜日 館内整理日 (第 2 木曜日) 第 3 日曜日 (5・8・11・2 月)	一般 児童	66 14	28 14	94 28	12	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 4 2	会議室 カラーコピー機	16 2	席 台
対面朗読	火～金 土日祝休	9:00 ～ 19:00(*) 9:00 ～ 18:00 *児童室は 18:00 まで	月曜日 館内整理日 (第 3 木曜日)	一般 児童	14 10	12 5	26 15	0	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 3 1	会議室 カラーコピー機	20 1	席 台
対面朗読	火～金 土日祝休	9:00 ～ 19:00 9:00 ～ 18:00	月曜日 館内整理日 (第 3 木曜日)	一般 児童	25 12	18 9	43 21	2	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 3 1	会議室 カラーコピー機	20 1	席 台
大活字本 録音図書 対面朗読	火～金 土日祝休	9:00 ～ 19:00(*) 9:00 ～ 18:00 *児童室は 18:00 まで	月曜日 館内整理日 (第 3 木曜日)	一般 児童	18 10	19 3	37 13	0	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 3 1	カラーコピー機	1	台
	火～金 土日祝休	9:00 ～ 19:00 9:00 ～ 18:00	月曜日 館内整理日 (第 3 木曜日)	一般 児童	19 12	24 7	43 19	0	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 3 1	カラーコピー機	1	台
	火～金 土日祝休	9:00 ～ 19:00 9:00 ～ 18:00	月曜日 館内整理日 (第 3 木曜日)	一般 児童	14 4	2 6	16 10	0	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 3 1	カラーコピー機	1	台
	火～土 日祝休	9:00 ～ 21:45 9:00 ～ 18:00	月曜日 館内整理日 (第 2 木曜日) 第 4 日曜日 (5・8・11・2 月)	一般 児童	39 11	0 0	39 11	6	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 3 1	カラーコピー機	1	台
	火～土 日祝休	9:00 ～ 21:45 9:00 ～ 18:00	月曜日 館内整理日 (第 2 木曜日) 第 3 日曜日 (5・8・11・2 月)	一般 児童	12 19	20 0	32 19	0	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	1 3 1	カラーコピー機	1	台
大活字本 対面朗読	火～土 日祝休	9:00 ～ 21:45 9:00 ～ 18:00	月曜日 館内整理日 (第 2 木曜日)	一般 児童	27 8	25 9	52 17	9	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	2 5 2	多目的室 カラーコピー機	42 1	席 台
				一般 児童 計	383 126 509	226 90 316	609 216 825	75 0 75	利用者用パソコン OPAC 自動貸出機	14 39 15			

紙芝居 0.72cm として計算した数値のため、

の日は開館し、翌水曜日が休館。

Technology) を加えて ICT という。

ホームページ URL

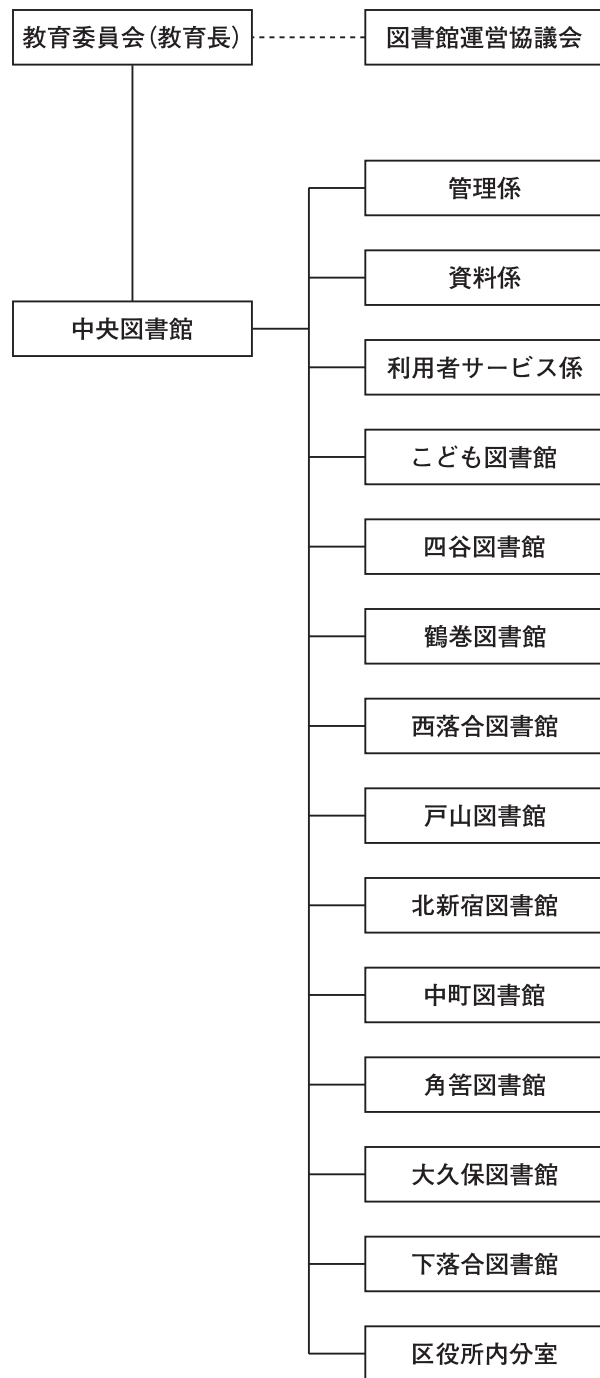
<https://www.library.shinjuku.tokyo.jp/>
(新宿区立図書館ホームページ)

<https://www.city.shinjuku.lg.jp/library/>
(新宿区ホームページ内 図書館ページ)

3 組織

(1) 組織図・運営形態・職員数

図表 3 組織図・運営形態・職員数等



図書館名	運営形態 (指定管理者名)	職員数 (司書数) 名
中央	直営	職員 38 (14) 非常勤 13 (13) 合計 51 (27)
こども	直営	職員 6 (4) 非常勤 7 (7) 合計 13 (11)
四谷	指定管理 (紀伊國屋書店・ ヴィアックス共同事業体)	委託職員 29 (19)
鶴巻	指定管理 (株式会社図書館流通 センター)	委託職員 15 (8)
西落合	指定管理 (紀伊國屋書店・ヴィアック ス・不二興産共同事業体)	委託職員 11 (8)
戸山	指定管理 (株式会社図書館流通 センター)	委託職員 17 (10)
北新宿	指定管理 (ミライト・リブネット 共同事業体)	委託職員 15 (10)
中町	指定管理 (丸善雄松堂株式会社)	委託職員 13 (10)
角筈	指定管理 (株式会社図書館流通 センター)	委託職員 16 (11)
大久保	指定管理 (紀伊國屋書店・ ヴィアックス共同事業体)	委託職員 20 (11)
下落合	指定管理 (株式会社図書館流通 センター)	委託職員 17 (12)
区役所 内分室	区政情報センターと一体運営 運営は、区政情報課に 事務委任	職員 (-) 非常勤 (-) 合計 (-)
合計		職員 44 (18) 非常勤 20 (20) 委託職員 153 (99) 合計 217 (137)

(2) 担当事務

管理係 ※ 1	1 文書の処理及び公印の管守に関すること。 2 館内の秩序維持並びに館舎の維持及び管理に関すること。 3 調査及び統計に関すること。 4 予算、決算及び会計に関すること。 5 職員の服務に関すること。 6 広報に関すること。 7 こども図書館及び指定図書館との連絡及び調整に関すること。 8 その他の係に属しないこと。
資料係 ※ 1	1 図書館資料の収集、整理、保存及び廃棄に関すること。 2 図書館資料の館内での利用及び館外への貸出しに関すること。 3 読書相談、読書案内及び参考調査に関すること。 4 読書会、映写会、講習会、展示会等の開催及び奨励に関すること。 5 不用になった図書館資料（以下「リサイクル資料」という。）の提供に関すること。 6 16 ミリ発声映写機の操作、技術講習会及び検定に関すること。 7 図書館資料についての連絡及び調整に関すること。 8 ビジネス情報の支援に関すること。
利用者 サービス係 ※ 1	1 図書館資料の予約に関すること。 2 図書館資料の館内での利用及び館外への貸出しに関すること。 3 館を利用することに障害がある者に対する利用の援助に関すること。 4 図書館サービスについての連絡及び調整に関すること。 5 図書館情報システムの運用管理に関すること。 6 指定図書館の運営に関すること。
こども 図書館 ※ 1	1 文書の処理及び公印の管守に関すること。 2 児童・青少年用図書館資料の収集、整理、保存及び廃棄に関すること。 3 児童・青少年用図書館資料の館内での利用及び館外への貸出しに関すること。 4 子どもの読書活動の推進に関すること。 5 学校図書館の支援に関すること。 6 リサイクル資料の提供に関すること。 7 指定図書館の児童サービスの支援に関すること。
四谷 鶴巻 西落合 戸山 北新宿 中町 角筈 大久保 下落合 ※ 2	1 新宿区立図書館条例第 3 条第 1 項各号に掲げる事業に関する業務 2 指定図書館の施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理に関する業務 3 その他指定図書館の管理に関し、委員会が必要と認める業務 第 3 条 館においては、法（図書館法）第 3 条の規定に基づき、次に掲げる事業（新宿区立中央図書館区役所内分室にあっては、第 4 号から第 6 号までに掲げる事業を除く。）を行うものとする。 1 法第 3 条第 1 号に規定する図書館資料（以下「図書館資料」という。）の収集、整理及び保存に関すること。 2 図書館資料の館内での利用及び館外への貸出しに関すること。 3 読書相談、読書案内及び参考調査に関すること。 4 読書会、映写会、講習会、展示会等の開催及び奨励に関すること。 5 館を利用することに障害がある者に対する利用の援助に関すること。 6 他の図書館、学校その他教育機関等との相互協力に関すること。 7 その他館の目的を達成するために新宿区教育委員会が必要と認める事業
区役所 内分室 ※ 3	1 図書館資料の収集、整理、保存及び廃棄に関すること。 2 図書館資料の館内利用及び館外貸出しに関すること。 3 参考調査及び読書相談に関すること。 4 館内の秩序維持及び館舎の管理に関すること。 5 その他分室の目的を達成するため必要な事業に関すること。

※ 1 「新宿区立図書館処務規程」 ※ 2 「新宿区立図書館条例」

※ 3 「新宿区教育委員会の権限に属する事務の委任及び補助執行に関する規則」

区役所内分室においては、当該分室内の利用登録（個人）、閲覧及び貸出を行う。映画会、展示会等の行事、障害者サービス、相互協力等のサービスは実施していない。（新宿区立図書館条例第 3 条）

第2 実績総括

図表 4 実績総括＜所蔵資料数、登録者数、貸出資料数＞

項目				図書館名	単位	中央	こども	区役所内 分室	四谷	
開館日数					日	283	283	244	281	
来館者数（人）※ 1					人	433,651	-	-	317,780	
所蔵資料数	図書資料	図書	一般書	点	225,860	0	4,582	97,374		
			児童書	点	0	106,741	0	27,786		
			計（A）	点	225,860	106,741	4,582	125,160		
			うち閉架※ 2	点	116,895	10,420		10,443		
		雑誌	一般雑誌	点	17,784	0	25	3,624		
			児童雑誌	点	0	2,212	0	632		
			計（B）	点	17,784	2,212	25	4,256		
			計 C （A+B）	点	243,644	108,953	4,607	129,416		
		雑誌（種） ※ 3	種	302	66	25	314			
		新聞（種） ※ 3	種	33	4	7	33			
	視聴覚資料	個人貸出	CD	点	13,361			9,175		
			カセットテープ	点						
			レコード	点	4,801			739		
			ビデオテープ	点	1,738			1,756		
			DVD	点	3,570					
			計（D）	点	23,470	0	0	11,670		
		団体貸出	16 ミリフィルム	点	549					
			DVD	点	92					
			計（E）	点	641	0	0	0		
		計 F （D+E）	点	24,111	0	0	11,670			
	合計（C+F）				点	267,755	108,953	4,607	141,086	
	登録者数	個人				人	17,324	4,492	19	17,162
		団体				団体	44	276		27
	貸出資料数 ＜ 個人 ＞	図書資料	図書	一般書	点	225,000	9,440	24	271,143	
児童書				点	20,507	110,716	0	112,030		
計（G）				点	245,507	120,156	24	383,173		
雑誌 ※4			一般雑誌	点	19,225	880		21,381		
			児童雑誌	点	626	4,346		3,083		
			計（H）	点	19,851	5,226		24,464		
計 I （G+H）			点	265,358	125,382	24	407,637			
視聴覚資料		CD	点	50,292	314		46,465			
		カセットテープ	点	7	0		86			
		レコード	点	248	0		0			
		ビデオテープ	点	1,138	16		184			
		DVD	点	18,560	283		11,210			
		計（J）	点	70,245	613	0	57,945			
相互貸借（他自治体より借受し、貸出）（K）				点	1,105	132		811		
合計（I+J+K）				点	336,708	126,127	24	466,393		
うち、区内				点	242,755	114,432	3	337,974		
貸出資料数 ＜ 団体 ＞		図書資料（L）				点	104	51,927		777
	視聴覚資料	16 ミリフィルム		点	78					
		団体貸出 DVD		点	99					
		計（M）		点	177	0	0	0		
	合計（L+M）				点	281	51,927	0	777	
予約数	受付数				点	121,077	11,847		156,506	

※1 こども図書館の来館者は、中央図書館に含む。

※2 区役所内分室、戸山、中町、角筈、大久保、下落合図書館には、閉架書庫はない。

※3 雑誌及び新聞の種数は、合計に含まない。

※4 区役所内分室の雑誌の貸出実績は、図書に含む。

※ 障害者サービス資料の実績は、「Ⅱ-第2-10 視覚障害者等サービス」に掲載。ただし、本図表に大活字本は含む。

鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計	再掲有無
286	260	286	286	286	282	282	288	3,347	I - 第3
103,328	122,188	127,889	99,703	126,963	138,449	138,135	210,323	1,818,409	
41,825	33,205	64,534	50,128	47,356	61,396	52,074	46,271	724,605	II - 第1
16,383	14,705	22,442	22,017	17,297	17,038	19,016	15,250	278,675	II - 第1
58,208	47,910	86,976	72,145	64,653	78,434	71,090	61,521	1,003,280	
1,480	444		1,039					140,721	
904	790	1,346	994	1,271	3,763	1,519	1,480	33,500	
450	188	444	252	313	141	326	306	5,264	
1,354	978	1,790	1,246	1,584	3,904	1,845	1,786	38,764	
59,562	48,888	88,766	73,391	66,237	82,338	72,935	63,307	1,042,044	
90	76	134	95	112	608	132	137	2,091	
17	11	17	13	12	29	19	13	208	
		7,345			7,175	6,376	4,814	48,246	
		1,318						1,318	
								4,801	
								2,477	
							471	5,797	
0	0	8,663	0	0	7,175	6,376	5,285	62,639	
								549	
								92	
0	0	0	0	0	0	0	0	641	
0	0	8,663	0	0	7,175	6,376	5,285	63,280	
59,562	48,888	97,429	73,391	66,237	89,513	79,311	68,592	1,105,324	
5,526	6,035	5,628	4,657	7,584	8,473	6,893	6,246	90,039	II - 第2
12	9	19	27	29	7	23	5	478	II - 第2
106,368	107,381	94,865	85,606	157,598	131,092	100,149	211,324	1,499,990	
59,515	66,830	56,182	39,284	98,303	37,477	26,399	112,184	739,427	
165,883	174,211	151,047	124,890	255,901	168,569	126,548	323,508	2,239,417	II - 第2
9,405	7,742	8,342	7,004	11,924	12,073	7,482	12,947	118,405	
2,171	1,658	1,700	1,027	2,168	600	627	2,186	20,192	
11,576	9,400	10,042	8,031	14,092	12,673	8,109	15,133	138,597	II - 第2
177,459	183,611	161,089	132,921	269,993	181,242	134,657	338,641	2,378,014	II - 第2
7,100	8,116	16,840	6,361	9,478	37,425	17,992	42,338	242,721	II - 第2
16	9	437	6	7	17	24	18	627	II - 第2
0	0	0	0	0	0	0	0	248	II - 第2
34	62	14	101	25	169	26	55	1,824	II - 第2
1,363	1,036	551	947	1,501	2,411	806	5,792	44,460	II - 第2
8,513	9,223	17,842	7,415	11,011	40,022	18,848	48,203	289,880	II - 第2
537	400	411	628	537	430	580	752	6,323	
186,509	193,234	179,342	140,964	281,541	221,694	154,085	387,596	2,674,217	
162,742	116,239	161,183	106,999	252,177	78,307	112,735	315,333	2,000,879	
732	337	1,044	1,644	644	46	1,060	500	58,815	
								78	
								99	
0	0	0	0	0	0	0	0	177	
732	337	1,044	1,644	644	46	1,060	500	58,992	
77,863	62,825	48,531	53,279	118,569	106,357	49,589	95,004	901,447	II - 第2

図表 5 実績総括＜所蔵図書機材数、貸出数＞

図書館で所蔵し、貸出を行っている図書機材は、紙芝居舞台等があります。

単位：台

図書館名		中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
項目													
所蔵図書機材数		4	96	6	8	7	2	2	4	6	8	3	146
貸出数	< 個人 >	52	147	70	67	99	22	27	42	42	40	98	706
	< 団体 >	0	39	10	18	1	13	2	5	0	1	5	94

図表 6 実績総括＜所蔵視聴覚機材数、貸出数、試聴回数＞

図書館名			単位	中央	四谷 ※ 4	合計
項目						
所蔵 視聴覚機材数	館外貸出用 ※ 1	16 ミリ発声映写機	台	7		7
		DVD プレーヤー	台	2		2
		プロジェクター	台	2		2
		その他 ※ 2	台	22		22
	館内試聴・ 再生確認用	C Dプレーヤー	台	2	2	4
		レコードプレーヤー	台	1		1
		ビデオデッキ	台		1	1
		DVD プレーヤー	台		1	1
貸出数	館外貸出用 ※ 1	16 ミリ発声映写機	回	19		19
		DVD プレーヤー	回	6		6
		プロジェクター	回	5		5
		その他 ※ 3	回	15		15
試聴回数	館内試聴・ 再生確認用	C Dプレーヤー	回	327	473	800
		レコードプレーヤー	回	9		9
		ビデオデッキ	回		19	19
		DVD プレーヤー	回		276	276

※ 1 団体貸出専用。個人貸出は実施していない。
※ 2 内訳：スクリーン (7)、暗幕 (6)、リール (4)、シネマスコープレنز (3)、スピーカー (2)。() 内は所蔵数。
※ 3 内訳：スクリーン (2)、暗幕 (8)、スピーカー (5)。() 内は貸出数。
リール・シネマスコープレنزについては、統計を取っていない。
※ 4 機材の館外貸出は実施していない。

第3 サービス考課

図表7 実績推移

年度 項目		単位	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
新宿区人口（4月1日現在） （A）		人	324,669	328,787	335,510	339,339	342,867
開館日数（B）		日	3,099	3,155	3,161	3,170	3,347
開館日数＜こども・分室除く＞（C）※1		日	2,589	2,621	2,628	2,638	2,820
来館者数（D）※1		人	1,748,648	1,726,436	1,773,761	1,808,655	1,818,409
所蔵資料数 （E）※2		点	951,603	995,888	1,000,300	1,078,517	1,104,683
登録者数（F）		人	102,353	100,410	100,049	101,692	90,039
区民登録者数（G）		人	66,332	64,785	64,712	66,294	61,213
貸出資料数＜個人＞（H）※3		点	2,399,781	2,395,887	2,468,249	2,498,805	2,674,217
図書等資料費（I）※4		円	123,406,217	130,870,884	135,217,238	135,689,480	143,501,881
内 訳	図書購入費（J）	円	91,672,506	92,692,592	94,280,770	93,738,386	98,772,582
	新聞・雑誌購入費	円	19,122,897	19,753,723	19,833,388	19,861,582	21,838,529
	視聴覚資料購入費	円	9,769,038	10,093,794	10,132,862	10,119,606	11,046,332
	その他資料費	円	2,841,776	8,330,775	10,970,218	11,969,906	11,844,438
区民登録率 （G/A）		%	20.4	19.7	19.3	19.5	17.9
1日あたりの来館者数 ※1 （D/C）		人	675.4	658.7	674.9	685.6	644.8
人口1人あたりの所蔵資料数 （E/A）		点	2.9	3.0	3.0	3.2	3.2
登録者1人あたりの貸出資料数 （H/F）		点	23.4	23.9	24.7	24.6	29.7
1日・1館あたりの貸出資料数 （H/B）		点	774.4	759.4	780.8	788.3	794.3
資料回転（流通）率 （H/E）		回	2.5	2.4	2.5	2.3	2.4
区民1人あたりの図書費 ※3 上段（I/A） 下段（J/A）		円	380.1	398.0	403.0	399.9	418.5
		円	282.4	281.9	281.0	276.2	288.1

※1 こども図書館の来館者数は、中央図書館に含む。区役所内分室の来館者数は、実績があるが統計を取っていない。

そのため、1日あたりの来館者数の分母は、こども図書館及び区役所内分室を除く開館日数（C）とする。

※2 図書資料（雑誌含む）、視聴覚資料（個人貸出）の合計数。視聴覚資料（団体貸出用）を除く。

平成25年度には、雑誌冊数は含まれていない。（統計データがないため。）

※3 図書資料（雑誌含む）、視聴覚資料（個人貸出）の合計数。相互貸借（他自治体より借受し、貸出）分も含む。

※4 図書等資料費は各年度決算額。（区役所内分室の資料費を除く。）

下落合図書館開館に伴う図書等資料費は、平成27年度・28年度に支出。臨時的経費のため、決算値に含まない。

第1 図書館資料

1 所蔵資料

図表 8 図書資料（雑誌除く）分類別所蔵数

単位：冊

図書館名		中央	こども	区役所 内分室	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
項目														
一般書	0 総記	17,714	0	38	8,713	1,250	1,169	1,591	1,556	2,773	2,515	1,493	1,721	40,533
	1 哲学	10,612	0	7	4,128	1,908	1,184	2,940	1,950	2,051	2,224	2,553	2,340	31,897
	2 歴史	28,968	0	164	11,759	5,476	3,433	7,082	5,639	5,430	6,598	5,897	4,158	84,604
	3 社会科学	44,764	0	240	14,200	7,162	4,763	10,092	7,797	6,575	12,842	7,916	7,732	124,083
	4 自然科学	12,762	0	18	6,377	3,281	2,202	5,007	3,416	3,173	4,513	3,414	4,661	48,824
	5 技術工学	15,917	0	11	7,927	4,237	3,028	4,790	4,248	4,047	6,803	3,916	6,239	61,163
	6 産業	8,076	0	21	3,077	1,525	1,203	1,779	1,725	1,755	5,494	1,832	2,280	28,767
	7 芸術スポーツ	21,644	0	34	9,195	4,151	4,100	7,000	5,594	4,089	6,432	5,443	5,432	73,114
	8 言語	3,655	0	32	2,571	982	770	1,406	1,592	1,082	1,242	1,639	1,121	16,092
	9 文学	15,309	0	52	9,482	2,148	2,336	5,482	4,106	3,773	2,724	4,658	2,299	52,369
	J (日本文学)	46,135	0	0	19,917	9,705	9,010	17,320	12,504	12,604	10,009	13,313	8,272	158,789
	一般その他※1	304	0	3,965	28	0	7	45	1	4	0	0	16	4,370
	計 (A)	225,860	0	4,582	97,374	41,825	33,205	64,534	50,128	47,356	61,396	52,074	46,271	724,605
	比 (%) ※2	100.0	0.0	100.0	77.8	71.9	69.3	74.2	69.5	73.2	78.3	73.3	75.2	72.2
児童書	0 総記	0	1,986	0	713	331	474	444	376	510	320	329	199	5,682
	1 哲学	0	812	0	171	111	100	179	183	126	148	125	202	2,157
	2 歴史	0	5,662	0	1,143	525	550	850	730	664	630	732	724	12,210
	3 社会科学	0	7,128	0	1,503	665	568	1,294	1,014	962	934	728	1,013	15,809
	4 自然科学	0	10,046	0	2,030	1,112	1,186	1,916	1,829	1,019	1,295	1,144	1,182	22,759
	5 技術工学	0	4,195	0	1,072	554	424	780	873	470	551	454	587	9,960
	6 産業	0	4,377	0	719	438	344	539	610	385	439	371	492	8,714
	7 芸術スポーツ	0	6,670	0	1,392	826	809	1,381	1,096	616	925	956	833	15,504
	8 言語	0	1,642	0	364	221	210	252	319	233	256	226	187	3,910
	9 文学	0	3,648	0	590	428	386	487	735	493	466	469	252	7,954
	E 絵本	0	31,666	0	9,926	5,852	4,799	7,672	6,314	5,615	5,365	6,434	4,918	88,561
	K 紙芝居	0	2,783	0	733	571	561	638	380	370	520	576	376	7,508
	F1 日本のがたり	0	16,018	0	4,046	3,087	2,861	3,620	4,829	3,905	2,993	4,115	2,953	48,427
	F2 外国のがたり	0	10,105	0	3,383	1,661	1,430	2,386	2,729	1,927	2,196	2,356	1,319	29,492
	児童その他	0	3	0	1	1	3	4	0	2	0	1	13	28
	計 (B)	0	106,741	0	27,786	16,383	14,705	22,442	22,017	17,297	17,038	19,016	15,250	278,675
	比 (%) ※2	0.0	100.0	0.0	22.2	28.1	30.7	25.8	30.5	26.8	21.7	26.7	24.8	27.8
合計 (A+B)		225,860	106,741	4,582	125,160	58,208	47,910	86,976	72,145	64,653	78,434	71,090	61,521	1,003,280
比 (%) ※3		22.5	10.6	0.5	12.5	5.8	4.8	8.7	7.2	6.4	7.8	7.1	6.1	

※1 区役所内分室における「一般その他」は、行政資料である。
 ※2 各館及び全館の所蔵資料数に占める一般書及び児童書の割合。
 ※3 全館の所蔵資料数に占める各館の割合。

図表 9 所蔵資料（雑誌除く）別置別所蔵数

本表は、図書資料（雑誌除く）の所蔵数の内数であり、主な別置資料を集計したものです。

単位：冊

図書館名	中央	こども	区役所 内分室	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
項目													
地域資料 (行政資料・地域資料マンガ含む)	17,015	511	3,965	3,481	1,712	1,092	1,454	1,419	823	1,586	1,138	658	34,854
洋書	322	362	0	2,226	63	41	0	1,858	84	0	2,517	0	7,473
大活字本	809	180	0	0	0	0	1,571	0	0	0	0	411	2,971
ビジネス	769	0	0	0	0	0	0	0	0	11,959	0	0	12,728
漫画	0	771	0	66	0	326	1,042	506	0	232	650	0	3,593

2 地域資料

地域資料として、「新宿」及び「東京」に関連する郷土資料・行政資料を所蔵しています。
 また、新宿ゆかりの作家・漫画家である夏目漱石や手塚治虫等の資料を収集しています。

3 受入・除籍

図表 10 図書資料（雑誌除く）・視聴覚資料 受入・除籍数

単位：点

		平成 29 年 3 月末 所蔵数	受入数				除籍・廃棄 ※ 2	平成 30 年 3 月末 所蔵数
			購入数	寄贈数	その他※ 1	合計		
中央	一般書	221,508	7,021	1,142	112	8,275	3,923	225,860
	CD	13,127	383	13	2	398	164	13,361
	レコード	4,800	0	0	1	1	0	4,801
	ビデオ	1,979	0	0	0	0	241	1,738
	DVD	3,546	228	22	3	253	229	3,570
	16 ミリフィルム	549	0	0	0	0	0	549
	団体貸出 DVD	76	16	0	0	16	0	92
	計	245,585	7,648	1,177	118	8,943	4,557	249,971
こども	児童書	102,140	6,713	250	43	7,006	2,405	106,741
	計	102,140	6,713	250	43	7,006	2,405	106,741
区役所 内分室	一般書	4,280	21	467	0	488	186	4,582
	計	4,280	21	467	0	488	186	4,582
四谷	一般書	96,607	5,313	567	118	5,998	5,231	97,374
	児童書	27,011	1,900	63	35	1,998	1,223	27,786
	CD	8,948	352	45	7	404	177	9,175
	ビデオ	782	0	0	0	0	43	739
	DVD	1,560	216	3	1	220	24	1,756
	計	134,908	7,781	678	161	8,620	6,698	136,830
	計	134,908	7,781	678	161	8,620	6,698	136,830
鶴巻	一般書	41,240	3,425	198	31	3,654	3,069	41,825
	児童書	16,000	1,045	54	21	1,120	737	16,383
	計	57,240	4,470	252	52	4,774	3,806	58,208
西落合	一般書	33,716	2,807	156	31	2,994	3,505	33,205
	児童書	14,721	945	50	1	996	1,012	14,705
	計	48,437	3,752	206	32	3,990	4,517	47,910
戸山	一般書	64,784	3,947	132	42	4,121	4,371	64,534
	児童書	21,807	995	49	6	1,050	415	22,442
	CD	7,053	308	1	2	311	19	7,345
	カセットテープ	1,369	0	0	0	0	51	1,318
	計	95,013	5,250	182	50	5,482	4,856	95,639
北新宿	一般書	49,087	2,959	162	36	3,157	2,116	50,128
	児童書	21,508	850	21	12	883	374	22,017
	計	70,595	3,809	183	48	4,040	2,490	72,145
中町	一般書	45,893	3,122	250	51	3,423	1,960	47,356
	児童書	17,030	1,044	43	23	1,110	843	17,297
	計	62,923	4,166	293	74	4,533	2,803	64,653
角筈	一般書	59,875	3,625	200	60	3,885	2,364	61,396
	児童書	16,415	1,018	32	20	1,070	447	17,038
	CD	6,950	307	1	0	308	83	7,175
	計	83,240	4,950	233	80	5,263	2,894	85,609
大久保	一般書	51,895	4,738	415	60	5,213	5,034	52,074
	児童書	19,006	804	176	8	988	978	19,016
	CD	6,216	239	1	1	241	81	6,376
	計	77,117	5,781	592	69	6,442	6,093	77,466
下落合	一般書	43,518	2,543	304	98	2,945	192	46,271
	児童書	13,695	1,347	168	40	1,555	0	15,250
	CD	4,560	231	0	23	254	0	4,814
	DVD	367	93	12	0	105	1	471
	計	62,140	4,214	484	161	4,859	193	66,806
合計	一般書	712,403	39,521	3,993	639	44,153	31,951	724,605
	児童書	269,333	16,661	906	209	17,776	8,434	278,675
	CD	46,854	1,820	61	35	1,916	524	48,246
	カセットテープ	1,369	0	0	0	0	51	1,318
	レコード	4,800	0	0	1	1	0	4,801
	ビデオ	2,761	0	0	0	0	284	2,477
	DVD	5,473	537	37	4	578	254	5,797
	16 ミリフィルム	549	0	0	0	0	0	549
	団体貸出 DVD	76	16	0	0	16	0	92
	計	1,043,618	58,555	4,997	888	64,440	41,498	1,066,560

※ 1 自館作成資料、弁償資料の受入等を含む。

※ 2 除籍・廃棄は除数。

※ 3 紙芝居は児童書に含む

図表 11 雑誌 受入種数

単位：種

		年間受入種	
		受入種	うち購入種
中央	一般雑誌	268	221
	計	268	221
こども	児童雑誌	65	65
	計	65	65
区役所 内分室	一般雑誌	25	5
	計	25	5
四谷	一般雑誌	265	253
	児童雑誌	55	55
	計	320	308
鶴巻	一般雑誌	62	61
	児童雑誌	28	28
	計	90	89
西落合	一般雑誌	54	52
	児童雑誌	21	21
	計	75	73
戸山	一般雑誌	105	101
	児童雑誌	29	28
	計	134	129
北新宿	一般雑誌	79	72
	児童雑誌	16	16
	計	95	88
中町	一般雑誌	92	86
	児童雑誌	20	20
	計	112	106
角筈	一般雑誌	599	152
	児童雑誌	12	11
	計	611	163
大久保	一般雑誌	106	102
	児童雑誌	25	25
	計	131	127
下落合	一般雑誌	112	111
	児童雑誌	29	28
	計	141	139
合計	一般雑誌	1,767	1,216
	児童雑誌	300	297
	計	2,067	1,513

図表 12 新聞 受入種数

単位：種

	年間受入種	
	受入種	うち購入種
中央	33	20
こども	4	3
区役所内分室	7	7
四谷	33	27
鶴巻	17	11
西落合	11	10
戸山	17	17
北新宿	13	13
中町	12	10
角筈	29	16
大久保	19	17
下落合	13	13
合計	208	164

4 リサイクル

図表 13 リサイクル図書実績

単位：冊

項目	図書館名	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
冊数		7,218	1,430	7,541	5,685	3,924	7,292	3,985	3,134	5,288	8,196	489	54,182
内訳	一般書	3,331		3,199	3,651	2,311	5,279	2,299	1,147	1,721	5,276	0	28,214
	児童書		894	122	593	1,216	506	381	402	3,140	1,063	0	8,317
	雑誌	3,887	536	4,220	1,441	397	1,507	1,305	1,585	427	1,857	489	17,651

第2 図書館サービス

1 利用登録者・団体

(1) 個人

①東京都内在住もしくは②区内在勤・在学者を対象に（※①の方は運転免許証等住所と本人を確認できるもの、②の方は住所と本人を確認のできるものに加えて、区内在勤・在学を証明できるものを持参して登録）利用者カードを発行します。

※視覚障害者等サービスの利用には別途登録が必要です。また、区内在住・在勤・在学者に限ります。

(2) 団体

①新宿区内に事務所又は事業所を有する法人その他の団体（構成員が10名以上、家族のみは不可）を対象に、利用者カードを発行します。②配本による団体貸出対象団体は、区内の小学校、中学校、幼稚園、保育園、区学童クラブ等、子どもの育成にかかわる団体及び配本サービス事業を実施している病院であり、各代表者の申請により、利用者カードを発行します。

(3) 利用者の登録情報

「利用者カード」作成にあたり、図書館情報システムに記録される利用者情報は、次の項目です。

①利用者番号／②氏名／③生年月日／④住所／⑤電話番号／⑥在住・在勤区分／

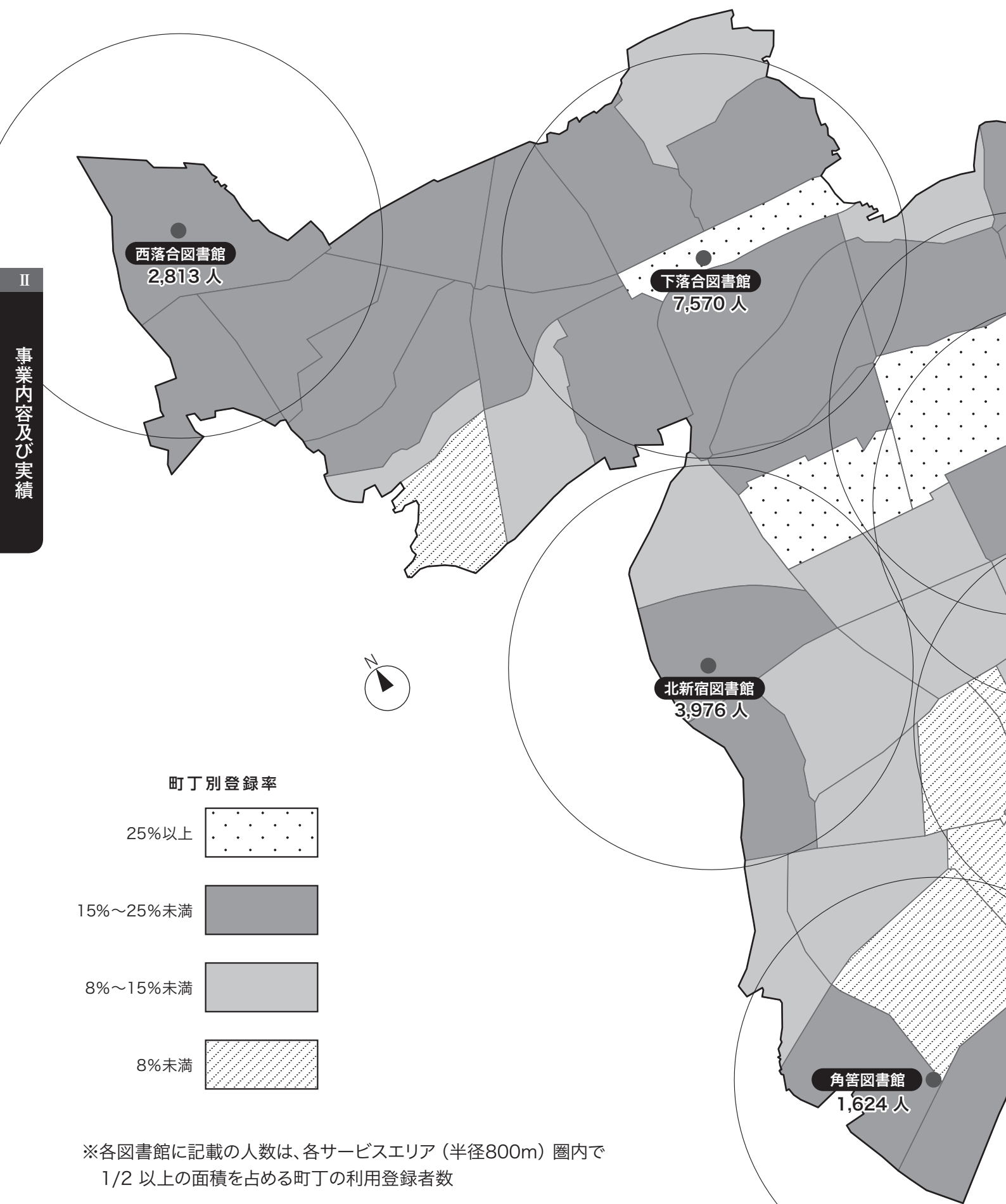
⑦登録年月日／⑧登録館／⑨貸出資料コード／⑩予約資料コード／⑪メールアドレス

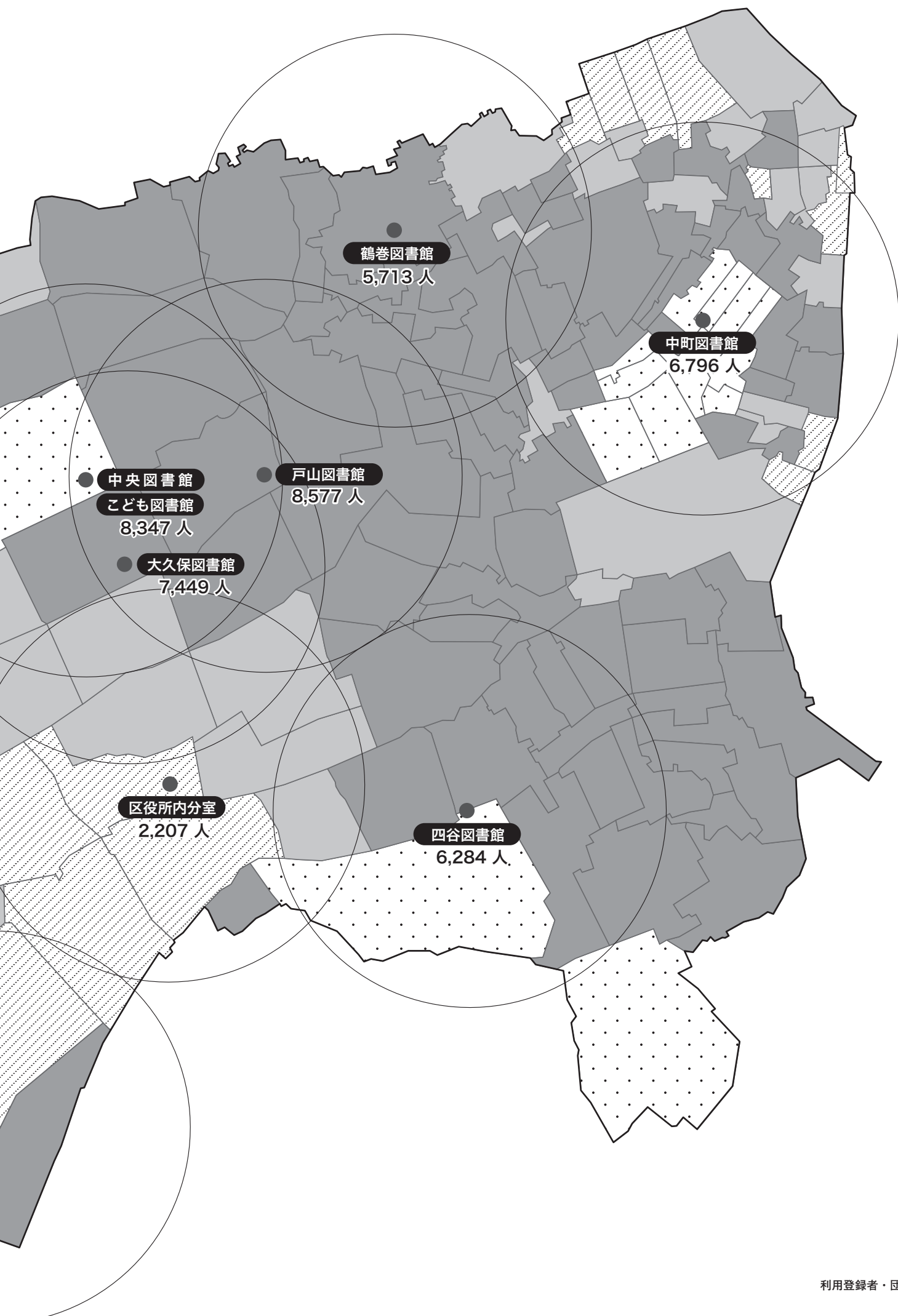
※貸出記録は、資料の返却処理が済むと自動的に消去されます。

※登録者の記録は、区の保有する他の個人情報と結ばれていません。

以上のように、図書館利用者の個人情報は、第三者が知りうるできないように、業務上の措置がとられているほか、個人情報保護法や新宿区個人情報保護条例等に基づき、厳しく取り扱っています。

図表 14 登録者分布図





図表 15 登録要件・年代別登録者数＜個人＞

単位：人

図書館名 項目		中央	こども	区役所 内分室	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
区内在住	小学生以下	424	2,229	0	1,861	944	891	978	654	1,538	443	581	787	11,330
	中学生	148	343	0	367	168	173	190	150	297	69	190	94	2,189
	高校生	179	169	0	224	92	80	136	103	163	40	136	136	1,458
	学生	622	95	0	404	182	101	152	145	191	84	241	388	2,605
	一般	9,088	1,090	7	8,592	3,082	2,305	3,281	2,368	4,478	2,389	3,798	3,153	43,631
	計	10,461	3,926	7	11,448	4,468	3,550	4,737	3,420	6,667	3,025	4,946	4,558	61,213
	比(%)※1	60.4	87.4	36.8	66.7	80.9	58.8	84.2	73.4	87.9	35.7	71.8	73.0	68.0
都内在住	小学生以下	43	191	0	91	55	436	16	123	17	262	14	97	1,345
	中学生	118	37	0	27	12	99	4	16	8	98	9	21	449
	高校生	226	23	0	71	26	36	14	12	6	72	24	48	558
	学生	628	39	1	215	71	74	53	49	25	160	101	260	1,676
	一般	4,877	245	7	4,397	767	1,823	653	977	650	4,228	1,519	1,101	21,244
	計	5,892	535	8	4,801	931	2,468	740	1,177	706	4,820	1,667	1,527	25,272
	比(%)※1	34.0	11.9	42.1	28.0	16.8	40.9	13.1	25.3	9.3	56.9	24.2	24.4	28.1
区内在勤	一般	470	12	3	832	81	17	111	45	193	603	224	62	2,653
	比(%)※1	2.7	0.3	15.8	4.8	1.5	0.3	2.0	1.0	2.5	7.1	3.2	1.0	2.9
区内在学	小学生以下	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	中学生	45	3	0	0	0	0	2	0	0	0	4	1	55
	高校生	44	0	0	0	0	0	1	0	0	1	8	2	56
	学生	412	16	1	81	46	0	36	15	18	24	44	96	789
	計	501	19	1	81	46	0	40	15	18	25	56	99	901
	比(%)※1	2.9	0.4	5.3	0.5	0.8	0.0	0.7	0.3	0.2	0.3	0.8	1.6	1.0
合計	小学生以下	467	2,420	0	1,952	999	1,327	995	777	1,555	705	595	884	12,676
	中学生	311	383	0	394	180	272	196	166	305	167	203	116	2,693
	高校生	449	192	0	295	118	116	151	115	169	113	168	186	2,072
	学生	1,662	150	2	700	299	175	241	209	234	268	386	744	5,070
	一般	14,435	1,347	17	13,821	3,930	4,145	4,045	3,390	5,321	7,220	5,541	4,316	67,528
	計	17,324	4,492	19	17,162	5,526	6,035	5,628	4,657	7,584	8,473	6,893	6,246	90,039
	比(%)※2	19.2	5.0	0.0	19.1	6.1	6.7	6.3	5.2	8.4	9.4	7.7	6.9	

※1 各館及び全館の利用登録者数に占める区内在住、都内在住、区内在勤、区内在学の利用登録者数の割合

※2 全館の利用登録者数に占める各館の利用登録者数の割合

図表 16 新規登録者・有効登録者数＜個人＞

有効登録者とは、昨年度実際に貸出実績のあった登録者のことを示します。

単位：人

図書館名 項目	中央	こども	区役所 内分室	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
新規登録者	3,185	645	10	2,807	820	833	770	751	1,056	1,599	1,031	4,473	17,980
うち区内	1,708	537	2	1,752	652	493	599	541	895	606	632	3,202	11,619
有効登録者	12,194	3,460	—	12,292	4,152	4,521	4,342	3,346	5,860	6,139	4,905	4,404	65,615
うち区内	7,837	3,081	—	8,430	3,446	2,703	3,736	2,526	5,216	2,292	3,625	3,306	46,198
小学生以下 有効登録者	361	1,958	—	1,519	802	1,001	834	607	1,250	542	472	772	10,118
うち区内	330	1,827	—	1,472	757	680	826	516	1,236	348	461	691	9,144

図表 17 登録団体数＜団体＞

有効登録団体とは、昨年度実際に貸出実績のあった団体のことを示します。

単位：団体

図書館名 項目	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
団体登録数	44	276	27	12	9	19	27	29	7	23	5	478
内数	新規登録団体	4	16	1	2	0	1	0	2	2	2	32
	有効登録団体	17	177	12	7	5	9	15	19	3	11	279
	16 ミリ発声映写機材・ フィルム利用団体	7										7

2 貸出

(1) 個人

貸出資料・機材		貸出数量	貸出期間
図書資料	図書、雑誌、紙芝居、地図等	10 冊以内	2 週間以内
図書機材	紙芝居舞台	必要数	
視聴覚資料	C D ・ カセットテープ ・ レコードあわせて	5 点以内	
	ビデオテープ	2 点以内 (DVDとあわせて利用する場合は1点)	
	D V D	1 点	
視覚障害者 等用資料	録音図書、 点字刊行物	10 点以内	1 か月以内

※貸出中の資料・機材に予約が入っていない場合に限り、貸出の翌日から期限日の当日までの手続きにより、手続きのあった日から更に 2 週間の貸出期間の延長ができます。延長手続きは、最初の貸出日から 4 週間後の日を限度として何度でもできます。

ただし、雑誌・視聴覚資料・都立図書館等から借り受けた資料は延長できません。

※参考調査資料・地図・白書などは貸出できないものもあります。

※図書資料と視覚障害者等用資料の両方の個人貸出しを利用する場合の貸出数量は、合わせて 10 冊（点）以内です。

(2) 団体

貸出資料・機材		貸出数量	貸出期間
図書資料（※ 1）	図書、雑誌、紙芝居、地図等	100 冊以内	1 か月以内
図書機材（※ 1）	紙芝居舞台	必要数	
視聴覚資料	16 ミリ映画フィルム（※ 2）	必要数	3 日以内
	D V D	5 点以内	
視聴覚機材	16 ミリ発声映写機（※ 2）	1 台	
	D V D プレーヤー	1 台	
	プロジェクター	1 台	
	その他の機材	必要数	

※ 1 館が配本サービス事業を実施している区内の小学校、中学校、幼稚園、子ども園、保育園、児童館、区学童クラブ等子どもの育成にかかわる団体及び病院については、図書資料の貸出数量及び貸出期間は 150 冊以内、2 か月以内、図書機材の貸出期間は 2 か月以内です。

※ 2 16 ミリ発声映写機操作資格者のいる団体のみ貸出可能です。

図表 18 自動貸出機貸出数＜個人＞

項目	図書館名	単位	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
貸出数		点	54,390	36,427	91,103	11,858	47,968	32,999	17,350	44,348	21,698	18,300	104,200	480,641
利用延べ人数		人	21,365	9,060	25,146	4,536	12,159	10,103	4,983	13,323	6,871	6,478	28,845	142,869

図表 19 図書資料（雑誌除く） 年代別貸出数＜個人＞

単位：冊

図書館名 項目	中央	こども	区役所 内分室 ※ 2	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
小学生以下	12,294	74,420	0	66,174	39,409	44,943	38,152	23,002	63,744	18,957	14,928	71,850	467,873
中学生	5,080	3,148	0	5,556	2,361	3,090	2,841	1,601	5,543	1,580	2,306	5,475	38,581
高校生	4,430	324	0	2,626	1,509	1,318	1,315	1,720	1,790	935	845	2,284	19,096
学生	11,232	718	1	5,337	2,551	1,394	2,481	1,332	2,752	1,687	1,671	5,423	36,579
一般	212,471	41,546	23	303,480	120,053	123,466	106,258	97,235	182,072	145,410	106,798	238,476	1,677,288
計	245,507	120,156	24	383,173	165,883	174,211	151,047	124,890	255,901	168,569	126,548	323,508	2,239,417
比(%)※ 1	11.0	5.4	0.0	17.1	7.4	7.8	6.7	5.6	11.4	7.5	5.7	14.4	

※ 1 全館の貸出数に占める各館の貸出数の割合

※ 2 区役所内分室の実績には、雑誌の貸出数も含む。

図表 20 図書資料（雑誌除く） 別置別貸出数＜個人＞

本表は、図書資料（雑誌除く）貸出数の内数です。

単位：冊

図書館名 項目	中央	こども	区役所 内分室	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
地域資料 (行政資料・地域 資料マンガ含む)	3,321	139	—	2,304	593	664	511	573	799	757	553	2,151	12,365
洋書	1,118	474	—	2,835	270	467	114	1,039	475	360	2,424	349	9,925
大活字本	624	142	—	133	146	93	972	66	785	154	75	2,291	5,481
ビジネス	4,868	60	—	4,423	1,742	1,357	853	996	2,607	14,793	1,068	2,161	34,928
漫画	1,546	3,520	—	1,602	903	3,037	5,560	2,354	1,470	1,835	2,830	1,809	26,466

図表 21 雑誌 年代別貸出数＜個人＞

単位：冊

図書館名 項目	中央	こども	区役所 内分室 ※ 2	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
小学生以下	765	2,849	—	2,262	1,329	1,221	1,377	723	1,731	393	367	1,482	14,499
中学生	455	227	—	477	192	171	160	128	221	106	35	258	2,430
高校生	174	6	—	143	68	126	129	31	157	128	53	143	1,158
学生	525	9	—	186	103	76	108	55	113	141	101	189	1,606
一般	17,932	2,135	—	21,396	9,884	7,806	8,268	7,094	11,870	11,905	7,553	13,061	118,904
計	19,851	5,226	—	24,464	11,576	9,400	10,042	8,031	14,092	12,673	8,109	15,133	138,597
比(%)※ 1	14.3	3.8	—	17.7	8.4	6.8	7.2	5.8	10.2	9.1	5.9	10.9	

※ 1 全館の貸出数に占める各館の貸出数の割合

※ 2 区役所内分室の実績は、図表 19 に含める。

図表 22 視聴覚資料 年代別貸出数＜個人＞

単位：点

項目		図書館名	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
CD	小学生以下		861	95	1,578	87	297	835	193	232	627	217	1,549	6,571
	中学生		442	26	339	94	164	290	64	132	257	43	575	2,426
	高校生		767	0	323	119	124	98	141	122	296	27	467	2,484
	学生		1,765	0	678	577	73	235	130	366	481	276	585	5,166
	一般		46,457	193	43,547	6,223	7,458	15,382	5,833	8,626	35,764	17,429	39,162	226,074
	計 (A)		50,292	314	46,465	7,100	8,116	16,840	6,361	9,478	37,425	17,992	42,338	242,721
比 (%) ※ 1			71.6	51.2	80.2	83.4	88.0	94.4	85.8	86.1	93.5	95.5	87.8	83.7
カセットテープ	小学生以下		0	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0	6
	中学生		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高校生		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学生		2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	一般		5	0	86	14	8	433	6	7	17	24	18	618
	計 (B)		7	0	86	16	9	437	6	7	17	24	18	627
比 (%) ※ 1			0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	2.4	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2
レコード	小学生以下		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学生		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高校生		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学生		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般		248	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	248
	計 (C)		248	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	248
比 (%) ※ 1			0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
ビデオテープ	小学生以下		43	0	6	3	1	5	3	5	19	0	5	90
	中学生		8	0	1	0	0	1	0	2	0	1	3	16
	高校生		11	0	19	7	2	0	0	1	0	0	0	40
	学生		25	0	1	5	0	0	0	1	0	1	0	33
	一般		1,051	16	157	19	59	8	98	16	150	24	47	1,645
	計 (D)		1,138	16	184	34	62	14	101	25	169	26	55	1,824
比 (%) ※ 1			1.6	2.6	0.3	0.4	0.7	0.1	1.4	0.2	0.4	0.1	0.1	0.6
DVD	小学生以下		2,720	147	1,881	99	117	78	70	116	111	36	1,024	6,399
	中学生		189	11	74	24	37	14	7	17	12	10	65	460
	高校生		169	1	97	25	20	2	12	21	15	9	33	404
	学生		379	0	91	22	4	20	14	37	7	5	26	605
	一般		15,103	124	9,067	1,193	858	437	844	1,310	2,266	746	4,644	36,592
	計 (E)		18,560	283	11,210	1,363	1,036	551	947	1,501	2,411	806	5,792	44,460
比 (%) ※ 1			26.4	46.2	19.3	16.0	11.2	3.1	12.8	13.6	6.0	4.3	12.0	15.3
合計	小学生以下		3,624	242	3,465	191	415	922	266	353	757	253	2,578	13,066
	中学生		639	37	414	118	201	305	71	151	269	54	643	2,902
	高校生		947	1	439	151	146	100	153	144	311	36	500	2,928
	学生		2,171	0	770	604	78	255	144	404	488	282	611	5,807
	一般		62,864	333	52,857	7,449	8,383	16,260	6,781	9,959	38,197	18,223	43,871	265,177
	合計 (A+B+C+D+E)		70,245	613	57,945	8,513	9,223	17,842	7,415	11,011	40,022	18,848	48,203	289,880
	比 (%) ※ 2		24.2	0.2	20.0	2.9	3.2	6.2	2.6	3.8	13.8	6.5	16.6	

※ 1 各館及び全館の貸出数に占める CD、カセットテープ、レコード、ビデオテープ及び DVD の貸出数の割合。

※ 2 全館の貸出数に占める各館の貸出数の割合

(3) 個人貸出ベスト 20

図表 23 貸出ベスト 20

一般書

順位	書名	著者名	貸出数
1	火花	又吉直樹	645
2	危険なビーナス	東野圭吾	644
3	希望荘	宮部みゆき	604
4	人魚の眠る家	東野圭吾	600
4	コンビニ人間	村田沙耶香	600
6	羊と鋼の森	宮下奈都	587
7	蜜蜂と遠雷	恩田陸	583
8	ラプラスの魔女	東野圭吾	582
9	フランス人は10着しか服を持たない ーパリで学んだ“暮らしの質”を高める秘訣	ジェニファー・ L. スコット	543
10	九十歳。何がめでたい	佐藤愛子	542
11	騎士団長殺し 第1部(顕れるアイデア編)	村上春樹	530
12	罪の声	塩田武士	523
13	言ってはいけないー残酷すぎる真実	橘玲	500
14	恋のゴンドラ	東野圭吾	498
15	陸王	池井戸潤	474
16	コーヒーが冷めないうちに	川口俊和	473
17	みかづき	森絵都	465
18	サラバ! 上	西加奈子	463
19	どんなに体がかたい人でもベターッと 開脚できるようになるすごい方法	E i k o	447
20	海の見える理髪店	荻原浩	444

児童書

順位	書名	著者名	貸出数
1	からすのパンやさん	かこさとし/絵・文	289
2	しろくまちゃんのほっとけーき	わかやまけん/〔ほか〕著	275
3	かいけつゾロリの大どろぼう	原ゆたか/さく・え	254
4	かいけつゾロリのだ・だ・だ・ だいぼうけん! 前編	原ゆたか/さく・え	251
5	どうぞのいす	香山美子/作	249
6	おつきさまこんばんは	林明子/さく	248
7	がたんごとんがたんごとん	安西水丸/さく	246
8	かいけつゾロリ イシシ・ノシシ大ピンチ!!	原ゆたか/さく・え	245
9	かいけつゾロリのだ・だ・だ・ だいぼうけん! 後編	原ゆたか/さく・え	242
9	かいけつゾロリ はなよめとゾロリじょう	原ゆたか/さく・え	242
11	こんとあき	林明子/さく	234
12	100万回生きたねこ	佐野洋子/作・絵	231
13	かいけつゾロリの大金もち	原ゆたか/さく・え	225
13	11ぴきのねこ	馬場のぼる/著	225
15	かいけつゾロリのメカメカ 大さくせん	原ゆたか/さく・え	222
15	かいけつゾロリのなぞの おたから大さくせん 前編	原ゆたか/さく・え	222
17	どんぐりむらのだいくさん	なかやみわ/さく	221
18	おばけのてんぷら	せなけいこ/作・絵	220
19	ねないこだれだ	せなけいこ/さく・え	219
19	りんごかもしれない	ヨシタケシンスケ/作	219

CD

順位	タイトル	貸出数
1	葡萄	145
2	Tree	129
3	Fantome	123
4	1989	118
5	君の名は。	112
6	あの日 あの時	105
7	日本の恋と、ユーミンと。	104
7	25	104
9	「アナと雪の女王」オリジナル・サウンドトラッ ク・デラックス・エディションー	102
10	YELLOW DANCER	101
11	All the BEST! 1999-2009:5×10	97
11	いきものばかり〜メンバーズ BEST セレクション〜	97
13	I LOVE YOUー now&foreverー	96
14	福の音	95
15	DREAMS COME TRUE THE BEST! 私のドリカム	94
16	小田日和	91
16	中島みゆき・21世紀ベストセレクション「前途」	91
18	日出処	90
19	Best Always	88
20	宇多田ヒカルのうた 13組の音楽家による13の解釈について	87

DVD

順位	タイトル	貸出数
1	永遠の0	81
2	レ・ミゼラブル	66
3	おおきなきかんしゃヘンリーとゴードン ーはじめましてトーマスシリーズ	61
4	ショーシャンクの空に	56
5	砂の器 デジタルリマスター2005	55
6	ツリー・オブ・ライフ	54
6	ベイマックス	54
8	トゥルー・クライム 特別版	53
8	舟を編む	53
8	アルゴ	53
8	ベンジャミン・バトン数奇な人生	53
12	ものすごくうるさくて、ありえないほど近い	52
12	マイ・インターン	52
12	6才のボクが、大人になるまで。	52
15	ティファニーで朝食を ー The AUDREY HEPBURN COLLECTION	51
15	七人の侍 上下 ー AKIRA KUROSAWA THE MASTERWORKS	51
17	テルマエ・ロマエ	50
17	図書館戦争	50
17	アナと雪の女王	50
20	ツレがうつになりまして	49
20	超高速! 参勤交代	49

3 予約・相互貸借

区内図書館の所蔵資料は、窓口・電話・WebOPAC 及び館内 OPAC から予約できます。

予約した資料が貸出中の場合、返却され受取館に用意でき次第連絡します。

予約を希望する資料が、区内図書館に所蔵がない場合、窓口でのみ予約できます。

上記資料は新規購入のほか、都立図書館からの借り受け、都内他区市町村図書館からの相互貸借により提供します。(相手館の都合により提供できない場合があります。)

図表 24 提供手段別予約対応数

単位：点

項目	図書館名	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
受付数		121,077	11,847	156,506	77,863	62,825	48,531	53,279	118,569	106,357	49,589	95,004	901,447
内訳	所蔵資料を提供	119,106	11,705	154,795	76,931	62,206	47,725	52,035	117,493	105,217	48,710	93,648	889,571
	購入して提供	821	10	788	353	210	336	598	514	621	301	552	5,104
	他から借用して提供※ 1	1,150	132	923	579	409	470	646	562	519	578	804	6,772
比 (%) ※ 2		13.4	1.3	17.4	8.6	7.0	5.4	5.9	13.2	11.8	5.5	10.5	

※ 1 内訳は、「図表 26 相互貸借数」に掲載。

※ 2 全館の予約数に占める各館の予約数の割合。

図表 25 受付方法・年代別予約受渡点数

単位：点

項目	図書館名	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
カウンター (電話含む)	小学生以下	1,379	1,146	1,827	756	867	959	705	1,263	655	428	1,610	11,595
	中学生	238	63	206	82	94	162	113	225	60	92	136	1,471
	高校生	87	2	192	31	50	41	55	75	31	95	63	722
	学生	252	4	308	40	27	136	54	98	60	111	165	1,255
	一般	12,206	1,387	13,834	5,047	5,143	4,981	7,402	7,699	6,461	7,639	8,201	80,000
	計	14,162	2,602	16,367	5,956	6,181	6,279	8,329	9,360	7,267	8,365	10,175	95,043
OPAC	小学生以下	500	1,001	779	864	769	1,169	414	1,646	466	72	1,469	9,149
	中学生	349	73	375	196	191	145	309	440	210	50	523	2,861
	高校生	248	2	128	69	169	76	32	113	38	48	201	1,124
	学生	286	0	79	72	28	40	1	39	66	86	143	840
	一般	3,746	388	3,470	2,180	2,524	1,903	857	4,168	3,041	1,505	4,147	27,929
	計	5,129	1,464	4,831	3,381	3,681	3,333	1,613	6,406	3,821	1,761	6,483	41,903
WEB	小学生以下	6,251	3,913	8,202	4,338	5,178	4,103	3,571	11,812	2,216	1,253	6,236	57,073
	中学生	1,992	260	1,147	1,012	878	996	498	1,973	348	570	910	10,584
	高校生	1,933	2	502	783	620	738	846	1,007	554	233	719	7,937
	学生	3,701	3	1,316	1,626	496	611	565	1,847	919	458	1,309	12,851
	一般	87,909	3,603	124,141	60,767	45,791	32,471	37,857	86,164	91,232	36,949	69,172	676,056
	計	101,786	7,781	135,308	68,526	52,963	38,919	43,337	102,803	95,269	39,463	78,346	764,501
合計	小学生以下	8,130	6,060	10,808	5,958	6,814	6,231	4,690	14,721	3,337	1,753	9,315	77,817
	中学生	2,579	396	1,728	1,290	1,163	1,303	920	2,638	618	712	1,569	14,916
	高校生	2,268	6	822	883	839	855	933	1,195	623	376	983	9,783
	学生	4,239	7	1,703	1,738	551	787	620	1,984	1,045	655	1,617	14,946
	一般	103,861	5,378	141,445	67,994	53,458	39,355	46,116	98,031	100,734	46,093	81,520	783,985
	計	121,077	11,847	156,506	77,863	62,825	48,531	53,279	118,569	106,357	49,589	95,004	901,447
比 (%) ※		13.4	1.3	17.4	8.6	7.0	5.4	5.9	13.2	11.8	5.5	10.5	

※予約総数に占める各館の予約数の割合。

図表 26 相互貸借数

単位：点

図書館名		中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
他自治体への貸出	23区へ	1,827	61	538	387	229	476	278	270	589	485	512	5,652
	多摩地区へ	80	4	206	25	13	28	26	15	34	38	34	503
	他県その他へ	4	0	3	0	0	2	3	0	1	5	0	18
	合計	1,911	65	747	412	242	506	307	285	624	528	546	6,173
他自治体から借用	都立から	86	2	31	53	19	24	40	38	26	8	43	370
	23区から	1,006	129	855	493	365	432	575	515	472	543	710	6,095
	多摩地区から	36	1	30	20	25	13	28	9	19	17	42	240
	他県から	15	0	0	0	0	1	1	0	2	2	4	25
	国会	7	0	7	13	0	0	2	0	0	8	5	42
	大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	1,150	132	923	579	409	470	646	562	519	578	804	6,772

4 複写

調査研究のために必要がある時は、著作権法の範囲内等で、図書館資料の一部のコピーが可能です。(実費)

図表 27 複写枚数

単位：枚

図書館名		中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
複写枚数		67,061	1,805	33,314	5,080	2,901	6,925	4,866	7,078	22,807	9,353	12,807	173,997

5 レファレンス（調べものの相談）

図書館利用者からの様々な相談に対して、求められている情報や資料などを、図書館員と一緒に探したり、探し方のアドバイスをする、または資料を提供、提示するなどの方法で課題解決に向けて支援することを目的として行っています。

新宿区では、平成 20 年度から《ご相談コーナー》を全館に配置し、インターネットや商用データベース（各種新聞データベース、法律情報データベースなど）が利用できる専用カウンターで職員が調べもののお手伝いをしております。電話でのレファレンスも受け付けています。

相談内容は、整理、分析し、一部については、新宿区立図書館ホームページに内容と回答のみレファレンス事例紹介として掲載しています。

図表 28 レファレンス受付件数

単位：件

項目 \ 図書館名	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
受付件数	1,605	1,182	2,610	2,055	1,176	4,025	1,188	952	1,345	1,257	2,568	19,963

6 読書案内（企画資料展示）

本表は、図書資料（雑誌除く）の所蔵数の内数であり、主な別置資料を集計したものです。

図表 29 読書・視聴覚案内件数

項目 \ 図書館名	単位	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
読書・視聴覚案内 （企画資料展示）	回	12	25	51	55	40	24	54	25	42	38	39	405
展示延べ日数	日	503	1,927	1,739	2,261	1,114	1,151	1,710	780	1,137	1,020	2,035	15,377
展示資料合計	点	1,353	1,939	5,834	3,093	4,757	1,680	2,292	1,454	2,430	2,222	2,067	29,121
貸出資料合計	点	2,057	4,181	9,499	4,991	6,912	2,739	2,460	4,061	3,028	2,564	3,657	46,149
資料回転率 ※	%	1.52	2.16	1.63	1.61	1.45	1.63	1.07	2.79	1.25	1.15	1.77	1.58

※「貸出資料合計」÷「展示資料合計」。

7 ICT を利活用したサービス

(1) 電子資料

①商用データベース

商用データベースとは、図書館がデータベース提供会社に賃借料を支払うことによって、利用者が無料で利用できるデータベースを指します。

新宿区立図書館では、新聞記事、百科事典、法律情報、ビジネス情報、科学技術文献等のデータベースが館内の利用者用パソコンから利用できます。(一部プリント可。有料)

②地域資料データベース

「新宿区ゆかりの人物」「新宿区史」「地域資料探検隊」「夏目漱石関連図書」等の地域資料データベースをインターネットで公開しています。

③国立国会図書館デジタル化資料

中央図書館で国立国会図書館デジタル化資料を閲覧できます。国会図書館が所有する貴重書や江戸期・清代以前の和漢書等で、国立国会図書館がデジタル化した図書や雑誌のうち、絶版などで現在手に入らないもの（平成30年1月現在、約150万点）を中央図書館のパソコンで検索し、本文や図画を閲覧できます。

なお、デジタル画像データのダウンロードや保存、USBメモリ等へのコピーはできません。複写をご希望の場合は、著作権法等の範囲内で館内コピー機（有料）にて複写サービスの提供を行っています。また、本サービスを利用できる方は、新宿区立図書館の利用者カードをお持ちの方（本人のみ、長期延滞者を除く）です。

【実績】利用延べ人数 74人 複写回数 105回

(2) 資料検索

新宿区立図書館のホームページで所蔵資料の検索や予約、利用者自身による貸出や予約状況の確認ができます。

図表 30 ホームページアクセス件数
(webOPACのキーワード検索の総ページビュー数)

年度 項目	単位	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
アクセス数	件	24,130,141	28,328,441	24,540,577	35,520,951	29,318,704

※平成27年度については、データが破損した7月3日～9月19日の数値を除く。

※平成29年度については、平成30年1月14日にホームページをリニューアルしたため、平成29年12月26日までの実績である。

(3) 利用者用パソコン

調査研究のために必要なホームページや商用データベースの閲覧が可能です。(1回30分まで)(音楽CDやDVDの鑑賞及び画面のプリントは不可。)中央図書館では、国立国会図書館デジタル化資料及び歴史的音源の利用が可能です。

(4) パソコン利用席・公衆無線LAN

中央・四谷・西落合・角筈・下落合図書館に、利用者自身のパソコンを持ち込んで利用できる席(パソコン用電源あり)を設置しています。また、区役所区分室を除く全館で館内所定アクセスポイントからインターネットに接続可能です。

8 ビジネス情報支援

中小企業診断士の協力を得て、実践的な起業・経営改善などの相談に無料で応じることにより、図書館利用者の幅広いビジネス情報の収集・活用のニーズに応えています。

図表 31 ビジネス情報支援相談日及び実績

図書館名	項目 相談日	実績	
		受付（件）	相談（件）
中 央	原則毎月第3土曜日	16	12
	午後1時～5時		
角 筈	原則毎月第4水曜日	21	16
	午後4時～8時		

9 児童サービス

(1) 啓発事業

①新刊リスト

幅広い年齢層に対して推薦図書を紹介できるように、ひらがな・漢字等の難易度を4種類にわけた「クローバー（小学生向け）」と「Clover（中学生向け）」を作成しています。

②この本知ってる？

新宿区立図書館ホームページのコンテンツである「こどもページ」内で、子どもたちが読書意欲を高める本を紹介しています。

(2) 読書活動の支援（集会・行事サービス）

演劇会・人形劇会、映画会、おはなし会、工作会などの各種集会・行事を実施しています。

図表 32 集会・行事サービス実績＜児童のみ＞

項目	図書館名	単位	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
映画会	実施回数	回	0	3	3	4	2	0	2	2	2	4	2	24
	参加人数	人	0	100	131	61	52	0	47	81	76	96	61	705
	1回平均	人	0.0	33.3	43.7	15.3	26.0	0.0	23.5	40.5	38.0	24.0	30.5	29.4
演劇会、 人形劇会	実施回数	回	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	9
	参加人数	人	0	114	45	0	47	100	33	55	67	86	55	602
	1回平均	人	0.0	114.0	45.0	0.0	47.0	100.0	33.0	55.0	67.0	86.0	55.0	66.9
講演会	実施回数	回	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
	参加人数	人	0	36	27	0	0	23	0	0	0	0	0	86
	1回平均	人	0.0	18.0	27.0	0.0	0.0	23.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.5
おはなし会	実施回数	回	0	326	103	143	57	72	96	91	100	81	58	1,127
	参加人数	人	0	4,826	1,891	1,249	1,408	686	825	1,446	1,352	723	1,026	15,432
	1回平均	人	0.0	14.8	18.4	8.7	24.7	9.5	8.6	15.9	13.5	8.9	17.7	13.7
うち外国語の お話し会	実施回数	回	0	3	4	0	2	4	3	6	6	32	2	62
	参加人数	人	0	72	95	0	93	134	33	79	51	390	59	1,006
	1回平均	人	0.0	24.0	23.8	0.0	46.5	33.5	11.0	13.2	8.5	12.2	29.5	16.2
工作会	実施回数	回	0	0	8	5	2	1	4	2	1	1	3	27
	参加人数	人	0	0	103	44	81	17	134	37	19	25	45	505
	1回平均	人	0.0	0.0	12.9	8.8	40.5	17.0	33.5	18.5	19.0	25.0	15.0	18.7
かがくあそび・ お楽しみ会・ その他	実施回数	回	0	9	10	22	10	2	7	19	9	5	10	103
	参加人数	人	0	991	214	751	240	100	86	835	57	581	248	4,103
	1回平均	人	0.0	110.1	21.4	34.1	24.0	50.0	12.3	43.9	6.3	116.2	24.8	39.8
合計	実施回数	回	0	341	126	174	72	77	110	115	113	92	74	1,294
	参加人数	人	0	6,067	2,411	2,105	1,828	926	1,125	2,454	1,571	1,511	1,435	21,433
	1回平均	人	0.0	17.8	19.1	12.1	25.4	12.0	10.2	21.3	13.9	16.4	19.4	16.6

●集会・行事サービス 実施内容

図表 33 演劇会、人形劇会

日 付	図書館名	作品名	参加者数
5 月 7 日(日)	こども	「町のねずみといなかのねずみ」 (人形劇団オフィスやまいも)	114
6 月 4 日(日)	大久保	「ぼえむぼえむ」「がまくんとかえるくん」 (人形劇団ポポロ)	86
6 月 10 日(土)	西落合	「くいしんぼうのみーちゃん」「おむすびころりん」 (人形劇団オフィスやまいも)	47
6 月 18 日(日)	四谷	「うしろの正面なあんだ」(劇団風の子)	45
7 月 16 日(日)	角筈	「ハリネズミと金貨」「ちいさなちいさな人形劇」 (人形劇団プーク)	67
9 月 10 日(日)	下落合	「ハリネズミと金貨」「ちいさなちいさな人形劇」 (人形劇団プーク)	55
9 月 17 日(日)	中町	「ハリネズミと金貨」「ちいさなちいさな人形劇」 (人形劇団プーク)	55
11 月 26 日(日)	北新宿	「ジャックと豆の木」(人形劇団ピコット)	33
12 月 23 日(土)	戸山	「三びきのやぎのがらがらどん」 (人形劇団プーク)	100
合計			602

図表 34 講演会

日 付	図書館名	講 師	内 容	参加者数
10 月 8 日(日)	戸山	戸山図書館職員	本と絵本の講座 「ちいさな子どもを持つ親のための絵本選び講座」	23
10 月 28 日(土)	こども	平田昌広・平田景	作家の講演会「まっさんとけいちゃんの絵本ライブ」	27
11 月 2 日(木)	こども	野崎真由美	本と絵本の講座「みんなで読書を楽しもう！」	9
12 月 17 日(日)	四谷	日本介助犬協会	知ってる？バリアフリー「介助犬のお仕事」	27
合計				86

(3) 他の図書館、学校その他教育機関等との相互協力

①団体利用

学習活動を目的として、授業時間中に学年・クラス単位で来館する団体を受け入れしています。

②図書館見学

図書館の案内、利用方法の説明などを来館団体に行っています。

③学校（施設）訪問

学校・施設に出向いて「読み聞かせ」「ブックトーク」等の事業を行っています。

④職場体験学習

児童・生徒を対象に図書館の様々な仕事を体験できるプログラムを実施しています。

⑤学習支援

学校等からの依頼を受け、調べ学習の資料等を準備し、団体貸出を行っています。

なお、こども図書館には学習支援配本による団体貸出も含まれます。

⑥病院サービス

区内の4病院と協定を結び、入院中の児童向けの図書を選定して各月に団体貸出サービスを提供しています。(こども図書館のみ)

また、出張おはなし会も実施しています。(戸山図書館のみ)

図表 35 他の図書館、学校その他教育機関等との相互協力<児童のみ>

図書館			項目	単位	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
①団体 利用	幼稚園・ 子ども園	延べ団体数	団体	0	2	0	3	0	2	0	19	0	8	0	34	
		延べ利用者数	人	0	37	0	90	0	57	0	513	0	215	0	912	
	保育園	延べ団体数	団体	0	23	9	39	0	16	0	6	0	0	28	12	
		延べ利用者数	人	0	151	74	440	0	355	0	145	0	0	366	1,531	
	小学校	延べ団体数	団体	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	4	
		延べ利用者数	人	0	0	0	0	50	0	14	0	0	0	0	64	
	その他	延べ団体数	団体	0	5	2	1	0	25	0	5	0	0	1	39	
		延べ利用者数	人	0	49	3	2	0	338	0	12	0	0	6	410	
	計	延べ団体数	団体	0	30	11	43	2	43	2	30	0	8	29	198	
		延べ利用者数	人	0	237	77	532	50	750	14	670	0	215	372	2,917	
②図書館見学		団体数	団体	0	3	1	3	5	4	0	3	1	4	5	29	
		人数	人	0	143	9	58	156	156	0	167	43	78	212	1,022	
③学校（施設） 訪問		延べ施設数	校・園・館	0	3	4	8	14	1	12	2	4	22	1	71	
		人数	人	0	77	244	387	790	126	731	134	54	673	61	3,277	
④職場 体験	小学6年生	学校数	校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		人数	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中学 1～3年生	学校数	校	0	2	2	1	1	3	1	2	5	2	1	20	
		人数	人	0	6	5	9	9	21	1	15	8	7	4	85	
	高校 1～3年生	学校数	校	0	1	1	0	0	1	0	1	4	1	0	9	
		人数	人	0	8	1	0	0	5	0	1	4	9	0	28	
	計	学校数	校	0	3	3	1	1	4	1	3	9	3	1	29	
		人数	人	0	14	6	9	9	26	1	16	12	16	4	113	
⑤学習支援		延べ団体数	団体	0	385	3	0	1	0	0	51	1	1	2	444	

図表 36 病院サービス実績

貸出先	貸出回数	貸出冊数
東京女子医科大学病院 ※1	20	1,243
国立国際医療研究センター病院	6	507
東京医科大学病院	6	566
東京山手メディカルセンター	6	607
合計 ※2	38	2,923

※1 院内4病棟に貸出しているため、貸出回数は延べ回数。

※2 病院への出張おはなし会の実績は、「図表 32 集会・行事サービス実績<児童のみ>」に掲載。

⑦図書館を使った調べる学習コンクール

「図書館を使った調べる学習コンクール」は図書館利用の促進と調べる学習の普及、及び地域の活性化を促すことを目的として、近年教育現場で求められている「自己解決能力の育成」を地域の公共図書館として支援していく取組です。

図表 37 図書館調べる学習コンクール実績

地域コンクール（第 9 回） 主催：新宿区教育委員会 新宿区立図書館

項目 図書館名	参加校数				応募数				表彰数			
	小	中	高	合計	小	中	高	合計	館長賞	優秀賞	奨励賞	合計
四谷	5	1	0	6	142	1	0	143	3	2	17	22
鶴巻	3	2	1	6	338	12	6	356	2	3	31	36
西落合	3	1	0	4	187	90	0	277	3	2	22	27
戸山	3	1	1	5	285	90	59	434	5	4	32	41
北新宿	5	0	0	5	265	0	0	265	3	2	22	27
中町	5	0	0	5	526	0	0	526	3	4	43	50
角筈	2	1	1	4	119	11	3	133	4	4	5	13
大久保	3	1	0	4	106	145	0	251	3	1	21	25
下落合	3	0	0	3	325	0	0	325	3	3	26	32
合計	32	7	3	42	2,293	349	68	2,710	29	25	219	273

※館長賞及び優秀賞の作品は全国コンクールへ出品される。

全国コンクール（第 21 回） 主催：（公財）図書館振興財団

	新宿区	全国	
入賞	1 作品	32 作品	3 団体
優良賞	4 作品	141 作品	0 団体
奨励賞	10 作品	249 作品	0 団体
佳作	39 作品	1,209 作品	0 団体
合計	54 作品	1,631 作品	3 団体

※全国コンクール応募作品総数 91,908 作品

10 視覚障害者等サービス

視覚等に障害のある方、活字を読むことが困難な方に、録音図書等の貸出や対面朗読等の視覚障害者等サービスを実施しています。

(1) 録音図書製作・貸出等

希望する図書をカセットテープや DAISY で製作し、貸出します。(実施館：戸山図書館)

図表 38 視覚障害者等サービス所蔵資料数・貸出数等

①所蔵資料数

単位：タイトル

	録音資料															
	テープ図書			テープ雑誌			DAISY 図書			マルチメディア DAISY 図書			DAISY 雑誌			合計
	作成	寄贈	購入	作成	寄贈	購入	作成	寄贈	購入	作成	寄贈	購入	作成	寄贈	購入	
総数	561	0	116	0	0	0	501	13	148	0	36	45	0	136	0	1,556
うち、平成 29 年分	2	0	0	0	0	0	70	0	10	0	4	0	0	24	0	110

	点字資料						
	点字図書			点字雑誌			合計
	作成	寄贈	購入	作成	寄贈	購入	
総数	0	45	0	0	50	0	95
うち、平成 29 年分	0	0	0	0	2	0	2

大活字本 (点)※ 1	拡大写本	点字絵本	さわる 絵本	その他
2,971	31	21	2	50
12	0	4	0	5

※ P12 大活字本 再掲

②所蔵機材数 デイジー再生用機器 17 台

③利用登録者数 124 人

④貸出・相互貸借数

単位：タイトル

個人貸出						相互貸借										
録音資料						貸出						借受				
テープ	DAISY	マルチ メディア DAISY	点字 資料	その他	合計	テープ	DAISY	マルチ メディア DAISY	点字	その他	合計	テープ	DAISY	マルチ メディア DAISY	点字	その他
383	2,661	2	31	204	3,281	9	577	0	0	0	586	141	1,037	0	0	0
																1,178

(2) 対面朗読

希望する図書をボランティアが朗読します。対象は、区内在住・在勤・在学で視覚による表現の認識に障害がある方です。(実施館：中央、四谷、鶴巻、西落合、戸山、下落合図書館)

【利用実績】 95 回

(3) 資料変換者

45 名（音訳者 33 名・デイジー編集者 11 名・テキスト化 1 名）

平成 29 年度は、資料変換者に対し音訳者レベルアップ講習会（1 回）を実施しました。また、平成 29 年度より開始したテキスト化事業のためのテキスト化講習会（2 回・個別講習は 7 回）を実施しました。

(4) 声の図書館だより製作（年 6 回）

平成 29 年度は、点字図書館のイベント情報や講習会他、図書館からのお知らせを録音し、カセットテープ版を 139 名、デイジー版を 181 名、SD カード版を 31 名に配付しました。

(5) その他

全館に設置しているインターネット閲覧席にて、マルチメディアデイジーの閲覧サービスを行っています。また、戸山図書館には、貸出用のマルチメディアデイジーを 81 タイトル所蔵しています。

11 図書館への来館が困難な方へのサービス（家庭配本サービス）

各図書館では、図書館への来館が困難な身体障害者等を対象に、希望の資料を自宅まで配本及び受け取るサービスを実施しています。配本は原則月 2 回まで、貸出点数は 1 回図書等 10 冊、視聴覚資料 7 点までです。（実施館：区役所内分室を除く各館）

図表 39 家庭配本サービス実績

図書館名 項目	単位	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
登録人数	人	6	0	15	7	6	14	11	15	0	9	7	90
配本延べ回数	回	50	0	169	7	76	72	56	108	0	98	79	715
資料点数	点	215	0	472	28	426	343	287	555	0	460	383	3,169

12 集会・行事サービス

映画会、講演会等の集会・行事を開催しています。

図表 40 集会・行事サービス実績＜児童除く＞

項目	図書館名	単位	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
映画会	実施回数	回	20	0	0	2	0	7	1	3	4	0	5	42
	参加人数	人	1,277	0	0	23	0	446	11	58	114	0	130	2,059
	1回平均	人	63.9	0.0	0.0	11.5	0.0	63.7	11.0	19.3	28.5	0.0	26.0	49.0
講演会、その他	実施回数	回	7	2	21	16	12	17	35	12	12	12	20	166
	参加人数	人	140	46	580	334	277	618	667	307	185	611	325	4,090
	1回平均	人	20.0	23.0	27.6	20.9	23.1	36.4	19.1	25.6	15.4	50.9	16.3	24.6
合計	実施回数	回	27	2	21	18	12	24	36	15	16	12	25	208
	参加人数	人	1,417	46	580	357	277	1,064	678	365	299	611	455	6,149
	1回平均	人	52.5	23.0	27.6	19.8	23.1	44.3	18.8	24.3	18.7	50.9	18.2	29.6

※児童サービスにおける実績は、「Ⅱ－第2－9 児童サービス 図表 32」に掲載。

●中央図書館における集会・行事サービス

図表 41 映画のタベ

(原則として奇数月の第3金曜日 午後6時～ 会場：コズミックセンタープラネタリウム)

上映月日	上映作品	入場者数 (人)
5月19日	たそがれ清兵衛 (日本語音声・日本語字幕)	65
7月21日	あの子を探して (中国語音声・日本語字幕)	62
9月15日	サイコ (1960年版) (英語音声・日本語字幕)	69
11月17日	舟を編む (日本語音声・聴覚障がい者用日本語字幕)	78
1月19日	やさしい本泥棒 (英語音声・日本語字幕)	73
3月16日	グランド・ブダペスト・ホテル (英語音声・日本語字幕)	78
平均入場者数 (総入場者数 425 人 / 6 回) 70.8 人		425

図表 42 水曜上映会

(原則として毎月第2週水曜日 午後2時～ 会場:コズミックセンタープラネタリウム)

上映月日	上映作品	入場者数
4月12日	太陽の罌 Vol. 1 (日本語音声)	60
5月10日	太陽の罌 Vol. 2 (日本語音声)	62
6月14日	北朝鮮強制収容所に生まれて (朝鮮語・英語音声・日本語字幕)	97
7月12日	蟬しぐれ (日本語音声・日本語字幕)	82
8月9日	完全版 明治神宮不思議の森 (日本語音声)	68
9月13日	いぬのえいが (日本語音声・日本語字幕)	51
10月11日	蛇蠍のごとく 上巻 (日本語音声)	87
11月8日	蛇蠍のごとく 下巻 (日本語音声)	75
12月13日	ハーブ&ドロシー ふたりからの贈りもの (英語音声・日本語字幕)	70
1月10日	一命 (日本語音声・バリアフリー字幕)	60
2月14日	終わらない人 宮崎駿 (日本語音声・日本語字幕)	54
3月14日	抱く{HUG} 女性監督による3.11と出産をめぐるドキュメンタリー (日本語音声)	33
平均入場者数 (総入場者数 799 人 /12 回) 66.5 人		799

図表 43 講座

実施月日	内 容	参加者数
9月30日(土)	図書館講座 (地域資料関係) 「大人のための朗読会 声優が読む漱石とその弟子たち」	38
10月7日(土)	図書館講座「映画づくりとまちづくり」	26
12月1日(金)・ 12月3日(日) (計3回実施)	図書館講座「楽しく学ぶiPad! ～あなたの「図書館」 世界が広がります」	41
12月23日(土)	図書館講座「最新考古学講座」	26
2月7日(水)	図書館講座 (ビジネス情報支援講演会) 「私らしい生き方働き方を考える～出たり入ったり キャリアのススメ～」	9
合 計		140

13 平和事業

毎年 8 月に、平和啓発事業の一環として、関連図書の展示・貸出、目録作成・配布、平和映画会等を行っています。
 (「12 集会・行事サービス」の内数です。)

図表 44 戦争と平和に関する資料の展示・貸出及び目録作成

図書館名	展示資料点数			貸出資料 点数	目録冊数	
	一般書等	児童書	合 計		配布／作成	
中央	278	0	278	249	95	130
こども	0	131	131	116	19	85
四谷	65	12	77	48	5	20
鶴巻	43	52	95	70	34	40
西落合	93	106	199	186	13	26
戸山	98	68	166	143	39	40
北新宿	161	60	221	69	79	100
中町	71	60	131	196	9	10
角筈	22	29	51	42	2	10
大久保	35	15	50	21	8	15
下落合	46	23	69	90	25	40
合計	912	556	1,468	1,230	328	516

※ 7 月 21 日 (金) ～ 8 月 27 日 (日) 全館で実施。(一部の館を除く)

図表 45 平和映画会

図書館名	項目	実施月日	上映作品	入場者数
中央		8 月 3 日(木)	NHK スペシャル カラーでみる太平洋戦争 ～ 3 年 8 か月・日本人の記録～ (日本語音声)	32
		8 月 5 日(土)	NHK スペシャル 特攻～なぜ拡大したのか～ (日本語音声)	21
こども		8 月 4 日(金)	ウミガメと少年 (日本語音声)	21
戸山		8 月 13 日(日)	禁じられた遊び (仏語音声・日本語字幕)	44
北新宿		8 月 5 日(土)	自転車泥棒 (英語音声・日本語字幕)	11
下落合		8 月 6 日(日)	大いなる幻影 (仏語音声・日本語字幕)	18
全会場合計			6 本 6 回上映	147

図表 46 その他のイベント

図書館名	項目	実施月日	内容	参加者数
四谷		8 月 26 日 (土)	平和おはなし会	10
鶴巻		7 月 30 日 (日)	おりがみ教室～平和を願いツルとハトを折る	9
西落合		8 月 19 日 (土)	ひとり読み語りしばい「父と暮せば」	9
戸山		8 月 12 日 (土)	平和おはなし会	9
		8 月 16 日 (水)		2
北新宿		8 月 19 日 (土)	平和講演会「写真で伝える世界、東北の今」	26
大久保		8 月 5 日 (土) (2 回実施)	平和を祈る朗読会 学童疎開船対馬丸遭難からチロヌップのきつね	21
下落合		8 月 2 日 (水)	平和おはなし会	7
		8 月 9 日 (水)		7

14 夏目漱石関連事業、東京 2020 オリンピック・パラリンピック

(1) 夏目漱石関連事業

新宿区立図書館では、平成 29 年 9 月の漱石山房記念館の開館にあたり、区民や多くの漱石ファンにとって繰り返し訪れていただけるような魅力的な記念館の PR をするとともに、夏目漱石の作品により親しんでもらえるようイベントを開催しました。

(「6 読書案内(企画資料展示)」・「12 集会・行事サービス」の内数です。)

図表 47 夏目漱石関連事業

図書館名	項目	実施月日 (期間)	展示・イベント名
中央		9 月 30 日 (土)	漱石山房記念館開館記念イベント 「大人のための朗読会 声優が読む漱石とその弟子たち」
四谷		8 月 11 日 (金)～ 9 月 13 日 (水)	展示「作家になる前の夏目漱石」
鶴巻		4 月 1 日 (土)～ 3 月 31 日 (土)	平成 29 年度 鶴巻図書館「夏目漱石」常設資料展示
			児童作家常設展示「夏目漱石」
西落合		9 月 1 日 (金)～ 10 月 20 日 (金)	特別展示「漱石山房記念館開館記念 漱石と木曜会の作家たち」
戸山		9 月 9 日 (土)	第 25 回 朗読で味わう文学 こうばこの会～夏目漱石特集
北新宿		8 月 18 日 (金)～ 10 月 18 日 (水)	図書展示「こころに漱石」
中町		10 月 14 日 (土)～ 11 月 3 日 (金)	神楽坂まち飛びフェスタ 2017 夏目漱石のしおり配布
			ミニ展示「夏目漱石と神楽坂」
角筈		9 月 1 日 (金)～	夏目漱石と弟子たち (展示)
		9 月 23 日 (土)	ビブリオバトル「ソーセキ」
大久保		8 月 29 日 (火)～ 10 月 9 日 (月)	多文化展示 Around the World ～ special issue ～ 世界の Soseki
下落合		9 月 5 日 (火)～ 10 月 29 日 (日)	漱石山房記念館開館記念！ 特別展示「夏目漱石作品への招待状」

(2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック

新国立競技場の所在自治体の図書館として、利用者の東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの期待や理解を広め、図書館の利用促進を図るため、関連資料の収集及び企画展示等を行っています。

29 年度資料収集点数 51 (中央図書館)

15 他の図書館、学校その他教育機関等との相互協力

(1) 大学図書館との連携

新宿区は、区内の大学図書館と区立図書館が相互協力を進め、東京富士大学、目白大学新宿図書館、早稲田大学（教育・総合科学学術院図書施設）、学習院女子大学の 4 大学と図書館連携をすることで合意し、覚書に調印しています。

ア 各大学図書館の概要

(ア) 東京富士大学（図書館）

特に経済・経営に関する図書や資料が充実しており、蔵書は約 17 万冊あります。

(イ) 目白大学（新宿図書館）

心理学や英米文学に関する図書を中心に、蔵書は約 27 万冊あります。

(ウ) 早稲田大学（教育・総合科学学術院図書施設）

教育学部学生読書室（全分野にわたり蔵書は約 6 万冊）と、教育学部教員図書室（教科書・指導書などを中心に、蔵書は約 5 万冊 ※開架のみ）が利用できます。

(エ) 学習院女子大学（図書館）

全分野にわたり約 21 万冊の蔵書があり、その中には、故富永惣一学習院名誉教授所蔵の美術関係図書をもとに構成された富永文庫もあります。

イ 利用方法・内容

新宿区に住所を有する満 20 歳以上の新宿区立図書館の利用登録者で、資料の延滞や紛失がなく、研究テーマ等を持つ方（学習院女子大学は原則女性のみです）が、年間登録料（各大学により異なり、東京富士大学は無料です）を納めて利用申し込みをすることにより、利用ができます。新宿区立図書館は、大学図書館が求める区立図書館所蔵の郷土資料・地域資料・行政資料等の貸し出しに応じます。

利用できるサービスは次のとおりです。（各大学図書館の規程による）

(ア) 館内閲覧（閲覧席の利用）

(イ) 館外貸出（1 回に 5 冊まで、期間は 2 週間）

※早稲田大学（教育・総合科学学術院図書施設）では実施していません。

(ウ) 所蔵資料利用のためのレファレンス

(エ) コンピューターによる検索

(オ) 複写（有料・著作権法の範囲内）

※上記の 4 大学以外の図書館への紹介状の発行も行っています。

(2) 訪問（出張サービス）

施設に出向いて読み聞かせ等の事業を行っています。

(3) 見学

図書館の案内、利用方法の説明などを来館団体（他区市町村立図書館等）に行っています。

(4) 実習

専門学校生等の体験実習を受け入れます。

(5) 司書（補）講習・インターンシップ研修

図書館司書（補）資格取得及びインターンシップ研修等のため一定期間実習生を受け入れます。

図表 48 他の図書館、学校その他教育機関等との相互協力＜一般＞

図書館名			単位	中央	こども	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
(1) 大学図書館	協定大学	登録 手続き 件数	件	9	0	1	4	8	0	0	0	0	0	8	30
	東京富士大学			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
	目白大学			1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	3	11
	早稲田大学			6	0	0	4	1	0	0	0	0	0	2	13
	学習院女子大学			1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	協定外大学	紹介状 発行件数	件	3	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	8
(2) 訪問(出張)サービス			提供回数	回	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4
			延べ参加人数	人	0	77	0	0	3	0	0	0	0	0	80
(3) 見学			受入回数	団体	4	3	0	0	1	0	0	3	19	2	32
			延べ人数	人	58	143	0	0	73	0	0	6	93	50	423
(4) 実習			受入回数	回	0	4	0	9	1	1	0	0	0	0	15
			延べ人数	人	0	36	0	19	9	1	0	0	0	0	65
(5) 司書（補）講習・インターンシップ研修			受入回数	回	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
			延べ人数	人	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
(6) その他			人	0	0	3	1	0	3	0	0	2	130	0	139

※児童サービスにおける実績は、「Ⅱ－第2－9 児童サービス 図表 35」に掲載。

16 会議室の利用

図書館事業に関連する会議・研究会及び催物、区内の社会教育関係団体等の会議・講演会及び催物などに利用できます。（営利事業及び音のする行為、音楽演奏等は不可。）

利用資格は、区民が代表で、図書館業務及び社会教育に関連した団体（例：読書グループ、社会教育団体）です。

申込期間は、利用日の1か月前から（図書館事業等による使用日以外の日）です。

17 16 ミリ発声映写機関連

図書館の16ミリ映画フィルムや映写機を図書館の登録団体が利用するためには、その団体に映写機操作講習を修了した方が在籍していることが必要です。16ミリ発声映写機の修了証を取得するための講習会と、使用する映写機が適正であることを確かめる検定を実施しています。また、修了証をお持ちの方には練習の機会を設けています。

図表 49 16 ミリ発声映写機関連

名称	実施月日・期間	実績等	
16 ミリ発声映写機 操作講習会	7月6日(木)～7日(金)	申込者数	12人
		参加者数	12人
16 ミリ発声映写機の 検定・登録	11月9日(木)・10日(金)	検定台数	32台(15団体)
		検定結果	合格31台 不合格1台
16 ミリ発声映写機 操作講習修了証 既取得者練習会	6月8日(木)	参加者	0人

18 図書館サポーター制度

平成 16 年 7 月より、図書館サポーター制度を導入しました。区民が幅広く図書館の活動に参加することを通じて地域に密着した図書館づくりを進め、一層のサービス充実を図っています。活動内容は、家庭配本、資料の修理や整理、書架整理、DVD などの検盤、絵本の読み聞かせなどです。また、図書館サポーターが情報交換や作業などに利用できる共有スペースとして、中央図書館 4 階にサポーター準備室を設置しています。

図表 50 図書館サポーター登録者数

単位：人

図書館名 項目	中央	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合	合計
人数	125	10	10	4	66	8	7	10	6	7	253

※複数の館で活動しているサポーターは、主な活動館で数える。

※こども図書館登録者数は、中央図書館に含む。

図表 51 活動内容及び活動回数

図書館名 項目	児童サービス (読み聞かせ)	配架・製本・ 補修	対面朗読	家庭配本	イベント	検盤	その他	合計(回)
中央・こども	135	104	0	19	1	143	0	402
四谷	34	47	0	54	0	0	0	135
鶴巻	78	0	0	0	0	0	0	78
西落合	16	0	0	24	0	0	0	40
戸山	32	128	95	47	0	0	0	302
北新宿	15	22	0	0	0	0	0	37
中町	33	0	0	0	0	0	0	33
角筈	11	149	0	0	0	0	0	160
大久保	51	0	0	4	0	0	0	55
下落合	46	0	0	26	0	0	0	72
合計	451	450	95	174	1	143	0	1,314

図表 52 サポーターに対する支援事業

		実施月日	会場	内容	参加者
図書館サポーター講習会	A コース	2 月 7 日(水)	中央図書館 会議室	本の修理講習会	14
	B コース	2 月 20 日(火)	中央図書館 会議室	乳幼児おはなし会とわらべうた	13
サポーターイベント		9 月 10 日(日)	中央図書館 イベントルーム	早稲田大学児童文学研究会による 紙芝居・紙人形、朗読会	136

第3 管理運営

1 図書館運営協議会

図書館運営協議会は、図書館の運営に関して教育長の諮問に応じるとともに、図書館サービスについて教育長に意見を述べるため、外部委員13名（外に図書館職員4名）をもって2年間の任期で組織されています。

(1) 図書館運営協議会委員（平成29・30年度期）

役職	氏名	現職	選任区分
会長	雪嶋 宏一	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	学識経験者
副会長	三浦 太郎	明治大学文学部専任准教授	学識経験者
委員	糸賀 雅児	元慶應義塾大学文学部教授	学識経験者
委員	京田 美也子	(公募委員)	公募委員
委員	菅原 天意	(公募委員)	公募委員
委員	則竹 達朗	(公募委員)	公募委員
委員	日高 奈美子	(公募委員)	公募委員
委員	中村 廣子	新宿区社会教育委員	社会教育委員
委員	横山 寿美乃	新宿区社会教育委員	社会教育委員
委員	今井 康之	新宿区障害者団体連絡協議会 事務局次長	障害者団体の推薦を得た者
委員	尾下 千秋	公益財団法人図書館振興財団 評議員	図書関係団体の推薦を得た者
委員	成瀬 雅人	日本書籍出版協会図書館委員会 副委員長	図書関係団体の推薦を得た者
委員	小須田 秀実	新宿区立牛込第一中学校長	区内学校職員

* 図書館運営協議会委員の構成は上記の外部委員のほか、図書館職員4名が加わります。

(2) 平成 29 年度活動実績

回数	開催日	議題
第 1 回	7 月 13 日 (木)	協議事項 (1) 平成 28 年度 新宿区立図書館サービス計画の実績と評価について
第 2 回	9 月 21 日 (木)	協議事項 (1) 平成 28 年度 新宿区立図書館サービス計画の評価について (2) 平成 30 年度 新宿区立図書館サービス計画について
視察	11 月 10 日 (金)	【場所】 大和市立図書館 平成 28 年 11 月に開館した複合施設「大和市文化拠点シリウス」の内に所在する大和市立図書館を見学
第 3 回	1 月 25 日 (木)	協議事項 (1) 平成 30 年度 新宿区立図書館サービス計画（素案）について 報告事項 (1) 新宿区第一次実行計画・新宿区教育ビジョンの進捗及び次年度の主な課題について (2) 図書館情報システムの更新及びホームページのリニューアルについて (3) 大和市立図書館視察について (4) 平成 29 年度 新宿区立図書館を使った調べる学習コンクールの実施結果
第 4 回	3 月 22 日 (木)	協議事項 (1) 平成 30 年度 新宿区立図書館サービス計画（案）について 報告事項 (1) 平成 29 年度 新宿区子ども読書活動推進計画の進捗状況について (2) 電子書籍等の状況について (3) マンガ資料の収集について (4) 新宿区立図書館の「毎日開館体制」の素案について (5) 図書館資料の利用手続きの変更について

2 子ども読書活動推進会議

新宿区では、平成 28 年 3 月に「第四次新宿区子ども読書活動推進計画」（本計画の期間は、平成 28 年度から平成 31 年度の 4 年間）を策定し、子どもが読書に親しみ、豊かな感性、情操、思いやりの心を育み、心豊かな人として成長していけるよう区民と区が連携して子どもの読書活動を推進して行くための環境づくりを進めています。

区立図書館は今後も子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、地域に密着した読書活動の拠点として読書に関するサービスを提供します。

(1) 新宿区子ども読書活動推進会議委員（平成 30 年度）

役 職	氏 名	現 職	区 分
座 長	秋田喜代美	東京大学大学院 教授	学識経験者
副座長	小川三和子	聖学院大学 非常勤講師	学識経験者
委 員	井上美奈子	新宿区立幼稚園 P T A 連合会 広報・会計監査	地域関係者
委 員	武内 隆則	新宿区立小学校 P T A 連合会 ゆめじぎょう担当	地域関係者
委 員	鈴木 和成	新宿区立中学校 P T A 協議会 副会長	地域関係者
委 員	松岡あすか	中央図書館 読み聞かせ会 代表	地域関係者

※新宿区子ども読書活動推進会議の構成は、上記 6 名のほか、区関係者 4 名が加わります。

(2) 平成 29 年度活動実績

回 数	開催日	協 議 内 容
第 1 回	7 月 20 日（木）	(1) 委嘱状交付 (2) 中央図書館長挨拶 (3) 自己紹介 (4) 座長及び副座長の選出 (5) 議題 ①第四次新宿区子ども読書活動推進計画の平成 28 年度実績について ②「絵本でふれあう子育て支援」事業における配付図書について
第 2 回	12 月 6 日（水）	(1) 議題 ①「絵本でふれあう子育て支援」事業における配付絵本について ②子供の読書活動の推進に関する紹介：国の第四次子ども読書推進計画策定に向けて ③今後の配付絵本の選定方法について
第 3 回	3 月 8 日（木）	(1) 議題 ①報告事項 ・平成 29 年度数値目標の達成状況について ・新宿区立図書館を使った調べる学習コンクール結果について ・新宿区第一次実行計画（平成 30 ～ 32 年度）について ② 0 歳児及び 3 歳児に配付する絵本の選定について

(3) 新宿区子ども読書活動推進計画 目標値と実績の推移

計画（第一次～第四次） 数値目標		第一次 平成 15 ～ 19 年度		第二次 平成 20 ～ 23 年度		第三次 平成 24 ～ 27 年度		第四次 平成 28 ～ 31 年度	
		19 年度 実績	目標値	23 年度 実績	目標値	27 年度 実績	目標値	29 年度 現状	目標値
区立図書館の 子どもの利用登録率	小学生以下	59.2%	65.0%	—	—	—	—	—	—
	中学生	58.2%	71.8%	—	—	—	—	—	—
区立図書館における 子ども（区内在住者） の年間貸出冊数の増加	小学生以下	349,000	358,000	357,425	381,000	—	—	435,518	384,500
	中学生	29,000	38,000	32,839	35,000	—	—	35,841	37,500
	高校生	—	—	—	—	—	—	16,622	17,600
区立小・中学校の児童・ 生徒の不読者率の減少	小学生	4.7%	5% 以下	9.9%	5% 以下	0.1%	5% 以下	0.1%	2% 以下
	中学生	20.2%	20% 以下	23.8%	20% 以下	0.9%	20% 以下	0.2%	5% 以下
区立小・中学校における 朝の読書等の実施率	小学生	100%	100%	—	—	—	—	—	—
	中学生	100%	100%	—	—	—	—	—	—
区立学校図書館 標準の充足率	小学生	100%	100%	—	—	—	—	—	—
	中学生	100%	100%	—	—	—	—	—	—
区立図書館の子ども （区内在住者）の延べ 利用人数の増加	小学生以下	—	—	95,796	102,000	101,517	102,000	122,267	102,000
	中学生	—	—	12,666	13,000	12,788	14,000	14,650	14,500
	高校生	—	—	—	—	—	—	7,926	7,600
区立図書館における 団体貸出冊数の増加	—	—	—	42,744	42,000	47,735	50,000	57,868	57,000
1 か月に学校図書館で 本を読んだり借りたり した児童・生徒の 割合の増加	小学生	—	—	—	—	77.8%	85%	—	—
	中学生	—	—	—	—	38.7%	40%	—	—
読書が好きな児童・ 生徒の割合の増加	小学生	—	—	—	—	86.6%	95%	—	—
	中学生	—	—	—	—	73.8%	85%	—	—
区立図書館における 団体貸出の利用率の増加	—	—	—	69.4%	78.0%	—	—	73.3%	75%

※上記、実績及び現状は、各年 2 月 1 日から翌年 1 月 31 日の実績。

(4) 第四次新宿区子ども読書活動推進計画施策体系

読書活動推進のための具体的な取組み

家庭・地域における 子どもの読書活動の 推進	1 子どもの読書 活動の普及啓発	1	子どもの読書活動推進計画に関する普及啓発	推進計画全所管課
		2	「子ども読書の日」等の普及啓発	推進計画全所管課
		3	「しんじゅくの教育」への掲載	教育調整課・中央図書館
		4	子育てメッセにおける区立図書館事業の周知《新規》	子育て支援課・中央図書館
	2 読書環境の充実	5	家庭読書をはじめましょう《新規》	教育支援課・中央図書館
		6	多文化を知るおはなし会等と洋書絵本の充実《新規》	中央図書館
	3 読書活動の支援	7	家庭教育学級・家庭教育講座における読書活動支援	教育支援課
		8	本と絵本の講座の開催	中央図書館
		9	絵本でふれあう子育て支援	中央図書館・保健センター
		10	幼児サークル等における読み聞かせ会の実施	子ども総合センター
		11	図書館サポーターへの研修	中央図書館
こども図書館・地域 図書館における子ど もの読書活動の推進	1 読書環境の充実	12	魅力ある図書の充実	中央図書館
		13	郷土・新宿を知る図書の充実《新規》	
		14	中高生向け読書環境の整備	
		15	東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた気運醸成《新規》	
		16	展示図書の充実	
		17	情報交換コーナーの充実	
		18	親子同士のふれあいの場へ行こう《新規》	
		19	新こども図書館の検討	
	2 読書活動の支援	20	ホームページの充実	
		21	職員研修の実施	
		22	推薦図書リストの充実	
		23	調べ学習用セット貸出の充実	
		24	出張お話し会・施設訪問の実施	
		25	作家の講演会の開催	
		26	障害者サービス等の充実	
		27	病院サービスの充実	
		28	お話し会の充実	
		29	子ども読書リーダー講座の開催	
	3 区立図書館の 利用促進	30	利用者登録の推進	
		31	子ども向け行事の実施	
		32	図書館利用の案内	
	4 学校等との連携	33	中学生・高校生の図書館サポーター活動の実施	
		34	団体貸出の充実	
		35	区立図書館を使った調べる学習コンクール	
		36	国立国会図書館・国際子ども図書館等との連携	
		37	専門学校等との連携	
		38	図書館利用案内等説明会の開催	
		39	読み聞かせ講習会の開催	
		40	新刊選書リストの作成・提供	
区立学校における 子どもの読書活動の 推進	1 読書環境の充実	41	学校図書館の運営の充実	教育支援課
		42	学校図書館への学校図書館支援員の配置	
		43	学校図書館の蔵書の充実	
		44	校内読書環境の整備	
	2 読書活動の支援	45	読書感想文集「けやき」の発行	
		46	読書感想文の表彰	
		47	図書館利用指導の充実	
		48	ボランティアの活用	
	3 子どもへの教育 活動	49	朝読書の推進	
		50	指導資料の作成	
		51	研修の充実	
		52	区立図書館との連携	
幼稚園・保育園・子 ども園における子ど もの読書活動の推進	1 読書環境の充実	53	絵本コーナーの充実	教育支援課（53,54,56 除く） 学校運営課 保育園子ども園課
		54	区立図書館の有効活用	
	2 読書活動の支援	55	絵本の読み聞かせの充実	
		56	絵本の貸出し	
		57	家庭における読書活動への支援	
子ども総合センター 等・保健センター・ 男女共同参画推進セ ンターにおける子ど もの読書活動の推進	1 読書環境の充実	58	男女共同参画に関する資料の充実	男女共同参画課
		59	子ども総合センター等の読書環境の整備	子ども総合センター
		60	子ども総合センター等の図書室の充実	
		61	図書貸出しの推進	保健センター
		62	乳幼児健康診査等における読書コーナーの運営	
	2 読書活動の支援	63	区立図書館との連携	子ども総合センター
		64	お話し会の実施	中央図書館・保健センター
		(9)	絵本でふれあう子育て支援【再掲】	

※部署名は、計画策定時の平成 28 年 3 月現在。

3 指定管理者制度

(1) 制度導入の目的

図書館の多様化する利用者ニーズに、より効果的・効率的に対応し、図書館サービスの拡充・向上を図るため、民間事業者やNPO法人等の能力を活用することにより、区民・利用者の満足度の高い図書館運営を行うとともに、経費の縮減を図ることを目的としています。

(2) 制度導入による効果

- ①民間事業者等の経営ノウハウを活かした図書館サービス事業の展開
- ②柔軟な人的配置による開館時間の拡大
- ③司書有資格者や専門の人材の確保により、利用者ニーズに速やかに対応するなど、利用者満足度の向上

(3) 導入年度及び指定期間

年度	指定管理期間	図書館名
平成 21 年度	平成 21 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで	戸山・北新宿・中町図書館（3 館）
平成 22 年度	平成 22 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで	四谷・角筈・大久保図書館（3 館）
平成 23 年度	平成 23 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで	鶴巻・西落合図書館（2 館）
平成 26 年度	平成 26 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで	四谷・鶴巻・西落合・戸山・北新宿・中町・角筈・大久保図書館（8 館）
平成 28 年度	平成 29 年 3 月 11 日から平成 31 年 3 月 31 日まで	下落合図書館（1 館）

(4) 利用料金制度の導入

地域館各館には、利用料金収入を見込む事業がないため、利用料金制度を導入していません。

(5) 指定管理者の事業評価

事業評価については、教育委員会が別に定める評価委員会を設置して実施します。

(6) 管理業務等の報告の聴取等と指定の取消し等

教育委員会は、指定図書館の管理の適正を期するため、指定管理者に対し、管理業務等について報告を求め、実地について調査をし、必要な指示を行います。

この指示に従わないとき又は指定管理者による管理を継続することが適当でないと認められるときは、指定の取消し又は業務の全部若しくは一部の停止命令を行います。

(7) 指定管理者制度導入図書館 平成 29 年度収支実績

単位：円

項目	四谷	鶴巻	西落合	戸山	北新宿	中町	角筈	大久保	下落合
事業収入額 (指定管理料)	101,124,810	71,426,823	59,678,635	65,208,439	50,036,332	53,954,300	63,362,670	70,186,605	69,924,332
事業支出額(合計)	101,110,660	70,329,197	59,621,527	64,576,746	49,854,887	53,616,834	62,991,995	70,048,893	71,895,833
人件費	70,694,627	39,434,737	31,738,545	46,949,151	35,385,656	34,709,511	47,686,633	44,445,897	49,379,415
施設管理費	3,582,721	16,941,899	11,129,000	3,821,663	3,583,227	6,301,666	3,473,615	2,845,225	5,828,132
事業経費等	26,833,312	13,952,561	16,753,982	13,805,932	10,886,004	12,605,657	11,831,747	22,757,771	16,688,286
収支差額	14,150	1,097,626	57,108	631,693	181,445	337,466	370,675	137,712	△ 1,971,501

4 新しい中央図書館の検討

新宿区及び新宿区教育委員会は、中央図書館の役割や機能を抜本的に見直し、ICT 社会の進展など新たな時代に対応した中央図書館を目指し、「新中央図書館等基本計画」を平成 22 年 11 月に策定しました。

しかしながら、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の発生を受けた「新宿区緊急震災対策」により、中央図書館は旧戸山中学校の校舎を仮施設として移転し、新中央図書館の建設スケジュールは改めて判断することになりました。この間、関係機関・部署とともに検討を進め、平成 29 年度においては新たな総合計画及び第一次実行計画、並びに教育ビジョンを策定する中で、引き続き検討を行いました。

なお、平成 29 年 2 月に策定した「新宿区公共施設等総合管理計画」において、新中央図書館については、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催と、その後の社会経済状況も見据え、建設に向けて検討していくこととしました。

5 図書館へのご意見・ご要望

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

項 目	内 容
図書館員関係	窓口対応・電話対応の改善希望（言葉づかい・態度等）
図書館資料関係	所蔵していない図書のリクエスト 図書の寄贈希望及びその方法について 長期延滞者対応
施設・設備関係 （図書館情報 システム含む）	図書返却場所の増設希望 閲覧席の増設希望 図書館情報システム (WebOPAC) の改善希望（見やすさ・機能の充実）
管理・運営関係	休館日の設定に対する工夫について 利用者のマナー向上について（閲覧席での居眠り、閲覧席の長時間占有、私語、 飲食コーナー以外での飲食、悪臭・異臭対応）
その他	図書館ホームページの改善希望（見やすさ・機能の充実）

〈ご意見・ご要望例〉

ご意見・ご要望	回 答
webOPAC で本を 予約したいのですが、 ログインパスワードを 忘れてしまった場合は どうすればよいでしょう？	パスワードをお忘れになった場合はお手数ですが、いずれかの新宿区 立図書館にご来館またはお電話をいただき、パスワードをお忘れになった 旨をお伝えください。登録済みのパスワードを削除させていただきますの で、その後、ご自身で図書館ホームページの利用者照会メニューまたは館 内 OPAC から新たなパスワードを設定してください。
古い本を寄贈したいのですが、 ルールがありますか？ 寄贈できる場合、 詳細の指示をお願いいたします。	新宿区立図書館では、寄贈のお申し出があった場合、図書館へのご持参 又はご送付（自己負担）をお願いしています。 なお、ご寄贈いただいた資料の活用につきましては、図書館に一任させ ていただいております。また、所蔵しないこととした場合も返却はできま せんのでご了承ください。
借りたい本が 新宿区立図書館に 所蔵が無いので、 購入をお願いします。	新刊本等の、新宿区立図書館で所蔵していない図書資料の貸出しをご希 望の場合は、お手数ですが、図書館に備え付けの「予約（リクエスト）カー ド」にご記入の上、カウンター職員までお持ちください。 購入又は都や他区から取り寄せることにより、できるだけご希望にお応 えしています。ただし、電話やホームページからの受付はできません。

新宿区立図書館の沿革

- 昭和 24. 7. 23 新宿区文化会館（内藤町 87）3 階に児童向の図書室（蔵書 2 千冊）として発足
（開館時間 午前 10 時～午後 6 時）
25. 8. 1 新宿区文化会館 2 階に CIE（Civil Information and Education Section）
（民間情報教育局）図書館開設（昭和 27 年 8 月 16 日廃止）
26. 3. 25 図書館法の施行により、文化会館図書室が同法による公立図書館「新宿区立新宿図書館」
となる（蔵書 1 万冊）
27. 11. 1 新宿区教育委員会の発足により同委員会の組織となる
31. 9. 1 夜間開館実施（～午後 9 時）
35. 9. 1 落合分室開設（児童図書室）（下落合 1-476、区長公舎跡）
38. 3. 1 榎町分室開設（早稲田町 64、榎町特別出張所 3 階）
38. 4. 2 大久保分室開設（西大久保 2-229、大久保特別出張所 3 階）
41. 4. 1 新宿区資料室（昭和 39 年 4 月 1 日開設、新宿区文化会館 4 階）を教育委員会に移管、
図書館の所管となる
44. 4. 16 中央公園分室開設（西新宿 2-11-4）
46. 12. 31 落合分室廃止
47. 2. 1 中央図書館児童室開設（開館時間 午後 1 時～午後 5 時）
47. 4. 1 貸出方法をブラウン方式に統一
47. 4. 18 中央図書館開設（下落合 1-9-8、開館時間 午前 10 時～午後 8 時）
資料室を中央図書館郷土資料室とする
47. 8. 1 新宿図書館に読書室及び児童室開設
49. 9. 1 榎町分室廃止
49. 9. 5 鶴巻図書館開設（開館時間 午前 10 時～午後 6 時・児童室～午後 5 時）
54. 4. 11 西落合図書館開設（開館時間 午前 10 時～午後 6 時・児童コーナー～午後 5 時）
55. 4. 26 戸山図書館開設（開館時間 午前 10 時～午後 6 時・児童室～午後 5 時）
56. 10. 1 戸山図書館で視覚障害者サービスを開始（対面朗読）
57. 4. 1 北新宿図書館開設（開館時間 午前 10 時～午後 6 時・児童コーナー～午後 5 時）
57. 10. 1 戸山図書館に録音室・対面朗読室完成、録音テープの貸出しを開始
58. 4. 1 郷土資料室を文化財郷土資料担当副主幹として、中央図書館より分離
58. 10. 1 中町図書館開設（開館時間 午前 10 時～午後 6 時・児童コーナー～午後 5 時）
60. 1. 26 区役所内分室開設（開館時間 午前 10 時～午後 5 時）
61. 9. 1 家庭配本サービスを開始（身体障害等来館困難な区民）
- 平成 元 8. 31 中央公園分室廃止
- 元 9. 5 角筈図書館開設（コンピュータ導入）
（開館時間 午前 10 時～午後 6 時・児童コーナー～午後 5 時）
3. 12. 1 個人の図書館資料（図書・雑誌）貸出冊数を 3 冊から 5 冊以内へ拡大
3. 12. 3 中央図書館にコンピュータ導入、角筈図書館とオンライン・ネットワーク化

- 4. 12. 1 鶴巻図書館、西落合図書館にコンピュータ導入、4館をオンライン・ネットワーク化
- 5. 12. 1 戸山図書館、北新宿図書館にコンピュータ導入、6館をオンライン・ネットワーク化
戸山図書館、カセットテープの貸出し対象を視覚障害者から一般へ拡大
- 6. 3. 31 大久保分室廃止
- 6. 5. 6 大久保図書館開設（コンピュータ導入）、7館をオンライン・ネットワーク化
（開館時間 午前10時～午後6時・児童コーナー～午後5時）
- 6. 12. 1 中町図書館にコンピュータ導入、8館をオンライン・ネットワーク化
- 8. 11. 13 図書のリサイクルフェア実施
- 9. 4. 10 新宿図書館を四谷図書館と名称変更し新装開館（四谷区民センター7～8階）
（コンピュータ導入）9館のオンライン・ネットワーク化完成（開館時間 午前10時～午後8時）
- 9. 5. 5 こどもの日（祝日）開館（区役所内分室を除く全館 午前10時～午後5時）
- 9. 6. 1 視聴覚資料（CD・ビデオテープ各1点）の相互貸借開始（予約による）
- 9. 11. 3 文化の日（祝日）開館（区役所内分室を除く全館 午前10時～午後5時）
- 10. 4. 1 個人の図書資料（図書・雑誌）貸出冊数を5冊以内から10冊以内へ拡大
- 10. 10. 1 視聴覚資料の相互貸出の予約数を「CD1点から3点」「ビデオテープ1点から2点」へ拡大
- 11. 5. 13 区役所内分室を行政資料コーナーとして再編
- 11. 6. 19 中央図書館に地域資料室（愛称「わがまち しんじゅく」）開設
- 12. 9. 1 図書資料（図書・雑誌）の予約数を5冊以内から10冊以内へ拡大
- 13. 4. 1 日曜日・祝日（5月5日・11月3日）の開館時間 午前10時～午後6時に拡大
中央図書館児童室 開館時間 午前10時～午後6時に拡大
その他の児童室・児童コーナー 開館時間「その館の開館時間と同じ」に拡大
- 13. 9. 18 全館（区役所内分室を除く）システム機器の一斉更新
- 13. 10. 16 新宿区立図書館ホームページの開設、インターネットによる図書検索サービスの開始
- 14. 1. 5 電話予約サービスの開始
- 14. 4. 1 西落合図書館・戸山図書館・北新宿図書館・鶴巻図書館・中町図書館5館の第四火曜日を開館
図書のリサイクルフェアを廃止し、各館にリサイクルコーナーを設置
図書館奉仕員制度を開始
モバイル版図書検索サービスの開始
- 14. 7. 11 予約資料受取館指定サービスの開始
- 15. 12. 2 東京富士大学図書館と相互協力に関する覚書に調印（平成16年1月20日制度開始）
- 16. 3. 15 「新宿区子ども読書活動推進計画」策定
- 16. 4. 1 DVDの貸出し開始（中央図書館）
- 16. 6. 22 インターネットによる図書館資料の予約サービスの開始
- 16. 6. 29 第一回新宿区子ども読書活動推進会議開催
- 16. 7. 6 「図書館サポーター制度」の開始
- 16. 7. 27 図書館ホームページ「こどもページ」開始

- 17. 1. 31 目白大学新宿図書館と図書館相互協力に関する覚書に調印（平成 17 年 4 月 15 日制度開始）
- 17. 3. 8 図書館運営協議会「区立図書館サービスの基本的なあり方について（提言）」を提出
- 17. 3. 24 独立行政法人日本学生支援機構と「外国語によるお話会」の実施に関する覚書に調印
- 17. 4. 1 利用者登録要件の変更（住所要件なし→都内在住、区内在勤・在学）
- 17. 5. 10 開館時間の延長（中央・四谷図書館を除く地域館と中央図書館視聴覚室の火曜日～金曜日の開館時間を午後 7 時まで延長）
- 17. 6. 21 男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）のオンライン・ネットワーク化（図書資料のみ）と図書の相互貸借を開始
- 18. 1. 17 中央図書館児童室を閉室として、こども図書館開設に向けた改修工事を開始
- 18. 2. 3 新宿区立図書館の行政コスト計算を公表
- 18. 4. 1 年間を通した祝休日開館（1 月 1 日を除く）を開始
男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）との相互貸借に視聴覚資料を追加
男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）で視聴覚資料のオンライン化
配本車による団体貸出事業の拡大（対象団体・貸出冊数の拡大）
- 18. 5. 5 中央図書館 2 階児童室を改装し「こども図書館」を開設
- 18. 6. 20 区内 4 病院を対象とした団体貸出サービス開始
- 18. 10. 14 新宿歴史博物館のオンライン・ネットワーク化（所蔵資料検索のみ）
- 18. 10. 21 ビジネス情報支援相談会開始（中央・角筈図書館）
- 19. 2. 1 新宿区立図書館夏目漱石生誕 140 年記念事業開始（平成 19 年 12 月 24 日まで）
- 19. 4. 23 こども図書館が平成 19 年度子どもの読書活動優秀実践図書館・団体（者）文部科学大臣表彰を受賞
- 19. 7. 15 「新宿区立図書館基本方針」（中間のまとめ）公表
- 19. 12. 「新宿区第一次実行計画」で「新しい中央図書館のあり方の検討」の計画事業化
- 20. 1. 15 「新宿区立図書館基本方針」策定
- 20. 2. 5 早稲田大学教育・総合科学学術院図書施設と相互協力に関する覚書に調印（平成 20 年 4 月 1 日制度開始）
- 20. 3. 31 「第二次新宿区子ども読書活動推進計画」策定
- 20. 6. 18 「新宿区立図書館設置条例」の一部を改正し、「新宿区立図書館条例」に題名改称
- 20. 7. 4 「新宿区立図書館の管理及び運営に関する規則」の一部を改正し、「新宿区立図書館条例施行規則」に題名改称
- 20. 7. 26 ボランティア団体による「合同おはなし会」開催
- 21. 2. 3 IC タグシステム導入、インターネット検索利用者端末を設置

21. 4. 1 戸山図書館、北新宿図書館、中町図書館において、指定管理者による運営を開始
開館時間の拡大
中央図書館 平日・土曜日 午前9時～午後8時 日曜日・祝日・休日 午前9時～午後6時
戸山図書館、北新宿図書館、中町図書館 平日 午前9時～午後7時
土曜日・日曜日・祝日・休日 午前9時～午後6時
22. 4. 1 四谷図書館、大久保図書館、角筈図書館において、指定管理者による運営を開始
開館時間の拡大
中央図書館 平日・土曜日 午前9時～午後9時45分
四谷図書館、大久保図書館、角筈図書館 平日・土曜日 午前9時～午後9時45分
日曜日・祝日・休日 午前9時～午後6時
22. 11. 5 「新中央図書館等基本計画」策定
23. 3. 12 東日本大震災に伴う休館（平成23年3月12日～同年5月30日 80日間）角筈図書館
23. 3. 12 東日本大震災に伴う開館時間の短縮（平成23年3月12日～同年5月30日 80日間）
中央・こども図書館、四谷図書館、大久保図書館
23. 4. 1 鶴巻図書館、西落合図書館において、指定管理者による運営を開始
開館時間の拡大
鶴巻図書館、西落合図書館 平日 午前9時～午後7時
土曜日・日曜日・祝日・休日 午前9時～午後6時
23. 5. 20 「新宿区緊急震災対策」について政策経営会議決定
（現中央図書館は新中央図書館の建設予定地である旧戸山中学校を仮施設として移転する。
移転後の現中央図書館跡地については、落合の地域図書館を含む施設活用を検討する。な
お、新中央図書館のスケジュールについては改めて判断することとする。）
24. 2. 1 学習院女子大学図書館と相互協力に関する覚書に調印（平成24年4月1日制度開始）
24. 3. 15 「第三次新宿区子ども読書活動推進計画」策定
25. 4. 1 CD・カセットテープの貸出点数を3点から5点に変更
25. 7. 1 中央・こども図書館移転に伴う休館（平成25年7月1日～同月19日 19日間）
25. 7. 20 中央・こども図書館が、旧戸山中学校（大久保3-1-1）に移転
25. 8. 6 仮称下落合図書館の果たすべき役割についての地域懇談会を開催
25. 11. 1 「仮称下落合図書館基本計画」策定
26. 1. 旧中央図書館解体工事着工
26. 2. 20 アンネ・フランク関連図書館の連続器物損壊事件報道
「アンネの日記」などの図書館資料が5区3市の38公立図書館で計300冊以上が引きちぎ
られる事件が発覚した。新宿区は3館（四谷・西落合・戸山）で42冊の被害にあった。
26. 4. 1 地域図書館8館の指定管理者を更新
指定管理者は平成26年4月1日～平成31年3月31日までの5か年
26. 8. 8 （仮称）下落合図書館 地域懇談会（第2回）を開催

- 27. 5. 20 新宿区立下落合図書館及び西部工事・公園事務所建設工事起工式
- 27. 6. 4 中央図書館用途変更に伴う構造補強工事着工
- 27. 10. 1 全館で公衆無線 LAN サービスの開始
- 28. 3. 1 DVD 団体貸出事業の開始
- 28. 3. 4 「新宿区立図書館基本方針」改定
- 28. 3. 4 「第四次新宿区子ども読書活動推進計画」策定
- 28. 3. 18 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスによる中央図書館での閲覧開始
- 28. 3. 30 中央図書館用途変更に伴う構造補強工事完了
- 28. 4. 1 貸出資料の延長方法の変更
- 28. 6. 17 中央図書館用途変更部分に閲覧席や展示スペース等を新たに設置
- 28. 6. 28 「新宿区立図書館サービス計画」策定の開始
- 28. 10. 1 四谷図書館の休館日変更（月曜日から火曜日に変更）
- 29. 1. 6 中央図書館において「ふるさとしんぶん（元旦号）」の展示開始
- 29. 3. 10 新宿区立下落合図書館及び西部工事・公園事務所落成式
- 29. 3. 11 新宿区立下落合図書館開設及び、指定管理者による運営を開始
(開館時間 平日・土曜日 午前9時～午後9時45分 日曜日・祝日・休日 午前9時～午後6時)
- 29. 10. 23 西落合図書館において工事に伴う臨時休館（平成29年10月23日～同年11月24日）
- 29. 10. 24 中央図書館においてDVDの半閉架（ディスク本体の別置）を開始
- 30. 1. 14 新宿区立図書館ホームページのリニューアル、スマートフォンからの検索に対応開始

IV 資料編（法令、条例・規則等）

第1 関係法令等

- 社会教育法（抄）56
- 図書館法（抄）57
- 図書館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）59
- 子どもの読書活動の推進に関する法律（抄）62
- 著作権法（抄）63
- 著作権法施行令（抄）67

第2 条例・規則

- 新宿区立図書館条例68
- 新宿区立図書館条例施行規則73
- 新宿区教育委員会の16ミリ発声映写機等管理規則77

第3 要 綱

- 新宿区立図書館管理運営要綱79
- 新宿区立図書館の図書館資料の弁償に関する取扱要綱82
- 新宿区立図書館視覚障害者等サービス実施要綱83
- 新宿区立図書館家庭配本サービス事業実施要綱85
- 新宿区立図書館サポーター制度実施要綱86
- 新宿区立図書館資料収集要綱86
- 新宿区立図書館資料の除籍・廃棄要綱88
- 新宿区立図書館資料のリサイクル事業実施要綱88
- 新宿区立図書館運営協議会設置要綱89
- 新宿区子ども読書活動推進会議設置要綱90

第4 その他

- 新宿区立図書館基本方針91
- 図書館の自由に関する宣言96
- 図書館員の倫理綱領98

資料編（法令、条例・規則等）

第1 関係法令等

社会教育法（抄）

（昭和二十四年六月十日）
（法律第二百七号）

最終改正：平成二九年三月三十一日
法律第五号

第一章 総 則

（この法律の目的）

第一条 この法律は、教育基本法（平成十八年法律第百二十号）の精神に則り、社会教育に関する国及び地方公共団体の任務を明らかにすることを目的とする。

（社会教育の定義）

第二条 この法律において「社会教育」とは、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）又は就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成十八年法律第七十七号）に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。

（国及び地方公共団体の任務）

第三条 国及び地方公共団体は、この法律及び他の法令の定めるところにより、社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営、集会の開催、資料の作製、頒布その他の方法により、すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら实际生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない。

2 国及び地方公共団体は、前項の任務を行うに当たっては、国民の学習に対する多様な需要を踏まえ、これに適切に対応するために必要な学習の機会の提供及びその奨励を行うことにより、生涯学習の振興に寄与することとなるよう努めるものとする。

3 国及び地方公共団体は、第一項の任務を行うに当たっては、社会教育が学校教育及び家庭教育との密接な関連性を有することにかんがみ、学校教育との連携の確保に努め、及び家庭教育の向上に資することとなるよう必要な配慮をするとともに、学校、家庭及び地域住民その他の関係者相互間の連携及び協力の促進に資することとなるよう努めるものとする。

（国の地方公共団体に対する援助）

第四条 前条第一項の任務を達成するために、国は、この法律及び他の法令の定めるところにより、地方公共団体対

し、予算の範囲内において、財政的援助並びに物資の提供及びそのあつせんを行う。

（市町村の教育委員会の事務）

第五条 市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会は、社会教育に関し、当該地方の必要に応じ、予算の範囲内において、次の事務を行う。

- 一 社会教育に必要な援助を行うこと。
- 二 社会教育委員の委嘱に関すること。
- 三 公民館の設置及び管理に関すること。
- 四 所管に属する図書館、博物館、青年の家その他の社会教育施設の設置及び管理に関すること。
- 五 所管に属する学校の行う社会教育のための講座の開設及びその奨励に関すること。
- 六 講座の開設及び討論会、講習会、講演会、展示会その他の集会の開催並びにこれらの奨励に関すること。
- 七 家庭教育に関する学習の機会を提供するための講座の開設及び集会の開催並びに家庭教育に関する情報の提供並びにこれらの奨励に関すること。
- 八 職業教育及び産業に関する科学技術指導のための集会の開催並びにその奨励に関すること。
- 九 生活の科学化の指導のための集会の開催及びその奨励に関すること。
- 十 情報化の進展に対応して情報の収集及び利用を円滑かつ適正に行うために必要な知識又は技能に関する学習の機会を提供するための講座の開設及び集会の開催並びにこれらの奨励に関すること。
- 十一 運動会、競技会その他体育指導のための集会の開催及びその奨励に関すること。
- 十二 音楽、演劇、美術その他芸術の発表会等の開催及びその奨励に関すること。
- 十三 主として学齢児童及び学齢生徒（それぞれ学校教育法第十八条に規定する学齢児童及び学齢生徒をいう。）に対し、学校の授業の終了後又は休業日において学校、社会教育施設その他適切な施設を利用して行う学習その他の活動の機会を提供する事業の実施並びにその奨励に関すること。
- 十四 青少年に対しボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の機会を提供する事業の実施及びその奨励に関すること。
- 十五 社会教育における学習の機会を利用して行つた学習の成果を活用して学校、社会教育施設その他地域において行う教育活動その他の活動の機会を提供する事業の実施及びその奨励に関すること。
- 十六 社会教育に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。
- 十七 視聴覚教育、体育及びレクリエーションに必要な設備、器材及び資料の提供に関すること。
- 十八 情報の交換及び調査研究に関すること。
- 十九 その他第三条第一項の任務を達成するために必要な事務

2 (省略)

(図書館及び博物館)

第九条 図書館及び博物館は、社会教育のための機関とする。

2 図書館及び博物館に関し必要な事項は、別に法律をもつて定める。

図書館法 (抄)

(昭和二十五年四月三十日)

(法律第百十八号)

最終改正：平成二九年五月三十一日
法律第四一号

第一章 総 則

(この法律の目的)

第一条 この法律は、社会教育法(昭和二十四年法律第二百七号)の精神に基き、図書館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育と文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で、地方公共団体、日本赤十字社又は一般社団法人若しくは一般財団法人が設置するもの(学校に附属する図書館又は図書室を除く。)をいう。

2 前項の図書館のうち、地方公共団体の設置する図書館を公立図書館といい、日本赤十字社又は一般社団法人若しくは一般財団法人の設置する図書館を私立図書館という。

(図書館奉仕)

第三条 図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。

- 一 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルム等の収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料(電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。))を含む。以下「図書館資料」という。)を収集し、一般公衆の利用に供すること。
- 二 図書館資料の分類排列を適切にし、及びその目録を整備すること。
- 三 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、

その利用のための相談に応ずるようにすること。

四 他の図書館、国立国会図書館、地方公共団体の議会に附置する図書室及び学校に附属する図書館又は図書室と緊密に連絡し、協力し、図書館資料の相互貸借を行うこと。

五 分館、閲覧所、配本所等を設置し、及び自動車文庫、貸出文庫の巡回を行うこと。

六 読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること。

七 時事に関する情報及び参考資料を紹介し、及び提供すること。

八 社会教育における学習の機会を利用して行つた学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。

九 学校、博物館、公民館、研究所等と緊密に連絡し、協力すること。

(司書及び司書補)

第四条 図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。

2 司書は、図書館の専門的事務に従事する。

3 司書補は、司書の職務を助ける。

(司書及び司書補の資格)

第五条 次の各号のいずれかに該当する者は、司書となる資格を有する。

一 大学を卒業した者で大学において文部科学省令で定める図書館に関する科目を履修したもの

二 大学又は高等専門学校を卒業した者で次条の規定による司書の講習を修了したもの

三 次に掲げる職にあつた期間が通算して三年以上になる者で次条の規定による司書の講習を修了したもの

イ 司書補の職

ロ 国立国会図書館又は大学若しくは高等専門学校の附属図書館における職で司書補の職に相当するもの

ハ ロに掲げるもののほか、官公署、学校又は社会教育施設における職で社会教育主事、学芸員その他の司書補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するもの

2 次の各号のいずれかに該当する者は、司書補となる資格を有する。

一 司書の資格を有する者

二 学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)第九十条第一項の規定により大学に入学することのできる者で次条の規定による司書補の講習を修了したもの

(司書及び司書補の講習)

第六条 司書及び司書補の講習は、大学が、文部科学大臣の委嘱を受けて行う。

2 司書及び司書補の講習に関し、履修すべき科目、単位その他必要な事項は、文部科学省令で定める。ただし、その履修すべき単位数は、十五単位を下ることができない。

(司書及び司書補の研修)

第七条 文部科学大臣及び都道府県教育委員会は、司書及び司書補に対し、その資質の向上のために必要な研修を行うよう努めるものとする。

(設置及び運営上望ましい基準)

第七条の二 文部科学大臣は、図書館の健全な発達を図るために、図書館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとする。

(運営の状況に関する評価等)

第七条の三 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第七条の四 図書館は、当該図書館の図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

(協力の依頼)

第八条 都道府県教育委員会は、当該都道府県内の図書館奉仕を促進するために、市(特別区を含む。以下同じ。)町村教育委員会に対し、総合目録の作製、貸出文庫の巡回、図書館資料の相互貸借等に関して協力を求めることができる。

(公の出版物の収集)

第九条 政府は、都道府県の設置する図書館に対し、官報その他一般公衆に対する広報の用に供せられる独立行政法人国立印刷局の刊行物を二部提供するものとする。
2 国及び地方公共団体の機関は、公立図書館の求めに応じ、これに対して、それぞれの発行する刊行物その他の資料を無償で提供することができる。

第二章 公立図書館

(設置)

第十条 公立図書館の設置に関する事項は、当該図書館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

第十一条 削除

第十二条 削除

(職員)

第十三条 公立図書館に館長並びに当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会が必要と認める専門的職員、事務

職員及び技術職員を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、図書館奉仕の機能の達成に努めなければならない。

(図書館協議会)

第十四条 公立図書館に図書館協議会を置くことができる。

2 図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする。

第十五条 図書館協議会の委員は、当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第十六条 図書館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他図書館協議会に関し必要な事項については、当該図書館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

(入館料等)

第十七条 公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に對するいかなる対価をも徴収してはならない。

第十八条 削除

第十九条 削除

(図書館の補助)

第二十条 国は、図書館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、図書館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第二十一条 削除

第二十二条 削除

第二十三条 国は、第二十条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

一 図書館がこの法律の規定に違反したとき。

二 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

三 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第三章 私立図書館

第二十四条 削除

(都道府県教育委員会との関係)

第二十五条 都道府県教育委員会は、私立図書館に対し、指導資料の作製及び調査研究のために必要な報告を求める

ことができる。

- 2 都道府県の教育委員会は、私立図書館に対し、その求めに応じて、私立図書館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

- 第二十六条 国及び地方公共団体は、私立図書館の事業に干渉を加え、又は図書館を設置する法人に対し、補助金を交付してはならない。

- 第二十七条 国及び地方公共団体は、私立図書館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき、援助を与えることができる。

(入館料等)

- 第二十八条 私立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対する対価を徴収することができる。

(図書館同種施設)

- 第二十九条 図書館と同種の施設は、何人もこれを設置することができる。
- 2 第二十五条第二項の規定は、前項の施設について準用する。

図書館の設置及び運営上の望ましい基準(抄)

(平成24年12月19日
文部科学省告示第172号)

第一 総 則

一 趣 旨

- 1 この基準は、図書館法(昭和二十五年法律第百十八号。以下「法」という。)第七条の二の規定に基づく図書館の設置及び運営上の望ましい基準であり、図書館の健全な発展に資することを目的とする。
- 2 図書館は、この基準を踏まえ、法第三条に掲げる事項等の図書館サービスの実施に努めなければならない。

二 設置の基本

- 1 市(特別区を含む。以下同じ。)町村は、住民に対して適切な図書館サービスを行うことができるよう、住民の生活圏、図書館の利用圏等を十分に考慮し、市町村立図書館及び分館等の設置に努めるとともに、必要に応じ移動図書館の活用を行うものとする。併せて、市町村立図書館と公民館図書室等との連携を推進することにより、当該市町村

の全域サービス網の整備に努めるものとする。

- 2 都道府県は、都道府県立図書館の拡充に努め、住民に対して適切な図書館サービスを行うとともに、図書館未設置の町村が多く存在することも踏まえ、当該都道府県内の図書館サービスの全体的な進展を図る観点に立って、市町村に対して市町村立図書館の設置及び運営に関する必要な指導・助言等を行うものとする。
- 3 公立図書館(法第二条第二項に規定する公立図書館をいう。以下同じ。)の設置に当たっては、サービス対象地域の人口分布と人口構成、面積、地形、交通網等を勘案して、適切な位置及び必要な図書館施設の床面積、蔵書収蔵能力、職員数等を確保するよう努めるものとする。

三 運営の基本

- 1 図書館の設置者は、当該図書館の設置の目的を適切に達成するため、司書及び司書補の確保並びに資質・能力の向上に十分留意しつつ、必要な管理運営体制の構築に努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、資料(電磁的記録を含む。以下同じ。)や情報の提供等の利用者及び住民に対する直接的なサービスの実施や、読書活動の振興を担う機関として、また、地域の情報拠点として、利用者及び住民の要望や社会の要請に応え、地域の実情に即した運営に努めるものとする。
- 3 都道府県立図書館は、前項に規定する事項に努めるほか、住民の需要を広域的かつ総合的に把握して、資料及び情報を体系的に収集、整理、保存及び提供すること等を通じて、市町村立図書館に対する円滑な図書館運営の確保のための援助に努めるとともに、当該都道府県内の図書館間の連絡調整等の推進に努めるものとする。
- 4 私立図書館(法第二条第二項に規定する私立図書館をいう。以下同じ。)は、当該図書館を設置する法人の目的及び当該図書館の設置の目的に基づき、広く公益に資するよう運営を行うことが望ましい。
- 5 図書館の設置者は、当該図書館の管理を他の者に行わせる場合には、当該図書館の事業の継続的かつ安定的な実施の確保、事業の水準の維持及び向上、司書及び司書補の確保並びに資質・能力の向上等が図られるよう、当該管理者との緊密な連携の下に、この基準に定められた事項が確実に実施されるよう努めるものとする。

四 連携・協力

- 1 図書館は、高度化・多様化する利用者及び住民の要望に対応するとともに、利用者及び住民の学習活動を支援する機能の充実を図るため、資料や情報の相互利用などの他の施設・団体等との協力を積極的に推進するよう努めるものとする。
- 2 図書館は、前項の活動の実施に当たっては、図書館相互の連携のみならず、国立国会図書館、地方公共団体の議会

に附置する図書室、学校図書館及び大学図書館等の図書施設、学校、博物館及び公民館等の社会教育施設、関係行政機関並びに民間の調査研究施設及び民間団体等との連携にも努めるものとする。

五 著作権等の権利の保護

図書館は、その運営に当たって、職員や利用者が著作権法（昭和四十五年法律第四十八号）その他の法令に規定する権利を侵害することのないよう努めるものとする。

六 危機管理

- 1 図書館は、事故、災害その他非常の事態による被害を防止するため、当該図書館の特性を考慮しつつ、想定される事態に係る危機管理に関する手引書の作成、関係機関と連携した危機管理に関する訓練の定期的な実施その他の十分な措置を講じるものとする。
- 2 図書館は、利用者の安全の確保のため、防災上及び衛生上必要な設備を備えるものとする。

第二 公立図書館

一 市町村立図書館

1 管理運営

（一）基本的運営方針及び事業計画

- 1 市町村立図書館は、その設置の目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針（以下「基本的運営方針」という。）を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、基本的運営方針を踏まえ、図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定するとともに、事業年度ごとに、当該事業年度の事業計画を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、基本的運営方針並びに前項の指標、目標及び事業計画の策定に当たっては、利用者及び住民の要望並びに社会の要請に十分留意するものとする。

（二）運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、（一）の2の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。
- 2 市町村立図書館は、前項の点検及び評価のほか、当該図書館の運営体制の整備の状況に応じ、図書館協議会（法第十四条第一項に規定する図書館協議会をいう。以下同じ。）の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係

者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、図書館の事業に関して学識経験のある者、図書館の利用者、住民その他の関係者・第三者による評価を行うよう努めるものとする。

- 3 市町村立図書館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
- 4 市町村立図書館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）をはじめとした多様な媒体を活用すること等により、積極的に公表するよう努めなければならない。

（三）広報活動及び情報公開

市町村立図書館は、当該図書館に対する住民の理解と関心を高め、利用者の拡大を図るため、広報紙等の定期的な刊行やインターネット等を活用した情報発信等、積極的かつ計画的な広報活動及び情報公開に努めるものとする。

（四）開館日時等

市町村立図書館は、利用者及び住民の利用を促進するため、開館日・開館時間の設定に当たっては、地域の実情や利用者及び住民の多様な生活時間等に配慮するものとする。また、移動図書館を運行する場合は、適切な周期による運行等に努めるものとする。

（五）図書館協議会

- 1 市町村教育委員会は、図書館協議会を設置し、地域の実情を踏まえ、利用者及び住民の要望を十分に反映した図書館の運営がなされるよう努めるものとする。
- 2 図書館協議会の委員には、法第十六条の規定により条例で定める委員の任命の基準に従いつつ、地域の実情に応じ、多様な人材の参画を得るよう努めるものとする。

（六）施設・設備

- 1 市町村立図書館は、この基準に示す図書館サービスの水準を達成するため、図書館資料の開架・閲覧、保存、視聴覚資料の視聴、情報の検索・レファレンスサービス、集会・展示、事務管理等に必要な施設・設備を確保するよう努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、高齢者、障害者、乳幼児とその保護者及び外国人その他特に配慮を必要とする者が図書館施設を円滑に利用できるよう、傾斜路や対面朗読室等の施設の整備、拡大読書器等資料の利用に必要な機器の整備、点字及び外国語による表示の充実等に努めるとともに、児童・青少年の利用を促進するため、専用スペースの確保等に努めるものとする。

2 図書館資料

（一）図書館資料の収集等

- 1 市町村立図書館は、利用者及び住民の要望、社会の要請

並びに地域の実情に十分留意しつつ、図書館資料の収集に関する方針を定め、公表するよう努めるものとする。

- 2 市町村立図書館は、前項の方針を踏まえ、充実した図書館サービスを実施する上で必要となる十分な量の図書館資料を計画的に整備するよう努めるものとする。その際、郷土資料及び地方行政資料、新聞の全国紙及び主要な地方紙並びに視聴覚資料等多様な資料の整備にも努めるものとする。また、郷土資料及び地方行政資料の電子化に努めるものとする。

（二）図書館資料の組織化

市町村立図書館は、利用者の利便性の向上を図るため、図書館資料の分類、配架、目録・索引の整備等による組織化に十分配慮するとともに、書誌データの整備に努めるものとする。

3 図書館サービス

（一）貸出サービス等

市町村立図書館は、貸出サービスの充実を図るとともに、予約制度や複写サービス等の運用により利用者の多様な資料要求に的確に応えるよう努めるものとする。

（二）情報サービス

- 1 市町村立図書館は、インターネット等や商用データベース等の活用にも留意しつつ、利用者の求めに応じ、資料の提供・紹介及び情報の提示等を行うレファレンスサービスの充実・高度化に努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、図書館の利用案内、テーマ別の資料案内、資料検索システムの供用等のサービスの充実に努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレフェラルサービスの実施に努めるものとする。

（三）地域の課題に対応したサービス

市町村立図書館は、利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題の解決に向けた活動を支援するため、利用者及び住民の要望並びに地域の実情を踏まえ、次に掲げる事項その他のサービスの実施に努めるものとする。

- ア 就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事等に関する資料及び情報の整備・提供
- イ 子育て、教育、若者の自立支援、健康・医療、福祉、法律・司法手続等に関する資料及び情報の整備・提供
- ウ 地方公共団体の政策決定、行政事務の執行・改善及びこれらに関する理解に必要な資料及び情報の整備・提供

（四）利用者に対応したサービス

市町村立図書館は、多様な利用者及び住民の利用を促進す

るため、関係機関・団体と連携を図りながら、次に掲げる事項その他のサービスの充実に努めるものとする。

- ア（児童・青少年に対するサービス）児童・青少年用図書
の整備・提供、児童・青少年の読書活動を促進するための
読み聞かせ等の実施、その保護者等を対象とした講座・展
示会の実施、学校等の教育施設等との連携
- イ（高齢者に対するサービス）大活字本、録音資料等の整
備・提供、図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サ
ービスの実施
- ウ（障害者に対するサービス）点字資料、大活字本、録音
資料、手話や字幕入りの映像資料等の整備・提供、手話・
筆談等によるコミュニケーションの確保、図書館利用の際
の介助、図書館資料等の代読サービスの実施
- エ（乳幼児とその保護者に対するサービス）乳幼児向けの
図書及び関連する資料・情報の整備・提供、読み聞かせの
支援、講座・展示会の実施、託児サービスの実施
- オ（外国人等に対するサービス）外国語による利用案内の
作成・頒布、外国語資料や各国事情に関する資料の整備・
提供
- カ（図書館への来館が困難な者に対するサービス）宅配
サービスの実施

（五）多様な学習機会の提供

- 1 市町村立図書館は、利用者及び住民の自主的・自発的な
学習活動を支援するため、講座、相談会、資料展示会等を
主催し、又は関係行政機関、学校、他の社会教育施設、民
間の関係団体等と共催して多様な学習機会の提供に努め
るとともに、学習活動のための施設・設備の供用、資料の
提供等を通じ、その活動環境の整備に努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、利用者及び住民の情報活用能力の向
上を支援するため、必要な学習機会の提供に努めるもの
とする。

（六）ボランティア活動等の促進

- 1 市町村立図書館は、図書館におけるボランティア活動
が、住民等が学習の成果を活用する場であるとともに、図
書館サービスの充実に資するものであることにかんが
み、読み聞かせ、代読サービス等の多様なボランティア活
動等の機会や場所を提供するよう努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、前項の活動への参加を希望する者
に対し、当該活動の機会や場所に関する情報の提供や当該活
動を円滑に行うための研修等を実施するよう努めるもの
とする。

4 職員

（一）職員の配置等

- 1 市町村教育委員会は、市町村立図書館の館長として、そ
の職責にかんがみ、図書館サービスその他の図書館の運営
及び行政に必要な知識・経験とともに、司書となる資格を
有する者を任命することが望ましい。

- 2 市町村教育委員会は、市町村立図書館が専門的なサービスを実施するために必要な数の司書及び司書補を確保するよう、その積極的な採用及び処遇改善に努めるとともに、これら職員の職務の重要性にかんがみ、その資質・能力の向上を図る観点から、第一の四の2に規定する関係機関等との計画的な人事交流（複数の市町村又は都道府県の機関等との広域的な人事交流を含む。）に努めるものとする。
- 3 市町村立図書館には、前項の司書及び司書補のほか、必要な数の職員を置くものとする。
- 4 市町村立図書館は、専門的分野に係る図書館サービスの充実を図るため、必要に応じ、外部の専門的知識・技術を有する者の協力を得るよう努めるものとする。

（二）職員の研修

- 1 市町村立図書館は、司書及び司書補その他の職員の資質・能力の向上を図るため、情報化・国際化の進展等に留意しつつ、これらの職員に対する継続的・計画的な研修の実施等に努めるものとする。
- 2 市町村教育委員会は、市町村立図書館の館長その他の職員の資質・能力の向上を図るため、各種研修機会の拡充に努めるとともに、文部科学大臣及び都道府県教育委員会等が主催する研修その他必要な研修にこれら職員を参加させるよう努めるものとする。

子どもの読書活動の推進に関する法律（抄）

（平成十三年十二月十二日）
（法律第百五十四号）

（目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健全な成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 （省略）
- 3 （省略）

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

著作権法（抄）

（昭和四十五年五月六日）
（法律第四十八号）

最終改正：平成二八年一二月一六日
法律第一〇八号

第一章 総 則

第一節 通 則

（目的）

第一条 この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作権者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作物等の権利の保護を図り、もつて文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 著作物 思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。
- 二 著作者 著作物を創作する者をいう。
- 三 実演 著作物を、演劇的に演じ、舞い、演奏し、歌い、口演し、朗詠し、又はその他の方法により演ずること（これらに類する行為で、著作物を演じないが芸能的な性質を有するものを含む。）をいう。
- 四 実演家 俳優、舞踊家、演奏家、歌手その他実演を行う者及び実演を指揮し、又は演出する者をいう。
- 五 レコード 蓄音機用音盤、録音テープその他の物に音を固定したもの（音を専ら影像とともに再生することを目的とするものを除く。）をいう。
- 六 レコード製作者 レコードに固定されている音を最初に固定した者をいう。
- 七 商業用レコード 市販の目的をもつて製作されるレコードの複製物をいう。
- 七の二 公衆送信 公衆によつて直接受信されることを目的として無線通信又は有線電気通信の送信（電気通信設備で、その一部分の設置の場所が他の部分の設置の場所と同一の構内（その構内が二以上の者の占有に属している場合には、同一の者の占有に属する区域内）にあるものによる送信（プログラムの著作物の送信を除く。）を除く。）を行うことをいう。
- 八 放送 公衆送信のうち、公衆によつて同一の内容の送信が同時に受信されることを目的として行う無線通信の送信をいう。

九 放送事業者 放送を業として行う者をいう。

九の二 有線放送 公衆送信のうち、公衆によつて同一の内容の送信が同時に受信されることを目的として行う有線電気通信の送信をいう。

九の三 有線放送事業者 有線放送を業として行う者をいう。

九の四 自動公衆送信 公衆送信のうち、公衆からの求めに応じ自動的に行うもの（放送又は有線放送に該当するものを除く。）をいう。

九の五 送信可能化 次のいずれかに掲げる行為により自動公衆送信し得るようにすることをいう。

イ （省略）

ロ （省略）

十 映画製作者 映画の著作物の製作に発意と責任を有する者をいう。

十の二 プログラム 電子計算機を機能させて一の結果を得ることができるようにこれに対する指令を組み合わせたものとして表現したものをいう。

十の三 データベース 論文、数値、図形その他の情報の集合物であつて、それらの情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したものをいう。

十一 二次的著作物 著作物を翻訳し、編曲し、若しくは変形し、又は脚色し、映画化し、その他翻案することにより創作した著作物をいう。

十二 共同著作物 二人以上の者が共同して創作した著作物であつて、その各人の寄与を分離して個別的に利用することができないものをいう。

十三 録音 音を物に固定し、又はその固定物を増製することをいう。

十四 録画 影像を連続して物に固定し、又はその固定物を増製することをいう。

十五 複製 印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により有形的に再製することをいい、次に掲げるものについては、それぞれ次に掲げる行為を含むものとする。

イ 脚本その他これに類する演劇用の著作物 当該著作物の上演、放送又は有線放送を録音し、又は録画すること。

ロ 建築の著作物 建築に関する図面に従つて建築物を完成すること。

十六 上演 演奏（歌唱を含む。以下同じ。）以外の方法により著作物を演ずることをいう。

十七 上映 著作物（公衆送信されるものを除く。）を映写幕その他の物に映写することをいい、これに伴つて映画の著作物において固定されている音を再生することを含むものとする。

十八 口述 朗読その他の方法により著作物を口頭で伝達すること（実演に該当するものを除く。）をいう。

十九 頒布 有償であるか又は無償であるかを問わず、複製物を公衆に譲渡し、又は貸与することをいい、映画の著作物又は映画の著作物において複製されている著作物にあつては、これらの著作物を公衆に提示することを目

的として当該映画の著作物の複製物を譲渡し、又は貸与することを含むものとする。

二十 技術的保護手段 電子的方法、磁気的方法その他の人の知覚によつて認識することができない方法（次号において「電磁的方法」という。）により、第十七条第一項に規定する著作人格権若しくは著作権又は第八十九条第一項に規定する実演家人格権若しくは同条第六項に規定する著作隣接権（以下この号、第三十条第一項第二号及び第二百二十条の二第一号において「著作権等」という。）を侵害する行為の防止又は抑止（著作権等を侵害する行為の結果に著しい障害を生じさせることによる当該行為の抑止をいう。第三十条第一項第二号において同じ。）をする手段（著作権等を有する者の意思に基づくことなく用いられているものを除く。）であつて、著作物、実演、レコード、放送又は有線放送（次号において「著作物等」という。）の利用（著作者又は実演家の同意を得ないで行つたとしたならば著作人格権又は実演家人格権の侵害となるべき行為を含む。）に際し、これに用いられる機器が特定の反応をする信号を著作物、実演、レコード若しくは放送若しくは有線放送に係る音若しくは影像とともに記録媒体に記録し、若しくは送信する方式又は当該機器が特定の変換を必要とするよう著作物、実演、レコード若しくは放送若しくは有線放送に係る音若しくは影像を変換して記録媒体に記録し、若しくは送信する方式によるものをいう。

二十一 権利管理情報 第十七条第一項に規定する著作人格権若しくは著作権又は第八十九条第一項から第四項までの権利（以下この号において「著作権等」という。）に関する情報であつて、イからハまでのいずれかに該当するもののうち、電磁的方法により著作物、実演、レコード又は放送若しくは有線放送に係る音若しくは影像とともに記録媒体に記録され、又は送信されるもの（著作物等の利用状況の把握、著作物等の利用の許諾に係る事務処理その他の著作権等の管理（電子計算機によるものに限る。）に用いられていないものを除く。）をいう。

イ 著作物等、著作権等を有する者その他法令で定める事項を特定する情報

ロ 著作物等の利用を許諾する場合の利用方法及び条件に関する情報

ハ 他の情報と照合することによりイ又はロに掲げる事項を特定することができることとなる情報

二十二 （省略）

二十三 （省略）

2～9 （省略）

第二章 著作者の権利

第一節 著作物

（著作物の例示）

第十条 この法律にいう著作物を例示すると、おおむね次のとおりである。

- 一 小説、脚本、論文、講演その他の言語の著作物
- 二 音楽の著作物
- 三 舞踊又は無言劇の著作物
- 四 絵画、版画、彫刻その他の美術の著作物
- 五 建築の著作物
- 六 地図又は学術的な性質を有する図面、図表、模型その他の図形の著作物
- 七 映画の著作物
- 八 写真の著作物
- 九 プログラムの著作物

2 事実の伝達にすぎない雑報及び時事の報道は、前項第一号に掲げる著作物に該当しない。

3 第一項第九号に掲げる著作物に対するこの法律による保護は、その著作物を作成するために用いるプログラム言語、規約及び解法に及ばない。この場合において、これらの用語の意義は、次の各号に定めるところによる。

- 一 プログラム言語 プログラムを表現する手段としての文字その他の記号及びその体系をいう。
- 二 規約 特定のプログラムにおける前号のプログラム言語の用法についての特別の約束をいう。
- 三 解法 プログラムにおける電子計算機に対する指令の組合せの方法をいう。

（二次的著作物）

第十一条 二次的著作物に対するこの法律による保護は、その原著物の著作者の権利に影響を及ぼさない。

（編集著作物）

第十二条 編集物（データベースに該当するものを除く。以下同じ。）でその素材の選択又は配列によつて創作性を有するものは、著作物として保護する。

2 前項の規定は、同項の編集物の部分を構成する著作物の著作者の権利に影響を及ぼさない。

（データベースの著作物）

第十二条の二 データベースでその情報の選択又は体系的な構成によつて創作性を有するものは、著作物として保護する。

2 前項の規定は、同項のデータベースの部分を構成する著作物の著作者の権利に影響を及ぼさない。

（権利の目的とならない著作物）

第十三条 次の各号のいずれかに該当する著作物は、この章

の規定による権利の目的となることができない。

一 憲法その他の法令

二 国若しくは地方公共団体の機関、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三十三号）第二条第一項に規定する独立行政法人をいう。以下同じ。）又は地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成十五年法律第百十八号）第二条第一項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。）が発する告示、訓令、通達その他これらに類するもの

三 裁判所の判決、決定、命令及び審判並びに行政庁の裁決及び決定で裁判に準ずる手続により行われるもの

四 前三号に掲げるものの翻訳物及び編集物で、国若しくは地方公共団体の機関、独立行政法人又は地方独立行政法人が作成するもの

第三節 権利の内容

第五款 著作権の制限

（私的使用のための複製）

第三十条 著作権の目的となつてゐる著作物（以下この款において単に「著作物」という。）は、個人的に又は家庭内その他これに準ずる限られた範囲内において使用すること（以下「私的使用」という。）を目的とするときは、次に掲げる場合を除き、その使用する者が複製することができる。

一 公衆の使用に供することを目的として設置されている自動複製機器（複製の機能を有し、これに関する装置の全部又は主要な部分が自動化されている機器をいう。）を用いて複製する場合

二 技術的保護手段の回避（第二条第一項第二十号に規定する信号の除去若しくは改変（記録又は送信の方式の変換に伴う技術的な制約による除去又は改変を除く。）を行うこと又は同号に規定する特定の変換を必要とするよう変換された著作物、実演、レコード若しくは放送若しくは有線放送に係る音若しくは映像の復元（著作権等を有する者の意思に基づいて行われるものを除く。）を行うことにより、当該技術的保護手段によつて防止される行為を可能とし、又は当該技術的保護手段によつて抑止される行為の結果に障害を生じないようにすることをいう。第百二十条の二第一号及び第二号において同じ。）により可能となり、又はその結果に障害が生じなくなつた複製を、その事実を知りながら行う場合

三 著作権を侵害する自動公衆送信（国外で行われる自動公衆送信であつて、国内で行われたとしたならば著作権の侵害となるべきものを含む。）を受信して行うデジタル方式の録音又は録画を、その事実を知りながら行う場合

2 私的使用を目的として、デジタル方式の録音又は録画の機能を有する機器（放送の業務のための特別の性能その他の私的使用に通常供されない特別の性能を有するもの及び録音機能付きの電話機その他の本来の機能に附属する機能

として録音又は録画の機能を有するものを除く。）であつて政令で定めるものにより、当該機器によるデジタル方式の録音又は録画の用に供される記録媒体であつて政令で定めるものに録音又は録画を行う者は、相当な額の補償金を著作権者に支払わなければならない。

（図書館等における複製等）

第三十一条 国立国会図書館及び図書、記録その他の資料を公衆の利用に供することを目的とする図書館その他の施設で政令で定めるもの（以下この項及び第三項において「図書館等」という。）においては、次に掲げる場合には、その営利を目的としない事業として、図書館等の図書、記録その他の資料（以下この条において「図書館資料」という。）を用いて著作物を複製することができる。

一 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分（発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあつては、その全部。第三項において同じ。）の複製物を一人につき一部提供する場合

二 図書館資料の保存のため必要がある場合

三 他の図書館等の求めに応じ、絶版その他これに準ずる理由により一般に入手することが困難な図書館資料（以下この条において「絶版等資料」という。）の複製物を提供する場合

2 前項各号に掲げる場合のほか、国立国会図書館においては、図書館資料の原本を公衆の利用に供することによるその滅失、損傷若しくは汚損を避けるために当該原本に代えて公衆の利用に供するため、又は絶版等資料に係る著作物を次項の規定により自動公衆送信（送信可能化を含む。同項において同じ。）に用いるため、電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。以下同じ。）を作成する場合には、必要と認められる限度において、当該図書館資料に係る著作物を記録媒体に記録することができる。

3 国立国会図書館は、絶版等資料に係る著作物について、図書館等において公衆に提示することを目的とする場合には、前項の規定により記録媒体に記録された当該著作物の複製物を用いて自動公衆送信を行うことができる。この場合において、当該図書館等においては、その営利を目的としない事業として、当該図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、自動公衆送信される当該著作物の一部分の複製物を作成し、当該複製物を一人につき一部提供することができる。

（視覚障害者等のための複製等）

第三十七条 公表された著作物は、点字により複製することができる。

2 公表された著作物については、電子計算機を用いて点字を処理する方式により、記録媒体に記録し、又は公衆送信（放送又は有線放送を除き、自動公衆送信の場合にあつて

は送信可能化を含む。)を行うことができる。

- 3 視覚障害者その他視覚による表現の認識に障害のある者(以下この項及び第百二条第四項において「視覚障害者等」という。)の福祉に関する事業を行う者で政令で定めるものは、公表された著作物であつて、視覚によりその表現が認識される方式(視覚及び他の知覚により認識される方式を含む。)により公衆に提供され、又は提示されているもの(当該著作物以外の著作物で、当該著作物において複製されているものその他当該著作物と一体として公衆に提供され、又は提示されているものを含む。以下この項及び同条第四項において「視覚著作物」という。)について、専ら視覚障害者等で当該方式によつては当該視覚著作物を利用することが困難な者の用に供するために必要と認められる限度において、当該視覚著作物に係る文字を音声にすることその他当該視覚障害者等が利用するために必要な方式により、複製し、又は自動公衆送信(送信可能化を含む。)を行うことができる。ただし、当該視覚著作物について、著作権者又はその許諾を得た者若しくは第七十九条の出版権の設定を受けた者若しくはその複製許諾若しくは公衆送信許諾を得た者により、当該方式による公衆への提供又は提示が行われている場合は、この限りでない。

(営利を目的としない上演等)

第三十八条 公表された著作物は、営利を目的とせず、かつ、聴衆又は観衆から料金(いずれの名義をもつてするかを問わず、著作物の提供又は提示につき受ける対価をいう。以下この条において同じ。)を受けない場合には、公に上演し、演奏し、上映し、又は口述することができる。ただし、当該上演、演奏、上映又は口述について実演家又は口述を行う者に対し報酬が支払われる場合は、この限りでない。

2～5 (省略)

第七節 権利の行使

(著作物の利用の許諾)

第六十三条 著作権者は、他人に対し、その著作物の利用を許諾することができる。

- 2 前項の許諾を得た者は、その許諾に係る利用方法及び条件の範囲内において、その許諾に係る著作物を利用することができる。
- 3 第一項の許諾に係る著作物を利用する権利は、著作権者の承諾を得ない限り、譲渡することができない。
- 4 著作物の放送又は有線放送についての第一項の許諾は、契約に別段の定めがない限り、当該著作物の録音又は録画の許諾を含まないものとする。
- 5 著作物の送信可能化について第一項の許諾を得た者が、その許諾に係る利用方法及び条件(送信可能化の回数又は送信可能化に用いる自動公衆送信装置に係るものを除く。)の範囲内において反復して又は他の自動公衆送信装置を用いて行う当該著作物の送信可能化については、第二十三条第一項の規定は、適用しない。

第八章 罰 則

第一百九条 著作権、出版権又は著作隣接権を侵害した者(第三十条第一項(第百二条第一項において準用する場合を含む。第三項において同じ。)に定める私的使用の目的をもつて自ら著作物若しくは実演等の複製を行つた者、第百十三条第三項の規定により著作権若しくは著作隣接権(同条第四項の規定により著作隣接権とみなされる権利を含む。第百二十条の二第三号において同じ。)を侵害する行為とみなされる行為を行つた者、第百十三条第五項の規定により著作権若しくは著作隣接権を侵害する行為とみなされる行為を行つた者又は次項第三号若しくは第四号に掲げる者を除く。)は、十年以下の懲役若しくは千万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

2 次の各号のいずれかに該当する者は、五年以下の懲役若しくは五百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

一 著作者人格権又は実演家人格権を侵害した者(第百十三条第三項の規定により著作者人格権又は実演家人格権を侵害する行為とみなされる行為を行つた者を除く。)

二 営利を目的として、第三十条第一項第一号に規定する自動複製機器を著作権、出版権又は著作隣接権の侵害となる著作物又は実演等の複製に使用させた者

三 第百十三条第一項の規定により著作権、出版権又は著作隣接権を侵害する行為とみなされる行為を行つた者

四 第百十三条第二項の規定により著作権を侵害する行為とみなされる行為を行つた者

3 第三十条第一項に定める私的使用の目的をもつて、有償著作物等(録音され、又は録画された著作物又は実演等(著作権又は著作隣接権の目的となつているものに限る。)であつて、有償で公衆に提供され、又は提示されているもの(その提供又は提示が著作権又は著作隣接権を侵害しないものに限る。)をいう。)の著作権又は著作隣接権を侵害する自動公衆送信(国外で行われる自動公衆送信であつて、国内で行われたとしたならば著作権又は著作隣接権の侵害となるべきものを含む。)を受信して行うデジタル方式の録音又は録画を、自らその事実を知りながら行つて著作権又は著作隣接権を侵害した者は、二年以下の懲役若しくは二百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

著作権法施行令（抄）

（昭和四十五年十二月十日）
（政令第三百三十五号）

最終改正：平成二九年十一月十五日
政令第二八三号

第一章の二 著作物等の複製等が認められる施設等

（図書館資料の複製が認められる図書館等）

第一条の三 法第三十一条第一項（法第八十六条第一項及び第百二条第一項において準用する場合を含む。）の政令で定める図書館その他の施設は、次に掲げる施設で図書館法（昭和二十五年法律第百十八号）第四条第一項の司書又はこれに相当する職員として文部科学省令で定める職員（以下「司書等」という。）が置かれているものとする。

一 図書館法第二条第一項の図書館

二～六 （省略）

2 （省略）

（視覚障害者等のための複製等が認められる者）

第二条 法第三十七条第三項（法第八十六条第一項及び第三項並びに第百二条第一項において準用する場合を含む。）の政令で定める者は、次に掲げる者とする。

一 次に掲げる施設を設置して視覚障害者等のために情報を提供する事業を行う者（イ、ニ又はチに掲げる施設を設置する者にあつては国、地方公共団体又は一般社団法人等、ホに掲げる施設を設置する者にあつては地方公共団体、公益社団法人又は公益財団法人に限る。）

イ～ニ （省略）

ホ 図書館法第二条第一項の図書館（司書等が置かれているものに限る。）

ヘ～チ （省略）

二 （省略）

2 （省略）

（聴覚障害者等のための複製等が認められる者）

第二条の二 法第三十七条の二（法第八十六条第一項及び第三項並びに第百二条第一項において準用する場合を含む。）の政令で定める者は、次の各号に掲げる利用の区分に応じて当該各号に定める者とする。

一 （省略）

二 法第三十七条の二第二号（法第八十六条第一項及び第百二条第一項において準用する場合を含む。）に掲げる利用 次に掲げる者（同号の規定の適用を受けて作成された複製物の貸出しを文部科学省令で定める基準に従つて行う者に限る。）

イ 次に掲げる施設を設置して聴覚障害者等のために情

報を提供する事業を行う者（（2）に掲げる施設を設置する者にあつては国、地方公共団体又は一般社団法人等、（3）に掲げる施設を設置する者にあつては地方公共団体、公益社団法人又は公益財団法人に限る。）

（1）～（2） （省略）

（3） 図書館法第二条第一項の図書館（司書等が置かれているものに限る。）

（4） （省略）

ロ （省略）

2 （省略）

（映画の著作物の複製物の貸与が認められる施設）

第二条の三 法第三十八条第五項の政令で定める施設は、次に掲げるものとする。

一 （省略）

二 図書館法第二条第一項の図書館

三 （省略）

2 （省略）

第2 条例・規則

新宿区立図書館条例

昭和44年3月31日
条例第14号

最終改正：平成30年6月21日
条例第49号

新宿区立図書館設置条例(昭和26年3月新宿区条例第6号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 区民の教育と文化の発展に寄与するため、図書館法(昭和25年法律第118号。以下「法」という。)第10条の規定に基づき、新宿区立図書館(以下「館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 館の名称及び位置は、別表第1のとおりとする。
2 新宿区立中央図書館に分室を置き、その名称及び位置は、別表第2のとおりとする。

(事業)

第3条 館においては、法第3条の規定に基づき、次に掲げる事業(新宿区立中央図書館区役所内分室にあつては、第4号から第6号までに掲げる事業を除く。)を行うものとする。

- (1) 法第3条第1号に規定する図書館資料(以下「図書館資料」という。)の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 図書館資料の館内での利用及び館外への貸出しに関すること。
- (3) 読書相談、読書案内及び参考調査に関すること。
- (4) 読書会、映写会、講習会、展示会等の開催及び奨励に関すること。
- (5) 館を利用することに障害がある者に対する利用の援助に関すること。
- (6) 他の図書館、学校その他教育機関等との相互協力に関すること。
- (7) その他館の目的を達成するために新宿区教育委員会(以下「委員会」という。)が必要と認める事業

2 新宿区立こども図書館においては、前項各号に掲げる事業を行うほか、子どもの読書活動の推進のため、法第3条の規定に基づき、次に掲げる事業を行うものとする。

- (1) 子どもの読書環境の整備に関すること。
- (2) 新宿区立の小学校、中学校及び特別支援学校の学校図書館の支援に関すること。
- (3) 他の館で行う子どもに対する図書館サービスの支援に関すること。

(開館時間)

第4条 館の開館時間は、別表第3のとおりとする。ただし、委員会が必要と認めるときは、これを変更することができる。

2 第6条に規定する指定管理者に管理を行わせる館にあつては、前項ただし書に定める場合のほか、同条に規定する指定管理者が特に必要と認めるときは、委員会の承認を受けて、同項本文に規定する開館時間を変更することができる。

(休館日)

第5条 館の休館日は、別表第4のとおりとする。ただし、委員会が必要と認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

2 次条に規定する指定管理者に管理を行わせる館にあつては、前項ただし書に定める場合のほか、同条に規定する指定管理者が特に必要と認めるときは、委員会の承認を受けて、同項本文に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(指定管理者による管理)

第6条 別表第5に掲げる館(以下「指定図書館」という。)の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(管理業務)

第7条 指定管理者は、次に掲げる業務(以下「管理業務」という。)を行うものとする。

- (1) 第3条第1項各号に掲げる事業に関する業務
- (2) 指定図書館の施設及び設備(以下「施設等」という。)の維持管理に関する業務
- (3) その他指定図書館の管理に関し、委員会が必要と認める業務

(公募及び申請)

第8条 委員会は、新宿区教育委員会規則(以下「規則」という。)で定めるところにより、指定管理者の指定を受けようとする団体を公募するものとする。

2 指定管理者の指定を受けようとする団体は、規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、委員会に申請しなければならない。

- (1) 指定図書館の事業計画書(以下「事業計画書」という。)
- (2) その他委員会が必要なものとして規則で定める書類

(選定の方法及び基準)

第9条 委員会は、規則で定める申請期間内に前条第2項の規定により申請した団体(以下「申請団体」という。)の中から、次に掲げる選定の基準に照らし、指定図書館の管理を行わせるに最も適当と認める団体を、指定管理者と

なるべき団体として選定するものとする。

- (1) 事業計画書の内容が、指定図書館を利用するものの平等な利用を確保するものであること。
- (2) 事業計画書の内容が、指定図書館を利用するものへのサービスの向上を図るものであること。
- (3) 事業計画書の内容が、指定図書館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、その管理に係る経費（以下「管理経費」という。）の縮減を図るものであること。
- (4) 当該申請団体が、事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力及び人的能力を有していること。
- (5) その他委員会が指定図書館の指定管理者となるべき団体を選定するために必要と認める基準

（選定の結果の通知）

第10条 委員会は、前条の規定による選定を行つたときはすべての申請団体に速やかにその結果を通知しなければならない。

（再度の選定）

第11条 委員会は、第9条の規定により指定管理者となるべき団体として選定した申請団体（以下「被選定団体」という。）が次の各号のいずれかに該当するときは、当該被選定団体を除く申請団体の中から同条の規定により指定管理者となるべき団体を再び選定することができる。

- (1) 被選定団体の事情により、指定管理者の指定を受けることが不可能となつたとき。
- (2) 新たに判明した事実により、指定図書館の管理を行うことが適当でないと認められるとき。

2 委員会は、前項の規定により指定管理者となるべき団体を再び選定する場合（被選定団体から指定管理者となることを辞退する旨の申出があつた場合を除く。）には、前条の規定により選定の結果を通知した被選定団体に対し、速やかに当該通知を取り消す旨を通知しなければならない。

（指定管理者の指定）

第12条 指定管理者の指定は、被選定団体について、地方自治法第244条の2第6項の議決を経た後、行うものとする。

（指定管理者の指定等の公告）

第13条 委員会は、次の各号のいずれかの場合には、遅滞なく、その旨を公告しなければならない。

- (1) 前条の規定により指定管理者の指定を行つたとき。
- (2) 第17条の規定により指定管理者の指定を取り消し、又はその管理業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

（協定の締結）

第14条 新宿区（以下「区」という。）及び指定管理者は、指定図書館の管理に関し、次に掲げる事項について協定を締結しなければならない。

- (1) 事業計画書に関する事項
- (2) 管理経費に関する事項
- (3) 管理業務を行うに当たつて指定管理者が収集し、保管し、又は利用する個人情報の保護に関する事項
- (4) 地方自治法第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）に関する事項
- (5) 第17条の規定による指定の取消し及び管理業務の停止の命令に関する事項
- (6) 指定図書館の管理上区に生じた損害の賠償責任に関する事項
- (7) その他指定図書館の管理に関し、区が必要と認める事項

（事業報告書の作成及び提出）

第15条 事業報告書は、毎年度終了後30日以内に提出しなければならない。ただし、指定管理者が年度の途中において第17条の規定により指定管理者の指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に、当該年度の管理業務を開始した日から当該取り消された日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

2 事業報告書には、次に掲げる事項を記載するものとする。

- (1) 当該年度の管理業務の実施状況
- (2) 当該年度の指定図書館の利用状況
- (3) 当該年度の管理経費の収支状況
- (4) その他委員会が指定図書館の管理の実態を把握するために必要なものとして規則で定める事項

（管理業務等の報告の聴取等）

第16条 委員会は、指定図書館の管理の適正を期するため、指定管理者に対し、当該管理業務又は当該管理業務に係る経理の状況に関し、定期若しくは臨時に報告を求め、実地について調査し、又は必要な指示を行うことができる。

（指定の取消し等）

第17条 指定管理者の指定の取消し又は期間を定めて行う管理業務の全部若しくは一部の停止の命令は、次の各号のいずれかの場合に行うものとする。

- (1) 指定管理者が前条の指示に従わないとき。
- (2) その他当該指定管理者による指定図書館の管理を継続することが適当でないと認められるとき。

（原状回復の義務）

第18条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は前条の規定により指定管理者の指定を取り消され、若しくは管理業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、直ちに指定図書館の施設等を原状に回復しなければならない。ただし、委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

（損害賠償の義務）

第 19 条 館を利用するものが館の図書館資料若しくは施設等に損害を与えたとき又は指定管理者が指定図書館の図書館資料若しくは施設等に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その賠償額を減額し、又は免除することができる。

(規則への委任)

第 20 条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則 (抄)

附 則 (平成 30 年 6 月 21 日条例第 49 号)

この条例は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

別表第 1 (第 2 条関係)

名 称	位 置
新宿区立中央図書館	東京都新宿区大久保三丁目 1 番 1 号
新宿区立四谷図書館	東京都新宿区内藤町 87 番地
新宿区立鶴巻図書館	東京都新宿区早稲田鶴巻町 521 番地
新宿区立西落合図書館	東京都新宿区西落合四丁目 13 番 17 号
新宿区立戸山図書館	東京都新宿区戸山二丁目 11 番 101 号
新宿区立北新宿図書館	東京都新宿区北新宿三丁目 20 番 2 号
新宿区立中町図書館	東京都新宿区中町 25 番地
新宿区立角筈図書館	東京都新宿区西新宿四丁目 33 番 7 号
新宿区立大久保図書館	東京都新宿区大久保二丁目 12 番 7 号
新宿区立こども図書館	東京都新宿区大久保三丁目 1 番 1 号
新宿区立下落合図書館	東京都新宿区下落合一丁目 9 番 8 号

別表第 2 (第 2 条関係)

名 称	位 置
新宿区立中央図書館区役所内分室	東京都新宿区歌舞伎町一丁目 4 番 1 号

別表第 3 (第 4 条関係)

名 称	開 館 時 間
新宿区立中央図書館 新宿区立角筈図書館	1 火曜日から土曜日まで(国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日(以下「祝日法の休日」という。)を除く。)は、午前 9 時から午後 9 時 45 分まで 2 日曜日及び祝日法の休日は、午前 9 時から午後 6 時まで
新宿区立中央図書館区役所内分室	午前 8 時 30 分から午後 5 時まで
新宿区立四谷図書館 新宿区立大久保図書館 新宿区立下落合図書館	1 月曜日から土曜日まで(祝日法の休日を除く。)は、午前 9 時から午後 9 時 45 分まで 2 日曜日及び祝日法の休日は、午前 9 時から午後 6 時まで
新宿区立鶴巻図書館 新宿区立北新宿図書館	1 月曜日から金曜日まで(祝日法の休日を除く。)は、午前 9 時から午後 7 時まで 2 土曜日、日曜日及び祝日法の休日は、午前 9 時から午後 6 時まで
新宿区立西落合図書館 新宿区立戸山図書館 新宿区立中町図書館	1 火曜日から金曜日まで(祝日法の休日を除く。)は、午前 9 時から午後 7 時まで 2 土曜日、日曜日及び祝日法の休日は、午前 9 時から午後 6 時まで
新宿区立こども図書館	午前 9 時から午後 6 時まで

別表第4（第5条関係）

名 称	休 館 日
新宿区立中央図書館	1 月曜日（次項及び第3項に掲げる日を除く。）（その日が祝日法の休日に当たるときは、その日の直後の祝日法の休日でない日） 2 12月29日から翌年の1月3日までの日 3 館内整理日（毎月第3木曜日（その日が祝日法の休日に当たるときは、その翌日）及び1月4日） 4 特別整理期間（年間1回7日以内）
新宿区立中央図書館区役所内分室	1 新宿区の休日を定める条例（平成元年新宿区条例第1号）に規定する休日 2 特別整理期間（年間1回5日以内）
新宿区立四谷図書館 新宿区立鶴巻図書館 新宿区立北新宿図書館 新宿区立大久保図書館 新宿区立下落合図書館	1 火曜日（次項及び第3項に掲げる日を除く。）（その日が次の各号のいずれかに当たるときは、その日の直後の次の各号のいずれにも当たらない日） (1) 祝日法の休日 (2) 12月29日から翌年の1月4日までの期間以外の期間の月曜日が祝日法の休日に当たった場合におけるその日の直後の祝日法の休日でない日 2 12月29日から翌年の1月3日までの日 3 館内整理日（毎月第2木曜日（新宿区立鶴巻図書館及び新宿区立北新宿図書館においては、毎月第3木曜日）（その日が祝日法の休日に当たるときは、その翌日）及び1月4日） 4 特別整理期間（年間1回7日以内） 5 5月、8月、11月及び2月の第3日曜日（新宿区立四谷図書館及び新宿区立大久保図書館に限る。）
新宿区立西落合図書館 新宿区立戸山図書館 新宿区立中町図書館 新宿区立角筈図書館 新宿区立こども図書館	1 月曜日（次項及び第3項に掲げる日を除く。）（その日が祝日法の休日に当たるときは、その日の直後の祝日法の休日でない日） 2 12月29日から翌年の1月3日までの日 3 館内整理日（毎月第3木曜日（新宿区立角筈図書館においては、毎月第2木曜日）（その日が祝日法の休日に当たるときは、その翌日）及び1月4日） 4 特別整理期間（年間1回7日以内） 5 5月、8月、11月及び2月の第4日曜日（新宿区立角筈図書館に限る。）

別表第5（第6条関係）

新宿区立四谷図書館、新宿区立鶴巻図書館、新宿区立西落合図書館、新宿区立戸山図書館、新宿区立北新宿図書館、 新宿区立中町図書館、新宿区立角筈図書館、新宿区立大久保図書館、新宿区立下落合図書館

※平成 31 年 3 月 31 日までの別表第 3 及び別表第 4 については、下記のとおり。

別表第 3（第 4 条関係）	
名 称	開 館 時 間
新宿区立中央図書館 新宿区立角筈図書館 新宿区立大久保図書館 新宿区立下落合図書館	1 火曜日から土曜日まで（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「祝日法の休日」という。）を除く。）は、午前 9 時から午後 9 時 45 分まで 2 日曜日及び祝日法の休日は、午前 9 時から午後 6 時まで
新宿区立中央図書館区役所内分室	午前 8 時 30 分から午後 5 時まで
新宿区立四谷図書館	1 月曜日から土曜日まで（祝日法の休日を除く。）は、午前 9 時から午後 9 時 45 分まで 2 日曜日及び祝日法の休日は、午前 9 時から午後 6 時まで
新宿区立鶴巻図書館 新宿区立西落合図書館 新宿区立戸山図書館 新宿区立北新宿図書館 新宿区立中町図書館	1 火曜日から金曜日まで（祝日法の休日を除く。）は、午前 9 時から午後 7 時まで 2 土曜日、日曜日及び祝日法の休日は、午前 9 時から午後 6 時まで
新宿区立こども図書館	午前 9 時から午後 6 時まで

別表第 4（第 5 条関係）	
名 称	休 館 日
新宿区立中央図書館	1 月曜日（次項及び第 3 項に掲げる日を除く。）（その日が祝日法の休日に当たるときは、その日の直後の祝日法の休日でない日） 2 12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日 3 館内整理日（毎月第 3 木曜日（その日が祝日法の休日に当たるときは、その翌日）及び 1 月 4 日） 4 特別整理期間（年間 1 回 7 日以内）
新宿区立中央図書館区役所内分室	1 新宿区の休日を定める条例（平成元年新宿区条例第 1 号）に規定する休日 2 特別整理期間（年間 1 回 5 日以内）
新宿区立四谷図書館	1 火曜日（次項及び第 3 項に掲げる日を除く。）（その日が次の各号のいずれかに当たるときは、その日の直後の次の各号のいずれにも当たらない日） (1) 祝日法の休日 (2) 12 月 29 日から翌年の 1 月 4 日までの期間以外の期間の月曜日が祝日法の休日に当たる場合におけるその日の直後の祝日法の休日でない日 2 12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日 3 館内整理日（毎月第 2 木曜日（その日が祝日法の休日に当たるときは、その翌日）及び 1 月 4 日） 4 特別整理期間（年間 1 回 7 日以内） 5 5 月、8 月、11 月及び 2 月の第 3 日曜日
新宿区立鶴巻図書館 新宿区立西落合図書館 新宿区立戸山図書館 新宿区立北新宿図書館 新宿区立中町図書館 新宿区立角筈図書館 新宿区立大久保図書館 新宿区立こども図書館 新宿区立下落合図書館	1 月曜日（次項及び第 3 項に掲げる日を除く。）（その日が祝日法の休日に当たるときは、その日の直後の祝日法の休日でない日） 2 12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日 3 館内整理日（毎月第 3 木曜日（新宿区立角筈図書館、新宿区立大久保図書館及び新宿区立下落合図書館においては、毎月第 2 木曜日）（その日が祝日法の休日に当たるときは、その翌日）及び 1 月 4 日） 4 特別整理期間（年間 1 回 7 日以内） 5 5 月、8 月、11 月及び 2 月の第 3 日曜日（新宿区立大久保図書館に限る。） 6 5 月、8 月、11 月及び 2 月の第 4 日曜日（新宿区立角筈図書館に限る。）

新宿区立図書館条例施行規則

平成 9 年 3 月 7 日
教育委員会規則第 2 号

最終改正：平成 28 年 1 月 21 日
教委規則第 1 号

新宿区立図書館則（昭和 47 年新宿区教育委員会規則第 7 号）の全部を改正する。

（趣旨）

第 1 条 この規則は、新宿区立図書館条例（昭和 44 年新宿区条例第 14 号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第 2 条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 図書館資料 図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 3 条第 1 号に規定する図書館資料をいい、図書資料、視聴覚資料及び視覚障害者等用資料をいう。
- (2) 図書資料 図書、雑誌・新聞等の逐次刊行物、小冊子、地図、記録等をいう。
- (3) 視聴覚資料 16 ミリ映画フィルム、ビデオテープ、レコード、カセットテープ、コンパクトディスク、DVD 等をいう。
- (4) 視覚障害者等用資料 視覚障害者その他視覚による表現の認識に障害のある者（以下「視覚障害者等」という。）の用に供する録音図書、点字刊行物をいう。
- (5) 図書機材 紙芝居舞台等をいう。
- (6) 視聴覚機材 16 ミリフィルム発声映写機、DVD プレーヤー、プロジェクター等をいう。

（運営の基本）

第 3 条 新宿区立図書館（以下「館」という。）は、新宿区立中央図書館の統括の下に、相互に緊密に連携して一体的かつ効率的な運営を行い、もって図書館サービスの向上に努めるものとする。

（貸出しの制限）

第 4 条 館長（地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 3 項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）に管理を行わせる館にあっては、指定管理者。以下この条、第 6 条、第 8 条から第 11 条まで及び別表第 1 において同じ。）が指定した図書館資料、図書機材及び視聴覚機材については、次条に規定する個人貸出し又は第 10 条第 1 項に規定する団体貸出しを行わない。ただし、館長が必要と認めた場合は、この限りでない。

（個人貸出しを利用できる者）

第 5 条 図書館資料及び図書機材（以下「図書館資料等」という。）の個人への貸出し（以下「個人貸出し」という。）を利用できる者は、別表第 1 の図書館資料等の種別に応じ、それぞれ同表個人貸出しを利用できる者の欄に定める者とする。

（分室以外の館の登録等）

第 6 条 図書館資料等（中央図書館区役所内分室（以下「分室」という。）の図書資料及び視聴覚資料を除く。第 5 項及び第 8 条第 2 項において同じ。）の個人貸出しを利用しようとする者は、あらかじめ館長に登録の申込みをし、利用者カードの交付を受けなければならない。

2 館長は、前項の申込みについて、前条の図書館資料等の個人貸出しを利用できる者に該当すること及び氏名、住所等の確認ができたときは、登録を行い、利用者カードを交付するものとする。

3 前項の登録を受けた者（以下「分室以外の登録者」という。）が、氏名、住所その他登録事項に変更が生じたとき又は利用者カードを紛失したときは、館長に速やかにその旨を届け出なければならない。

4 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、第 2 項の登録を抹消するものとする。

- (1) 分室以外の登録者が、転居・異動等により前条の図書館資料等の個人貸出しを利用できる者に該当しなくなったとき。
- (2) 利用者カードが他人に貸与され、若しくは譲渡されたことが判明したとき、又は利用者カード紛失の届出があったとき。

5 分室以外の登録者が 5 年以上継続して図書館資料等の個人貸出しを利用しなかったときは、館長は第 2 項の登録を抹消することができる。

（分室の登録等）

第 7 条 分室の図書資料及び視聴覚資料の個人貸出しを利用しようとする者は、あらかじめ館長に登録の申込みをし、貸出券の交付を受けなければならない。

2 館長は、前項の申込みについて、第 5 条の図書館資料等の個人貸出しを利用できる者に該当すること及び氏名、住所等の確認ができたときは、登録を行い、貸出券を交付するものとする。

3 貸出券の有効期限は、交付の日から 2 年間とする。

4 第 2 項の登録を受けた者（以下「分室の登録者」という。）が、氏名、住所その他登録事項に変更が生じたとき又は貸出券を紛失したときは、館長に速やかにその旨を届け出なければならない。

5 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、第 2 項の登録を抹消するものとする。

- (1) 分室の登録者が、転居・異動等により第 5 条の図書館資料等の個人貸出しを利用できる者に該当しなくなったとき。
- (2) 貸出券が他人に貸与され、若しくは譲渡されたことが判明したとき、又は貸出券紛失の届出があったとき。

(個人への貸出数等)

第8条 個人貸出しを行う図書館資料等の種別、数量、期間等は、別表第1のとおりとする。ただし、館長が特に必要と認めたときは、この限りでない。

- 2 分室以外の登録者が図書館資料等の個人貸出しを利用しようとするときは利用者カードを、分室の登録者が分室の図書資料及び視聴覚資料の個人貸出しを利用しようとするときは貸出券を係員に提示しなければならない。

(未返却者に対する措置)

第9条 館長は、図書館資料等の個人貸出しを利用する者が図書館資料等の返却を怠り、又は督促しても返却しない場合は、以後その者に対し、貸出しを制限し、又は禁止することができる。

(団体登録等)

第10条 図書資料、視聴覚資料、図書機材及び視聴覚機材(分室の図書資料及び視聴覚資料を除く。以下「図書資料等」という。)の団体への貸出し(以下「団体貸出し」という。)を利用できる団体は、次の各号に掲げるすべての要件に該当する団体とする。

- (1) 新宿区(以下「区」という。)内に事務所又は事業所を有する法人その他の団体(家族だけを構成員とする団体を除く。)であること。
- (2) 団体の構成員が10名以上であること。
- 2 図書資料等の団体貸出しを利用しようとする団体は、あらかじめ館長に団体登録の申込みをし、利用者カードの交付を受けなければならない。
- 3 館長は、前項の申込みについて、第1項の要件に該当すること及び団体の代表者の氏名、住所等の確認ができたときは、登録を行い、利用者カードを交付するものとする。
- 4 前項の登録を受けた団体(以下「登録団体」という。)は、団体名、所在地その他登録事項に変更が生じたとき又は利用者カードを紛失したときは、館長に速やかにその旨を届け出なければならない。
- 5 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、第3項の登録を抹消するものとする。
 - (1) 登録団体が、第1項の要件に該当しなくなったとき。
 - (2) 利用者カードが他人又は他団体に貸与され、若しくは譲渡されたことが判明したとき、又は利用者カード紛失の届出があったとき。
 - (3) 貸出しを受けた図書資料等を営利目的に使用したとき。
- 6 登録団体が1年以上継続して図書資料等の団体貸出しを利用しなかったときは、館長は第3項の登録を抹消することができる。
- 7 図書資料等の団体貸出しに伴う一切の責任は、団体の代表者に帰するものとする。

(団体への貸出数等)

第11条 団体貸出しを行う図書資料等の種別、数量、期間等は、別表第2のとおりとする。ただし、館長が特に必要

と認めたときは、この限りでない。

- 2 登録団体は、図書資料等の団体貸出しを利用しようとするときは、利用者カードを係員に提示しなければならない。
- 3 登録団体は、貸出しを受けた図書資料等を営利目的に使用してはならない。

(準用)

第12条 第9条の規定は、図書資料等の団体貸出しに準用する。

(会議室の利用の申込み)

第13条 館の事業に支障のない限り、次の各号のいずれかに該当する場合は、会議室を利用することができる。

- (1) 館の事業に関連のある会議、研究会及び催物
 - (2) 区内の社会教育関係団体の会議、講演会及び催物
 - (3) その他館長が適当と認めた会議、講演会及び催物
- 2 会議室を利用しようとするものは、所定の手続きにより、あらかじめ館長の承認を受けなければならない。

(利用の不承認)

第14条 館長は、会議室の利用について、次の各号のいずれかに該当する場合は、会議室の利用を承認しない。

- (1) 営利を目的とするものと認めたとき。
- (2) 管理上支障があると認めたとき。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、館長が不適当と認めたとき。

(利用の制限)

第15条 館長は、会議室の利用について、次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、その利用の承認を取り消し、又は利用を停止することができる。

- (1) 会議室を利用するものがこの規則に違反したとき。
- (2) 利用目的又は利用条件に違反したとき。
- (3) 災害その他の事故により会議室の利用ができなくなったとき。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、館長が特に必要と認めたとき。

(資料の寄贈)

第16条 館においては、図書館資料の寄贈を受けることができる。寄贈された資料は、他の資料と同様の取扱いにより一般の利用に供することができる。

(資料の寄託)

第17条 館においては、図書館資料の寄託を受けることができる。寄託された資料は、他の資料と同様の取扱いにより一般の利用に供することができる。

(遵守事項)

第18条 館を利用するもの(以下「利用者」という。)は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 騒音を出す、酒気を帯びている等他人に迷惑となる行

為をしないこと。

- (2) 許可なく危険若しくは不潔な物品又は動物（身体障害者補助犬法（平成 14 年法律第 49 号）第 2 条の身体障害者補助犬を除く。）を持ち込まないこと。
- (3) 許可なく火気を使用しないこと。
- (4) 所定の場所以外で飲食をしないこと。
- (5) 物品等の販売又は展示、ピラ等の配布その他これらに類する行為をしないこと。
- (6) その他係員の指示に従うこと。

（利用の制限）

第 19 条 新宿区教育委員会（以下「委員会」という。）（指定管理者に管理を行わせる館にあっては、指定管理者。以下この条及び次条において同じ。）は、利用者が次の各号のいずれかに該当すると認めるとき又は利用者が前条の規定に違反し、是正を求める委員会の指示に従わなかったときは、館の利用を制限し、又は停止することができる。

- (1) 善良な風俗を乱し、又は他人に危害若しくは迷惑を及ぼすもの
- (2) 騒じょう行為又は示威行為を行うもの
- (3) その他館の管理上支障がある行為を行うもの

（施設内における禁煙）

第 20 条 館の施設内での喫煙は禁止とする。ただし、委員会が特に認めた場所での喫煙はこの限りでない。

（公募に際して明示する事項）

第 21 条 委員会は、条例第 8 条第 1 項の規定により指定管理者の指定を受けようとする団体を公募するとき、次に掲げる事項を明示するものとする。

- (1) 条例別表第 5 に掲げる館（以下「指定図書館」という。）の概要
- (2) 条例第 7 条に規定する管理業務の範囲及び内容
- (3) 条例第 8 条第 1 項の規定による公募を開始する日（以下「公募開始日」という。）
- (4) 条例第 8 条第 2 項の規定による申請（以下「指定の申請」という。）を行うことができる団体の資格
- (5) 条例第 9 条に規定する選定の基準
- (6) 指定管理者を指定して管理を行わせる期間
- (7) 指定図書館の事業計画書に記載すべき事項
- (8) 第 23 条第 2 項各号に掲げる書類に関する事項
- (9) その他委員会が必要と認める事項

（指定の申請を行うことができる団体の資格）

第 22 条 指定の申請を行うことができる団体の資格は、次のとおりとする。

- (1) 法人として登記されていること。
- (2) その他委員会が別に定める要件を満たしていること。

（指定申請書及び添付書類）

第 23 条 条例第 8 条第 2 項の規則で定める申請書は、指定

管理者の指定申請書（第 1 号様式）とする。

2 条例第 8 条第 2 項第 2 号の規則で定める書類は、次のとおりとする。

- (1) 指定の申請を行うことができる団体の資格を有していることを確認することができる書類
- (2) 指定図書館の管理に係る収支計画書
- (3) 指定図書館の管理に係る人員計画書
- (4) 指定管理者の指定を受けようとする団体の案内書
- (5) 指定管理者の指定を受けようとする団体の活動の実績に関する書類
- (6) 指定管理者の指定を受けようとする団体の経営状況を説明する書類
- (7) その他委員会が必要と認める書類

（申請期間）

第 24 条 条例第 9 条の規則で定める申請期間は、公募開始日から 30 日を経過する日（当該日が条例別表第 4 に規定する新宿区立中央図書館の休館日（以下この条において「休館日」という。）に当たるときは、当該日の直後の休館日でない日）までとする。

（選定結果通知書）

第 25 条 条例第 10 条の規定による通知は、指定管理者選定結果通知書（第 2 号様式）により行うものとする。

（選定取消通知書）

第 26 条 条例第 11 条第 2 項の規定による選定の結果の通知を取り消す旨の通知は、指定管理者選定結果取消通知書（第 3 号様式）により行うものとする。

（指定通知書）

第 27 条 委員会は、条例第 12 条の規定により指定管理者の指定を行ったときは、同条の被選定団体に対し、指定管理者指定通知書（第 4 号様式）により通知するものとする。

（事業報告書の記載事項）

第 28 条 条例第 15 条第 2 項第 4 号の規則で定める事項は、次のとおりとする。

- (1) 当該年度の指定図書館の利用に関する利用者意見の調査結果
- (2) その他委員会が必要と認める事項

（補則）

第 29 条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し必要な事項は、新宿区教育委員会教育長が別に定める。

附 則（抄）

附 則（平成 28 年 1 月 21 日教委規則第 1 号）

この規則は、平成 28 年 3 月 1 日から施行する。

別表第1（第5条、第8条関係）

種 別		貸出数量	貸出期間	個人貸出しを利用できる者
図書資料	図書、雑誌、紙芝居、地図等	10 冊以内	2 週間以内	次の各号のいずれかの要件に該当する者 (1) 東京都内に住所を有する者 (2) 区内の事務所若しくは事業所に勤務する者（以下「区内在勤者」という。）又は区内の学校に在学する者（以下「区内在学者」という。） (3) 前2号のいずれかの要件に該当する者に準ずる者として館長が認めたもの
図書機材	紙芝居舞台	必要数		
視聴覚資料	コンパクトディスク、カセットテープ、レコード	5 点以内		
	ビデオテープ	2 点以内。ただし、DVD と合わせて利用の場合は 1 点		
	DVD	1 点		
視覚障害者等用資料	録音図書、点字刊行物	10 点以内	1 か月以内	視覚障害者等で、次の各号のいずれかの要件に該当するもの (1) 区内に住所を有する者 (2) 区内在勤者又は区内在学者 (3) 前2号のいずれかの要件に該当する者に準ずる者として館長が認めたもの

備考 視覚障害者等が図書資料と視覚障害者等用資料の両方の個人貸出しを利用する場合の貸出数量は、合わせて 10 冊（点）以内とする。

別表第2（第11条関係）

種 別		貸出数量	貸出期間
図書資料	図書、雑誌、紙芝居、地図等	100 冊以内	1 か月以内
図書機材	紙芝居舞台	必要数	
視聴覚資料	16 ミリ映画フィルム	必要数	3 日以内
	DVD	5 枚以内	
視聴覚機材	16 ミリ発声映写機	1 台	
	DVD プレーヤー	1 台	
	プロジェクター	1 台	
	その他の機材	必要数	

備考 館が配本サービス事業を実施している区立小学校、中学校、幼稚園、子ども園、保育園、児童館、区学童クラブ等子どもの育成にかかわる団体及び病院については、図書資料の貸出数量及び貸出期間は 150 冊以内、2 か月以内、図書機材の貸出期間は 2 か月以内とする。

新宿区教育委員会の16ミリ発声映写機等 管理規則

昭和43年7月9日
教育委員会規則第5号

最終改正：平成24年3月30日
教委規則第8号

（目的）

第1条 この規則は、新宿区教育委員会（以下「委員会」という。）が所管する16ミリ発声映写機（以下「映写機」という。）及び16ミリ映画フィルム（以下「フィルム」という。）の貸出し、操作、映写等について、必要な事項を定めることを目的とする。

（映写機の操作）

第2条 映写機を操作する者は、委員会の発行する16ミリ発声映写機操作講習修了証（第1号様式。以下「修了証」という。）を交付された者でなければならない。

（修了証の交付）

第3条 修了証は、委員会の行う別表第1に定める16ミリ発声映写機操作講習会講習課程を修了した者に交付する。ただし、委員会の指導監督のもとに行われた他団体の講習を修了した者についても、修了証を交付する。

2 道府県からの転入者で、既に修了証を取得している者は、当該修了証を委員会に提出し、委員会発行の修了証の交付を受けなければならない。

3 東京都の区市町村からの転入者で、既に修了証を取得している者は、当該修了証の交付を受けた教育委員会に、住所変更を届け出るものとする。

（受講資格）

第4条 次の各号に該当する場合は、講習を受けることができない。ただし、第1号については、委員会が適当と認めたときは、この限りでない。

(1) 満18歳未満の者

(2) 修了証の取消処分を受けた後、1年を経過しない者

（遵守事項）

第5条 修了証の交付を受けた者は、次の各号を遵守しなければならない。

(1) 修了証は、映写機の操作中、必ず携帯すること。

(2) 修了証は、譲渡又は転貸しないこと。

(3) 修了証の記載事項に異動を生じた場合には、速やかに届け出て、訂正を受けること。

(4) 修了証を紛失又は破損等した場合には、速やかに届け出て再交付を受けること。

（修了証の取消し）

第6条 委員会は、次の各号の一に該当すると認めたときは、修了証を取り消すことができる。

(1) 前条第1号又は同条第2号に違反したとき。

(2) 故意又は重大な過失により、映写機又はフィルムを破損したとき。

(3) 不正な方法により講習を受講し、修了証の交付を受けたとき。

(4) その他、委員会が必要と認めたとき。

（映写機の登録）

第7条 委員会の所管するフィルムを利用しようとする者の映写機は、委員会に登録しなければならない。

（映写機の検定等）

第8条 委員会は、届出のあつた映写機について、16ミリ発声映写機検定方法（別表第2）により検定を行い、当該映写機の使用によりフィルム損傷のおそれがないと認められるものに対しては、16ミリ発声映写機検定証明書（第2号様式。以下「検定証明書」という。）を交付する。

2 検定証明書の有効期間は、発行の日から1年間とする。

3 委員会は、登録映写機の性能の低下又はその他の事由により、取消しを必要と認めたときは、登録を取り消すものとする。

4 登録の取消しを受けた者は、検定証明書を直ちに、委員会に返還しなければならない。

附 則（抄）

附 則（平成24年3月30日教委規則第8号）
この規則は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第3条関係） 16ミリ発声映写機操作講習会講習課程

区分	科目	内 容	時 間 数
講 義	1 視聴覚教育に関する知識	(1) 教育における視聴覚教育の役割 (2) 視聴覚教材とは何か (3) 視聴覚教材の特質 (4) 視聴覚教材・機材の利用方法	各科目を通じて 3時間以上
	2 16ミリ発声映写機の種類	(1) 異なる16ミリ発声映写機の種類 (2) 映写機構部 (3) 光学機構部（ハロゲンランプ・クセノンランプ及び各種レンズ等） (4) 音響再生部（以上、日本工業規格による） (5) 会場設営に関する知識（電気・映写会場）	
	3 操作に関する知識	(1) 映写開始までの準備（安全、設備、点検、清掃及び空転テスト） (2) フィルムの装てん (3) 映写開始の順序 (4) 補助動作 (5) 映写終了時の動作 (6) フィルムの巻戻し (7) 復元及び格納 (8) 機材の清掃及びローラー関係の注油 (9) 映写機各機構が常に日本工業規格に定められている性能を有していること (10) フィルムの種類 (11) フィルムの構造及び性能 (12) 損傷原因（保管、管理、取扱い及び機械による原因）	
実 習	映写機の操作	講義3の各項目及びその総合度についてマニュアル映写機及びオート映写機での講習を行う。	各科目を通じて 6時間以上
	個別操作	映写機操作の各項目及び総合度について、指導者が立会い受講者が1人ずつ行う。	

別表第2（第8条関係） 16ミリ発声映写機検定方法

委員会は、下表の各項目について検定を行い、フィルム損傷のおそれの有無を確認するものとする。

	項 目	着 眼 点
1	リールアームの状態	ベルトの異常、フィルム送出しの不適當及びアームの曲りはないか
2	リールの着脱の状態	止めが不完全ではないか
3	各ローラーの状態	ローラーの摩耗及び回転不良はないか
4	サウンドドラムの状態	ドラムの摩耗及び回転不良はないか、アームは不完全ではないか
5	スプロケットの歯及び押えの状態	歯の摩耗はないか、押えの間隔は適当か
6	プレッシャープレートの状態	画面が安定しているか、ループがなくなるようなことはないか
7	フィルム通路の状態	フィルムに損傷を与えないか
8	フィルム巻取力の状態	強く引つばらないか、巻いた状態がだ円になつていないか
9	画面の動揺の状態	不快感を与えるほどの動揺及びチラツキはないか
10	ツメの摩耗の状態	ツメに凹ができていないか
11	スケート板の状態	フィルムが食い込むような摩耗はないか
12	リールの状態	リールにゆがみはないか、センターの穴がへつていないか

第3 要 綱

新宿区立図書館管理運営要綱

第1章 総 則

(趣旨)

第1条 この要綱は、新宿区立図書館条例施行規則（平成9年新宿区教育委員会規則第2号。以下「規則」という。）第29条の規定に基づき、新宿区立図書館（以下「館」という。）の管理及び運営に関する細目を定め、図書館業務の円滑かつ適正な実施に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この要綱において次の号に掲げる用語の意義は、規則第2条に定める用語の例による。

- (1) 図書館資料
- (2) 図書資料
- (3) 視聴覚資料
- (4) 視覚障害者等用資料
- (5) 図書機材
- (6) 視聴覚機材

(一体的運営)

第3条 館は、新宿区立中央図書館の統括の下に、相互に緊密に連携して一体的かつ効率的な運営を行い、もって図書館サービスの向上に努めるものとする。

- 2 中央図書館以外の新宿区立図書館を、地域図書館（略称「地域館」）という。地域図書館にはこども図書館を含み、中央図書館区役所内分室（区政情報センター）を除く。
- 3 中央図書館長、中央図書館の係長級職員及び地域図書館の館長（指定図書館は指定図書館長）をもって館長連絡会を組織する。
- 4 館長連絡会は、指定図書館を含む図書館業務遂行に必要な事項について、情報連絡、協議、調整等を行う。
- 5 中央図書館長の下に、一般、児童、視聴覚、障害者その他の図書館サービス業務ごとに、各館の職員をもって構成する業務連絡会を設置することができる。
- 6 中央図書館長は、必要に応じて、図書館事業及び業務等に関する専門協議会を設置することができる。
- 7 館長連絡会、業務連絡会及び専門協議会に関する細目は中央図書館長が定める。

(利用者の秘密の保護)

第4条 図書館奉仕に従事する者は、利用者の読書事実等そのプライバシーの保護について最大限の配慮に努めなければならない。

(レファレンス)

第5条 利用者は、口頭、電話、文書等により、図書館資料に関する読書案内及び参考調査（以下「レファレンス」という。）を申し込むことができる。

- 2 レファレンス相談に対する回答は、主として図書館資料その他の資料を提供して行うものとする。
- 3 次に掲げる次項に関する質問・相談については回答を行わないものとする。ただし、問題によっては、機関等を紹介することができる。
 - (1) 人生相談、医療相談及び法律相談
 - (2) 古文書及び美術品等の鑑定
 - (3) 学習課題及び懸賞問題に関するもの
 - (4) 個人の秘密、又は人権を侵害すると認められるもの
 - (5) その他回答することが不相当と認められるもの

(図書館資料の複写)

第6条 館は、著作権法（昭和45年法律第48号）第31条に定める範囲内において、利用者に図書館資料の複写を行わせることができる。

- 2 図書館資料の複写に要する経費は利用者の負担とする。

(電子資料の閲覧及び印刷)

第7条 利用者は、利用者開放端末により、電子資料（国立国会図書館から提供を受けたデジタル化資料、館が契約した商用データベースその他館が認める範囲内のウェブサイトをいう。）を閲覧することができる。

- 2 館は、利用者が前項の電子資料の印刷を求めた場合は、著作権法の範囲内でこれを紙媒体に印刷し、提供することができる。ただし、その印刷に要する経費は、利用者の負担とする。

(利用時間)

第8条 館長は、特に必要があると認めるときは、利用時間を変更することができる。

(入館者の遵守事項)

第9条 館に入館する者は、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 酒気を帯びたり、大声を出す等他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。
 - (2) 所定の場所以外で飲食をし、又は喫煙をしないこと。
 - (3) 火気を使用しないこと。
 - (4) 危険物又は動物（身体障害者補助犬を除く）を持ち込まないこと。
 - (5) 物品等の販売又は展示、ビラ等の配布その他これらに類する行為をしないこと。
 - (6) その他図書館職員の指示に従うこと。
- 2 館長は、入館者が前項の規定に従わないときは、当該入館者に入館を禁じ、又は退館させることができる。

(館外貸出しの制限)

第10条 館長は、規則第4条の規定により、次の各号に該当する図書館資料、図書機材及び視聴覚機材を、当該各号に定める貸出しを行わないものとして指定する。

- (1) 次に掲げるもの 個人貸出し及び団体貸出し
 - ア 事典、辞書その他の参考調査資料、高価本等
 - イ 新聞
 - ウ 雑誌の最新号
 - エ 国立国会図書館等からの借受け図書で、館外利用が禁じられているもの
 - (2) 団体貸出しを行うものとして館長が指定したDVD 個人貸出し
 - (3) 個人貸出しを行うものとして館長が指定したDVD 団体貸出し
- 2 前項第1号の規定にかかわらず、館長は、図書館資料について副本の備えがある場合等においては館外貸出しをすることができる。

(損害の賠償)

第11条 新宿区立図書館条例第19条に定める損害賠償の事務処理の基準は、中央図書館長が別に定める。

(貸出期間の変更等)

第12条 館長は、次の各号に該当する場合は、規則第8条及び第11条に定める貸出期間を変更することができる。

- (1) 貸出期間の末日が特別整理期間に係る休館日にあたる場合
 - (2) 貸出期間の末日が年末・年始に係る休館日にあたる場合
 - (3) 次項の規定による申出があった場合
 - (4) その他真にやむを得ない事情がある場合
- 2 館長は、雑誌以外の図書資料及び図書機材の館外貸出し（団体貸出しを除く。以下この項において同じ。）を受けた者が、その貸出期間内（当該館外貸出しを受けた日を除く。）において、当該貸出期間の延長を申し出た場合は、当該貸出期間の末日を当該申出の日から2週間後の日（当該日が当該館外貸出しを受けた日から4週間後の日を超えるときは、当該4週間後の日）とする。ただし、当該申出の日において当該図書資料に第17条第1項に規定する予約が入っている場合は、この限りでない。
- 3 前項の規定による申出を既に行っている場合であっても、改めて当該申出を行うことは妨げられない。

(登録等)

第13条 図書館資料の個人貸出しを受けようとする者は、利用登録申込書（第2号様式）に氏名、住所その他必要事項を記入し、館長に申し込まなければならない。

- 2 館長は、規則第5条別表第1に定めのあるものを除き、東京都内に住所を有する者より登録の申込みがあったときは、健康保険証、自動車運転免許証、住民票の写し等により当該申込者の氏名、住所等を確認しなければならない。

- 3 館長は、規則第5条別表第1に定めのあるものを除き、東京都外に住所を有する者より登録の申込みがあったときは、前項の氏名、住所等のほか、新宿区内の事務所若しくは事業所に勤務する証明や学生証等により当該申込者が区内に勤務若しくは在学者であることを確認しなければならない。

4 館長は、利用者カード（第3号様式）（分室については貸出券（第4号様式））を交付する。

5 利用者カードの交付は、1人について1枚とする。

6 利用者カードの登録者が転居・異動等により前第2項もしくは第3項の登録申込み時の要件に該当しなくなったとき、登録を抹消する。

7 登録者が、5年以上継続して図書館資料の個人貸出しを利用しなかったときは、登録を抹消することができる。

(利用者カードの無効)

第14条 規則第7条に定めるもののほか、次の利用者カード（貸出券を含む。以下次条において同じ。）は無効とする。

- (1) 規則第7条第5項の規定に定めるもののほか、次の利用者カード（貸出券を含む。以下、次条において同じ。）は無効とする。
- (2) 虚偽の申込みによる交付等不正に取得したもの
- (3) 前条第6項により登録を抹消された者

(利用者カードの再交付)

第15条 館長は、利用者カードの交付を受けた者がこれを紛失したときは、第13条の例により再交付することができる。

(利用)

第16条 利用者カードは、分室を除く全館において共通して利用できる。

(予約)

第17条 希望する図書館資料が貸出中、又は未所蔵の場合に当該資料を提供することを約束するサービス（以下「予約」という。）

- 2 予約できる図書館資料の数は、図書資料（図書・雑誌・紙芝居）については10冊以内、視聴覚資料においてはビデオテープ・DVDについて合わせて2点（ただし、DVDについては1点とする。）、コンパクトディスク・カセットテープ・レコードについて合わせて5点（ただし、レコードについて予約・貸出とも所蔵資料のみとする。）までとする。

3 所蔵している図書館資料の予約は、次の各号により申し込むものとする。ただし、次条第1項の規定により貸出しを停止されているときは、申し込みをすることができない。

- (1) 予約カード（第5号様式）（図書資料用）（第6号様式）（視聴覚資料用）に必要事項を記載して申し込むこととする。
- (2) 利用者開放端末により、必要事項を入力して申し込む

ものとする。

- (3) インターネット接続端末・モバイルにより必要事項を入力して申し込むものとする。
- (4) 電話により、必要事項を口頭で申し込むものとする。
- 4 所蔵していない図書資料の予約は前項第1項の規定を準用する。
- 5 前項の予約申し込みを受けた場合においては、都立図書館及び他区市町村の協力貸出制度を活用するほか、購入を検討する等その提供に努めるものとする。
- 6 予約資料の提供ができる旨を電話・Eメール等により連絡した後、予約申し込みをした者が7開館日以内に利用手続きをとらない場合には当該予約を取り消したものとみなす。
- 7 館長は、予約を申し込んだ者が当該予約の申し込み後に次条第1項の規定により貸出しを停止され相当の期間を経過したときは、当該予約の解除に係る書面を送付し、当該書面の送付から7日を経過したときに当該予約を解除するものとする。

（未返却者に対する措置）

- 第18条** 館長は、新宿区立図書館条例施行規則（平成9年新宿区教育委員会規則第2号）第9条に基づき、図書館資料の個人貸出しを受けた者が貸出し期間が満了した日の翌日から起算して7日以内に図書館資料を返却しないときは、図書館資料の貸出しを停止する。
- 2 前項の規定による貸出しの停止は、図書館資料の返却を完了した時点で解除する。
 - 3 前2項に規定するもののほか、図書館資料の貸出しの停止に関する細目は中央図書館長が別に定める。

第2章 団体貸出し

（団体登録等）

- 第19条** 規則第10条第2項の申込みは、団体登録申込書（第7号様式）により行うものとする。
- 2 団体登録を受け、又は受けようとしている団体で、16ミリ映画フィルム及び16ミリ発声映写機の団体貸出しを利用しようとするものは、映写機材・フィルム操作者の登録を行わなければならない。
 - 3 前項の登録の申込みは、映写機材・フィルム操作者登録申込書（第8号様式）により行うものとする。この場合において、当該映写機材・フィルム操作者の資格を証する書類を提示しなければならない。
 - 4 前項の申込みがあった場合、当該映写機材・フィルム操作者がその資格を有すると確認できたときは、館長は、これを登録し、当該申込みを行った団体に、映写機材・フィルム操作者登録証（第9号様式）を交付するものとする。
 - 5 映写機材・フィルム操作者登録証の有効期限は、登録の日から当該日の1年後の日の属する月の末日までとする。

（団体貸出しの手続き）

- 第20条** 図書資料又は図書機材の団体貸出しの利用の申込みについては、別に定める。
- 2 視聴覚資料又は視聴覚機材の団体貸出しの利用の申込みは、映写機材・フィルム・DVD利用申込書（第10号様式）により行うものとする。
 - 3 映写機材・フィルム・DVD利用申込書の提出は、利用日の3か月前から行うことができる。

（準用）

- 第21条** 第14条、第15条、第16条及び第18条の規定は、団体貸出しに準用する。

第3章 会議室の利用

（利用の申込書）

- 第22条** 会議室の利用を希望する者は、会議室利用申込書（第11号様式）を館長に提出し、会議室利用承認書（第12号様式）の交付を受けなければならない。
- 2 会議室を利用するときは、利用者は会議室利用承認書を提示しなければならない。
 - 3 会議室の利用申込みは、利用日の1箇月前から受け付ける。
 - 4 会議室の利用時間は、午前9時から午後5時とする。

（利用権譲渡等の禁止）

- 第23条** 利用者は、会議室の施設に特別の設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ館長の承認を受けたときは、この限りではない。また、利用者は、利用を終了したときは、会議室の施設又は設備を現状に回復しなければならない。

第4章 資料の寄贈

（寄贈の申入れ）

- 第24条** 資料の寄贈を希望するものは、寄贈資料申込書（第13号様式）により館長に申し込むものとする。
- 2 寄贈は対象となる資料のこん包及び運搬等に要する費用は、原則として寄贈者の負担とする。

（補則）

- 第25条** この要綱に規定するもののほか、この要綱に実施に関する細目は中央図書館長が定める。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

（中略）

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

新宿区立図書館の図書館資料の 弁償に関する取扱要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、新宿区立図書館条例（昭和44年新宿区条例第14号）第19条の規定に基づき、新宿区立図書館が所蔵する図書、雑誌、視聴覚資料その他の図書館資料（以下「資料」という。）の弁償の取り扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

(求償)

第2条 新宿区立図書館の利用者が亡失又は汚損・破損により資料を図書館業務において利用できない状態にした場合、新宿区立図書館の長（以下「館長」という。）は、当該利用者に対し、事故届（第1号様式）を提出させるとともに弁償を求めるものとする。この場合において、館長は、利用者に弁償を求めたときは、その内容を中央図書館長に報告しなければならない。

2 前項の場合において、資料の汚損・破損の場合における求償の基準は別表による。

(弁償の方法等)

第3条 資料の弁償は、別表第2に掲げる区分に従い、同一資料の納入による弁償を原則とする。ただし、絶版、品切れ等の理由により現物の入手が不可能又は困難な場合は、中央図書館長が指定する資料の納入その他の方法によ

り弁償することができる。

2 前項ただし書きの場合において、資料の定価が不明又は無料であるときは、次の各号のいずれかにより弁償する額を算定する。

- (1) 同一著者の類書及び資料等の価格
- (2) 別著者の類書及び資料等の価格（前号により算定できない場合に限る。）

3 前2項の規定により、資料の弁償が行われたときは、館長は利用者に受領書（第2号様式）を交付する。

(資料の交換)

第4条 前条の規定による弁償手続き完了後に利用者が亡失した資料（以下この条において「亡失資料」という。）を利用可能な状態で発見し届け出た場合、当該利用者が弁償をした資料を図書館が所蔵しているときは、交換を行うものとする。

2 前項の規定にかかわらず、第三者が亡失資料を利用可能な状態で発見し区立図書館に届出た場合において、あらかじめ事故届（第1号様式）に寄贈の同意があるときは、弁償をした資料と交換を行わず図書館の所蔵とすることができる。

(弁償の免除)

第5条 第3条の規定にかかわらず、中央図書館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、弁償を免除することができる。

- (1) 天災、火災、犯罪被害等不可抗力によるものと認められる場合

別表1（第2条関係）

種 別		事 由
図書、雑誌、視聴覚資料解説書等	資料の劣化	(1) ページや表紙等の歪み・波打ちが生じた場合 (2) 飲食物、カビ等の染みの付着等が生じた場合
	資料の破損	(1) 破れ、切り取り、焼失等によるページの欠損が生じた場合 (2) 人又は動物による噛み跡が生じた場合 (3) ページの折り癖が生じた場合
	資料の汚損	(1) 落書き、塗料の塗布等による汚損が生じた場合 (2) 異物、悪臭の付着等が生じた場合
視聴覚資料（解説書等を除く。）	資料の破損	(1) 視聴覚資料の傷、ヒビ、割れ、歪み、断裂等により再生不能となる場合 (2) 視聴覚資料に記録された電磁的記録が破損した場合
	資料の汚損	(1) 落書き、塗料の塗布等による汚損が生じた場合 (2) 異物、悪臭の付着等が生じた場合

別表2（第3条関係）

区 分	弁償品の状態
図書資料（逐次刊行物を含む。）	新品又は中古品（汚損・破損がないものに限る。）
音響資料（CD）	新品（解説書のみ弁償する場合は、解説書のみ。）
映像資料（DVD等）	著作権補償処理のされた新品

- (2) 経年劣化によるものと認められる場合（汚損・破損に限る。）
- (3) 前2号に掲げるほか、やむを得ない理由があると中央図書館長が認める場合
- 2 前項の規定により、弁償の免除を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、図書館資料弁償免除申請書（第3号様式）に必要な書類等を添えて中央図書館長に提出しなければならない。
- 3 前項の規定による申請書の提出があった場合、中央図書館長は、申請者に図書館資料弁償免除通知書（第4号様式）により通知する。

（補則）

第6条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、中央図書館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

新宿区立図書館視覚障害者等サービス実施要綱

（目的）

- 第1条** この要綱は、新宿区立図書館条例（昭和44年新宿区条例第14号）第3条第5号の規定に基づき視覚障害者その他視覚による表現の認識に障害のある者に対するサービス（以下「視覚障害者等サービス」という。）の実施について、必要な事項を定めることを目的とする。
- 2 視覚障害者等サービスの実施拠点館を新宿区立戸山図書館とする。

（定義）

- 第2条** この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。
- (1) 視覚障害者その他視覚による表現の認識に障害のある者 別表1に例示する状態にあって、視覚著作物をそのままの方式では利用することが困難な者（以下「視覚障害者等」という。）をいう。
 - (2) 視覚著作物 著作権法（昭和45年法律第48号）第37条第3項に規定する視覚著作物をいう。
 - (3) 資料変換者 新宿区立図書館（以下「図書館」という。）が行う資料変換者講習会もしくはその他各種団体が行う資料変換者講習会を修了した者又はこれと同程度の技術を有する者で、図書館資料をそのままの方式では利用できない利用者のために、内容が理解可能な形態に資料を変換する業務（以下「資料変換業務」という。）

を行う音訳者、校正者、デイジー編集者、デイジー校正者、テキストデータ作成者、対面朗読者及び点訳者のうち、新宿区立中央図書館長（以下「館長」という。）が認めた者とする。

（対象者）

第3条 視覚障害者等サービスを受けることができる者は、新宿区立図書館条例施行規則（平成9年新宿区教育委員会規則第2号。以下「施行規則」という。）別表第1に規定する視覚障害者等用資料の個人貸出しを利用できる者とする。

（利用者登録）

- 第4条** 視覚障害者等サービスを利用しようとする者は、新宿区立図書館視覚障害者等サービス利用登録申込書（第1号様式）による視覚障害者等サービスの利用者登録をしなければならない。
- 2 館長は、前項の利用者登録を行うに当たっては別表2「利用登録確認項目リスト」により前条に該当する者であることを確認する。
- 3 第1項の利用者登録は、口頭又は電話により、また、本人に代わって代理人が行うことができる。

（サービス）

第5条 実施する視覚障害者等サービスは次のとおりとする。

- (1) 利用者の希望に基づく録音図書の製作
- (2) 視覚障害者等用資料の来館貸出し
- (3) 視覚障害者等用資料の郵送貸出し
- (4) 対面朗読
- (5) 前各号に定めるもののほか、館長が必要と認めるもの

（録音図書の製作）

- 第6条** 図書館は、第4条第1項の利用者登録をした者（以下「利用登録者」という。）の希望により視覚著作物から録音図書を製作する。
- 2 録音図書の製作は、次条第1項に規定する資料変換者が行う。

（資料変換者の登録）

- 第7条** 資料変換者は、新宿区立図書館資料変換者登録兼サピエID交付申請書（第2号様式）による登録をするものとする。
- 2 資料変換者の登録期間は、当該年度とする。ただし、資料変換者が希望する場合は、更新することができる。
- 3 資料変換者が次のいずれかに該当した場合、館長は資料変換者の登録を取り消すことができる。
- (1) 資料変換者が資料変換業務の休止を申し出た場合
 - (2) 資料変換者が資料変換業務により知りえた図書館利用者の個人情報を漏洩した場合
 - (3) その他、館長が登録を解除することが適当と認めた場合

（視覚障害者等用資料の来館貸出し）

- 第8条** 利用登録者は、視覚障害者等用資料の来館貸出しを利用しようとするときは、図書館に電話、口頭等で申込みを行うものとする。
- 2 貸出期間及び貸出数量は施行規則別表第1に定めるところによる。

（視覚障害者等用資料の郵送貸出し）

- 第9条** 図書館は、郵便法（昭和22年法律第165号）第27条第3項及び郵便法施行規則（平成15年総務省令第5号）第8条の規定に基づき盲人用の録音物等の郵便物を無料で発受することができる制度を利用して、視覚障害者に対して図書館所蔵又は点字図書館等から借用の録音図書・点字刊行物の郵送貸出しを行う。
- 2 視覚障害者等用資料の郵送貸出しを利用しようとするときは、電話、口頭等で図書館に申込みを行うものとする。
- 3 貸出期間及び貸出数量は施行規則別表第1に定めるところによる。

（録音図書及び点字刊行物の図書館間相互貸借）

- 第10条** 次の各号に掲げる図書館等と録音資料及び点字刊行物の図書館間相互貸借を行う。
- 1 国立国会図書館が行う「点字図書・録音図書全国総合目録事業」に参加する公立図書館及び点字図書館
- 2 サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）に加盟する施設団体

（対面朗読）

- 第11条** 利用登録者は、対面朗読を利用しようとするときは、原則として朗読日の1週間前までに、図書館へ利用の申込を行うものとする。
- 2 対面朗読は、対面朗読室又は会議室がある図書館で行う。
- 3 朗読は資料変換者又は図書館職員が行う。
- 4 時間は午前9時から午後5時とし、原則として1回2時間以内とする。

（謝礼）

別表1

視覚障害 聴覚障害 肢体障害	精神障害 知的障害 内部障害	発達障害 学習障害 いわゆる「寝たきり」の状態	一過性の障害 入院患者 その他図書館が認めた障害
----------------------	----------------------	-------------------------------	--------------------------------

別表2

利用登録確認項目リスト

チェック欄	確認事項
	身体障害者手帳の所持 [] 級（注）
	精神保健福祉手帳の所持 [] 級
	療育手帳（愛の手帳）の所持 [] 級
	医療機関・医療従事者からの証明書がある
	福祉窓口等から障害の状態を示す文書がある
	学校・教師から障害の状態を示す文書がある
	職場から障害の状態を示す文書がある
	学校における特別支援体制を受けているか受けていた
	福祉サービスを受けている
	ボランティアのサポートを受けている
	家族やヘルパーに文書類を読んでもらっている
	活字をそのままの大きさでは読めない
	活字を長時間集中して読むことができない
	目で読んでも内容がわからない。あるいは内容を記憶できない
	身体の病状状態やまひ等により、資料を持ったりページをめくったりできない。
	その他、原本をそのままの形では利用できない

注（身体障害者手帳における障害の種類） 視覚、聴覚、平衡、音声、言語、咀嚼、上肢、下肢、体幹、運動一上肢、運動一移動、心臓、腎臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸、免疫など（身体障害者福祉法別表による）

第12条 資料変換者が行う業務に対し、別に定めるところにより謝礼を支払う。

(著作権処理)

第13条 視覚障害者等の希望により録音図書の製作を行う場合で著作権処理を必要とするものについては、館長は事前に原資料の著作権者の許諾を受けなければならない。

(大活字本等の貸出)

第14条 視覚障害者等サービスの一環として、図書館は、一般に市販されている図書よりも大形の活字で印字されている大活字本及び布絵本の収集に努め、視覚障害者等及び一般の者の利用に供する。

2 大活字本及び布絵本は、図書資料として貸出しを行う。

(補足)

第15条 この要綱に定めるもののほか、視覚障害者等サービスの実施に関する事項は館長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行の際、この要綱による改正前の新宿区立図書館視覚障害者奉仕要綱の規定によりなされた利用登録、録音図書の貸出しその他の行為については、それぞれこの要綱による改正後の新宿区立図書館視覚障害者等サービス実施要綱の相当の規定によりなされたものとみなす。

(中略)

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

新宿区立図書館家庭配本サービス 事業実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、新宿区立図書館条例(昭和44年条例第14号)第3条第5号の規定に基づき、新宿区立図書館(以下「図書館」という。)を利用することに障害がある者に対して、自宅まで配本することにより、図書館サービスの増進を図り、教養と福祉の向上に資することを目的とする。

(対象者)

第2条 この要綱による貸出し対象者は、区内に居住し、次の理由により図書館への来館が困難な者とする。

- (1) 身体障害
- (2) 高齢
- (3) 病気、怪我、妊娠等
- (4) その他、新宿区立中央図書館長(以下「館長」という。)が認める事由

(資料)

第3条 貸出す資料は、新宿区立図書館条例施行規則(平成9年教育委員会規則第2号。以下「規則」という。)第4条の規定に基づき、館外貸出しを不適当と認めた資料を除いた図書館資料とする。

(登録)

第4条 資料の貸出しを希望する者は、新宿区立図書館管理運営要綱第13条の規定に基づく利用登録をするとともに、家庭配本サービス利用登録申込書(第1号様式)に氏名、住所その他必要事項を記入し、本人又は代理人が、館長に申込まなければならない。

2 代理人による登録申請は、原則として委任状及び代理人の住所確認のできる書類の提示による。但し、委任状は電話による確認に代えることができる。

3 代理人が来館できないときは、郵便申請又は図書館職員が訪問して申請受理することにより登録することができる。

(利用及び配本の方法)

第5条 登録者は配本希望資料について、電話、郵便等の方法により予約を行うことができるものとする。

2 登録者は原則として月2回、図書館職員又は新宿区立図書館サポーター制度実施要綱に定める図書館サポーターによる定期的配本を受けることができるものとする。

(貸出し冊数及び期間)

第6条 貸出し冊数及び期間は規則第8条の規定に準拠するものとする。

(謝礼)

第7条 第5条第2項の図書館サポーターによる配本に対し、別に定めるところにより謝礼を支払う。

(補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、家庭配本サービス事業に必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、昭和61年9月1日から施行する。

(中略)

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

新宿区立図書館サポーター制度実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は図書館利用者へのサービスの充実と向上を図るため、図書館業務に協力する図書館サポーター（以下「サポーター」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この要綱においてサポーターとは、図書館業務への協力をその自由意志に基づき、無償で提供する者をいう。ただし、視覚障害者等サービスと家庭配本サービス、絵本でふれあう子育て支援にかかる費用弁償はこの限りではない。

(登録資格)

第3条 サポーターは、次の資格を備える者とする。

- (1) 新宿区在住・在勤・在学または新宿区立図書館利用登録者で、満18歳以上の者
- (2) 継続的に活動する意思がある者
- (3) 図書館活動に関心のある者

(登録等)

第4条 登録等は下記のとおりとする。

- (1) サポーター活動を希望する者は、別に定める様式に基づき中央図書館長（以下「館長」という）に申請する。
- (2) サポーターが次の各号に該当するときは、登録を解除することができる。
 - ア 本人の申し出によるとき
 - イ 転出または転勤・卒業等の事由により、協力ができなくなったとき
 - ウ 2年以上活動がないとき
 - エ その他、館長が登録を解除することが適当と認めたとき

(活動)

第5条 サポーターは館長の依頼により、図書館業務のサポート活動を行う。
対象の図書館業務は別途細目で定める。

(研修)

第6条 館長は登録されたサポーターに対し研修・説明会等を行い、業務の円滑な運営を図るものとする。

(懇談会)

第7条 館長はサポーター活動を円滑に行うため、必要に

応じてサポーターとの懇談会を開催することができる。

(遵守事項)

第8条 サポーターは、図書館業務上知りえた情報等は漏らしてはならない。また、サポーター登録の解除後も同様とする。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

この要綱は、平成24年8月23日から施行する。

新宿区立図書館資料収集要綱

第1章 総 則

(目的)

第1条 この要綱は、新宿区立図書館条例（昭和44年条例第14号）に定められた事業を十分かつ円滑に運営するため、資料の収集に関して必要な事項を定めることを目的とする。

第2章 基本方針

(利用者の要望への対応)

第2条 利用者の資料要求が十分に反映されるよう配慮して、利用者の学習、教養、調査研究、実用及びレクリエーションに資する資料を幅広く収集する。

(収集する資料の種類)

第3条 収集する資料の種類は次のとおりとする。

- (1) 図書、逐次刊行物等の印刷資料及び視聴覚資料とする。
- (2) 収集する資料は、原則として国内で発行及び製作されている資料とする。
ただし、必要に応じて、国外で発行及び製作されている資料も収集する。

(収集資料の範囲)

第4条 収集する資料の範囲は、全分野にわたり、基礎的、入門的なものから専門的なものまで幅広く収集する。
2 利用が集中し、又は利用の集中することが予想される資料については、複数の収集を行うことができるものとする。

(蔵書計画及び蔵書構成)

第5条 資料の収集は、資料の特質をいかした総合的な蔵

書計画及び蔵書構成を十分に考慮する。

- 2 資料の収集は、総合的な蔵書計画及び蔵書構成を十分に考慮して体系的に行うため、各分野の蔵書構成、未収資料、欠本の補充等その他の必要事項について調査検討のうえ収集する。
- 3 資料の収集は、他の国公立図書館及び文化施設等の類縁機関の蔵書構成をも考慮して行う。

（資料の選定）

第6条 資料の選定は、年間の収集方針及び購入計画に基づいて行う。

- 2 資料の選定にあたっては、日本図書館協会の採択にかかる「図書館の自由に関する宣言」及び「図書館員の倫理綱領」の趣旨を尊重し、資料及び著者のあらゆる思想的立場あるいは著者の人権、国籍、言語を理由としてその資料を排除することなく、公平で自由な幅広い視野をもって行う。
- 3 資料の選定を適切に行うため資料選定会を設け、必要に応じて図書館相互の連絡・調整を図る。

（収集の方法）

第7条 資料の収集方法は、購入のみならず、寄贈、配布、寄託、交換等の手段を十分に活用し、もっとも迅速、的確な方法で収集する。

（中央図書館と中央図書館以外の区立図書館（以下「地域図書館」という。）の資料収集の分担）

第8条 中央図書館は原則として次の資料を収集する。

- (1) 一般的奉仕のために必要な次の資料を収集する。

- ア 利用者の学習及び教養に資する資料
- イ 利用者の一般的調査研究に資する資料
- ウ 利用者の日常生活の維持向上に資する資料
- エ 利用者の趣味及びレクリエーションに資する資料

- (2) 利用者の学習並びに調査研究に資する学術・専門的資料、参考図書およびその他の資料を収集する。

- (3) 利用者の趣味、教養、文化活動及び社会教育活動に資する視聴覚資料を収集する。

- 2 地域図書館は原則として前項の（1）で規定した一般的奉仕のために必要な資料を収集する。

（参考図書）

第9条 参考調査機能を果たすために必要な図書を全分野にわたり幅広く収集する。

- (1) 利用者の一般的な調査研究に必要なもの。
- (2) 利用者の高度に専門的な調査研究に必要なもの。
- (3) 利用者への参考業務に必要なもの。

（一般図書）

第10条 全分野にわたり、基礎的、入門的なものから専門的なものにいたるまで幅広く収集する。ただし、次の図書については厳選する。

- (1) 利用者あるいは利用者がきわめて限られているもの。
- (2) 一資料として自立しえないもの及び一過的なもの。
- (3) きわめて特殊な読書の領域に属するもの。
- (4) 他の図書館及び類縁機関を通じて提供できるもの。

（児童図書）

第11条 児童により良い読書の興味をよびおこし、児童の人格形成に役立つものを幅広く収集する。

- (1) 児童図書
児童の多彩な成長過程を十分留意し収集する。
- (2) 児童雑誌
児童の多様な成長過程を慎重に検討しながら収集する。
- (3) 紙芝居
演ずることにより大勢の子供が同時に喜びを共有できるものを収集する。

（地域資料）

第12条 地域資料

- (1) 郷土資料
新宿区を中心に、関連性の深い周辺地域一帯を含めた地域の歴史、風土、芸術、文化、産業等の実状及び変遷を記録した文書、写真等の図書資料を可能な限り幅広く収集する。
- (2) 行政資料
新宿区の作成、発行にかかる資料を主体に収集する。また、東京都、特別区、市町村等の発行する行政資料も可能な限り幅広く収集する。

（官公庁出版物）

第13条 官公庁出版物は必要な限り収集する。また、関係機関の必要資料も収集する。

（図書館関係資料）

第14条 図書館及び類縁機関の刊行物は必要に応じて収集する。

（逐次刊行物）

第15条 逐次刊行物

- (1) 新聞（新聞縮刷版も含む。）
全国紙を中心に幅広く収集する。
- (2) 雑誌
各分野にわたる雑誌を幅広く収集する。ただし、高度な学術専門誌については厳選する。
- (3) 幅広く収集するため各館の相互協力分担収集に努める。

（視聴覚資料）

第16条 視聴覚資料

- (1) コンパクトディスク、カセットテープ、レコード
クラシック、軽音楽、邦楽等のあらゆる分野にわたって幅広く収集する。

- (2) DVD、フィルム、ビデオテープ
社会教育を目的とした記録、教育上及び芸能上すぐれたものを収集する。
- (3) その他の視聴覚資料
利用者の要望と奉仕上の必要性を十分考慮して可能な限り収集する。

(視覚障害者用資料)

第17条 視覚障害者用資料

- (1) 視覚障害者用録音資料
記録、教育上すぐれたもの及び対象者の趣味、教養、娯楽等に資するものは可能な限り幅広く収集する。
- (2) その他の視覚障害者用資料
大型活字本等の資料及びその他適切な形態のものについてはできるだけ収集する。

附 則

この要綱は、昭和61年4月1日から施行する。

(中略)

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

新宿区立図書館資料の除籍・廃棄要綱

(目的)

第1条 この要綱は、新宿区立図書館が所蔵する図書館資料について、除籍、廃棄する場合の基準を定めるものである。

(除籍の基準)

第2条 除籍は、次の各号に掲げる基準により、これを行う。

1 亡 失

- (1) 3年間以上所在不明となったもの。
- (2) 回収不能及び現品弁償不能となり、貸出し時から3年以上経過したもの。
- (3) 災害、その他の事故により失われたもの。

2 毀 損

図書資料は、はなはだしい汚損若しくは破損のため、修理製本ができないもの、又は製本する価値がないと認めたもの。

視聴覚資料は、映像又は音声の再生が不完全で、資料としての価値を失ったもの。

3 不 用

経年等により、内容的にみて利用価値が少なくなったもの。

(1) 図書については資料の購入年月日から起算して1年以上、雑誌については保存年限、視聴覚資料については3年以上を経過し、内容的にみて利用価値が少なくな

ったもの、又は資料としての価値を失ったもの

- (2) 同一資料で複数所蔵のある資料
- (3) 貸出実績が長期間無い等、資料の保存価値、収蔵能力等を総合的に判断し、所蔵することが適当でなくなった資料
- (4) その他、中央図書館長（以下、「館長」という。）が認めたもの

4 その他

図書資料については以下の通りとする。

(1) 分冊若しくは合冊により数量更正しようとするもの。

(2) 館長が所属換を必要と認めたもの。

視聴覚資料については以下の通りとする。

(1) 利用、貸出及び管理上、数量更正・所属換が適当と判断されるもの

(2) 館長が所属換を必要と認めたもの

(廃棄の基準)

第3条 廃棄は、次の基準により、これを行う。

1 前条第2項又は第3項に該当する図書館資料等

(除籍・廃棄の決定等)

第4条 図書館資料の除籍・廃棄は館長が決定するとともに、除籍・廃棄とする図書等の有効活用を図るため、新宿区立図書館資料のリサイクル事業実施要綱に基づき処理する。

附 則

この要綱は、昭和49年5月1日から施行する。

(中略)

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。なお、この要綱の決定に伴い新宿区立図書館視聴覚資料の除籍・廃棄に関する取扱基準は廃止する。

新宿区立図書館資料のリサイクル事業実施要綱

(目的)

第1条 この要綱は、新宿区立図書館（分室を含む。以下「図書館」という。）において除籍された図書館資料（以下「リサイクル資料」という。）を区立施設、区内公共施設及び区民等へ無償で提供することにより、図書館において不用品となった図書等の有効活用を図り、もって区民の知識と教養の向上に資することを目的とする。

2 この要綱に基づいて実施する事業を、図書館資料のリサイクル事業（以下「事業」という。）という。

（対象資料）

第2条 この事業の用に供するリサイクル資料は、図書館において所蔵し、除籍手続きを経て不用となった全ての資料及び、図書館資料以外のもので、寄贈資料（図書館で受け入れなかったもの）、リサイクル用として個人から持ち込まれた図書等とする。ただし、汚損・破損の状態が著しく使用に耐えないもの、その他中央図書館長（以下「館長」という。）がリサイクル資料として不適当と認めたものは除くものとする。

2 リサイクル資料は、シールの貼付その他適当な方法により、事業の用に供するものである旨の明示を行う。

3 映像資料については、著作権法上の制限があるため、対象としない。

（リサイクル資料の提供先）

第3条

- (1) 区立施設
- (2) 区内公共施設
- (3) 個人

2 その他公益上必要な施設・団体で、館長が適当と認めたものの。

（リサイクル資料の提供の制限等）

第4条 提供先に提供するリサイクル資料の数量等については、提供先ごとに各図書館長が定める。

（リサイクル資料の提供の方法等）

第5条 リサイクル資料の提供方法は、常設リサイクルコーナーの設置等各図書館長が別に定める。

（遵守事項）

第6条 リサイクル資料の提供を受けたものは、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) リサイクル資料を古書店等に売却する等営利目的に使用してはならない。
- (2) その他各図書館長が指定する事項

（報告）

第7条 中央図書館長は、各図書館の報告を取りまとめ、年度末、教育長あてに提供したリサイクル資料の1年間の数量その他必要事項を報告するものとする。

（委任）

第8条 この要綱の実施に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年11月1日から施行する。

（中略）

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

新宿区立図書館運営協議会設置要綱

（設置）

第1条 新宿区立図書館（以下「館」という。）の運営に関し新宿区教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の諮問に応じるとともに、館の行う図書館サービスについて教育長に意見を述べることを目的に、新宿区立図書館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組織）

第2条 協議会は、17人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次の者のうちから教育長が委嘱又は任命する。

- | | |
|--------------------|------|
| (1) 学識経験者 | 3人以内 |
| (2) 公募委員 | 4人以内 |
| (3) 区内の社会教育委員 | 2人以内 |
| (4) 障害者団体の推薦を得た者 | 1人以内 |
| (5) 図書館関係団体の推薦を得た者 | 2人以内 |
| (6) 区内学校職員 | 1人以内 |
| (7) 館職員 | 4人以内 |

（任期）

第3条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1名を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員が互選する。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたとき、その職務を代理する。

（会議）

第5条 協議会は、年4回以上開催し、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 協議会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

（庶務）

第6条 協議会の庶務は、中央図書館が行う。

(委任)

第7条 この要綱の実施について必要な事項は、中央図書館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

(中略)

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

3 座長は、必要に応じて関係者の出席を求めることができる。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

ただし、欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶務)

第6条 推進会議の庶務は、こども図書館が担当する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から適用する。

(中略)

この要綱は、平成21年4月1日から適用する。

新宿区子ども読書活動推進会議設置要綱

(設置)

第1条 新宿区子ども読書活動推進計画（以下「推進計画」という。）に基づき、毎年度の進捗状況を把握するとともに検証し、円滑な読書活動の推進に向けた検討などを行い、区民との協働による子どもの読書活動を推進するため、新宿区子ども読書活動推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

(担当事項)

第2条 推進会議は、新宿区の子どもの読書活動の推進に関する次の事項を協議する。

- (1) 推進計画の策定及び進捗状況に関すること。
- (2) 推進計画の普及・啓発に関すること。
- (3) 絵本でふれあう子育て支援事業の絵本の選定に関すること。
- (4) 関係機関等の連携・協力に関すること。
- (5) その他

(構成)

第3条 推進会議は、10人の委員をもって組織する。

- | | | |
|---|-----|----|
| (1) 新宿区立幼稚園 PTA 連合会・新宿区立小学校 P T A 連合会・新宿区立中学校 PTA 協議会 | 各代表 | 3人 |
| (2) 中央図書館読み聞かせ会代表 | | 1人 |
| (3) 学識経験者 | | 2人 |
| (4) 区職員 | | 4人 |

2 推進会議に座長及び副座長各1名を置く。

3 座長及び副座長は、委員が互選する。

4 座長に事故があるときは、副座長がその職務を代理する。

(推進会議)

第4条 推進会議は、座長が召集する。

2 推進会議は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

第4 その他

新宿区立図書館基本方針

平成 28 年 3 月
新宿区教育委員会

1 基本方針の改定にあたって

(1) 改定の主旨

新宿区教育委員会は、平成 20 年 1 月に「新宿区立図書館基本方針」を策定しました。この基本方針により、これまでに、レファレンス（調べ方案内）の充実、インターネット閲覧端末など IT 環境の整備、指定管理者制度の導入と開館時間延長など着実に成果をあげてきました。

一方、今日、図書館は地域の知識基盤として、電子書籍などデジタルコンテンツへの対応、知的交流や知識創造に向けた取り組み、他の機関との連携や NPO、ボランティアとの協働など、新たな対応も求められています。

また、基本方針策定後の平成 20 年 6 月の図書館法の大規模な改正と、これを踏まえた「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の改正（平成 24 年）で、図書館の基本的運営方針の策定及び公表、運営状況の点検・評価、各種の図書館サービスの望ましい基準などが規定されました。

これらのことから、今回、基本方針を改定することとします。改定する基本方針は、これまでの基本方針をさらに発展させ、平成 22 年に策定した「新中央図書館等基本計画」、平成 28 年度から実施予定の「第四次新宿区子ども読書活動推進計画」等とも整合を図るものとします。

(2) 改定の背景

①公立図書館関連の主な法改正

教育基本法が約 60 年ぶりに全面改正され、これを受け、平成 20 年 6 月、図書館法も大幅に改正されました。改定図書館法の規定を具現化するために、平成 24 年 12 月に「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改定されました。

また、平成 27 年 4 月に「学校図書館法」が施行され、学校司書を置くよう努めること等について定められました。

さらに平成 28 年 4 月施行の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」では、障害のある方たちに対して合理的配慮が義務付けられます。

②我が国の公立図書館の経年変化

長期にわたって前年度比で増加を続けてきた公共図書館の個人貸出数が、平成 23 年度から 4 年連続で減少しています。このような貸出総数の減少は、図書館の全国

統計が始まった昭和 40 年以来、初めての事態です。（参考：『図書館年鑑 2015』日本図書館協会 2015 年 8 月）

新宿区でも平成 22 年までは増加していましたが、平成 23 年度の震災の影響での休館や時間短縮等があり、減少しました。翌年は回復しましたが、平成 25 年度は、中央・こども図書館移転による休館で、再び減少しています。（表省略）

③出版流通業界の動き

「出版科学研究所」が行った調査によると、書籍の販売額がピークであった平成 8 年は、1 兆 1,692 億円だったのに対し、平成 25 年では、7,851 億円となっています。また、雑誌についても販売額がピークであった平成 9 年は、1 兆 5,644 億円だったのに対し、平成 25 年では、8,972 億円となっています。そうした中で、電子書籍の市場規模は急成長しており、『電子書籍ビジネス調査報告書 2014』によれば、平成 22 年は、656 億円だったのに対し、平成 25 年は、936 億円が見込まれるという報告もあります。

④電子書籍導入の公共図書館

電子出版政策・流通協議会が行った「公共図書館の電子図書館・電子書籍サービス」調査によれば、平成 19 年に電子書籍を導入した公立図書館は、1 館だったのに対し、平成 26 年では、38 館に増加していますが、貸出サービスはあまり進んでいません。その要因は、電子版で読める本が少なく、平成 19 年に公共図書館として初のサービスを開始した千代田区立図書館でも、収集基準に照らして導入できるものはかなり少ないといえます。

現状では、電子書籍サービスの実施予定、検討中の館は 86 館で、地域資料のデジタル化を実施している館の割合も 86 館となっています。

⑤国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス

平成 24 年の著作権法改正によって、デジタル化された国立国会図書館資料のうちの絶版等の資料については、全国の図書館までデータを送信でき、送信先の図書館での複写も可能となりました。

国立国会図書館では、平成 26 年 1 月からこのサービスを開始しました。

新宿区では、平成 27 年度から中央図書館で対応しています。

⑥新宿区立図書館の統計比較（表省略）

このように、新宿区立図書館をめぐる背景が変化していることから、今回、基本方針を改定することとします。

2 基本方針

(1) 基本方針の構成（図省略）

〈使命〉 区民にやさしい知の拠点

様々な課題について、自ら考え、他者と協働して解決する区民を支援すること、わかりやすい情報提供をすることなど、区立図書館は、すべての人々にやさしい知の拠点であることを使命とします。

〈方針〉

I. 区民に伝える図書館

多様な資料や情報を収集し、充実して、区民に分かりやすい情報を提供していきます。

II. 区民を支える図書館

区民の生活に即した様々な相談や解決につながる情報提供をめざします。

III. 区民が集う図書館

新宿に住み、働き、学び、活動する多様な人々の情報交換や交流を支援していきます。

IV. 子どもの成長を応援する図書館

子どもの健やかな成長を応援し、子どもの読書環境の充実と活動支援をしていきます。

V. ICT の利活用の推進

図書館情報システムの充実と ICT のさらなる活用をめざします。

VI. 図書館環境の整備

新中央図書館等の建設や地域図書館を整備していきます。また、より利用しやすい図書館づくりを行います。

に合わせた資料収集を継続して行います。

② 電子資料の導入に資するための蔵書の再構成と区立図書館資料収集要綱等の見直しについて検討していきます。

③ 2020 年に開催されるオリンピック・パラリンピックに関連した資料を充実していきます。

2 地域資料の充実

地域資料の収集・保存・活用の拡充の検討

① 区及び関連のある地域について、歴史、風土、芸術、文化などの実情及び変遷を記録した文書や写真などを可能な限り、幅広く収集し、提供していきます。

② 地域の産業である印刷や出版、染色などの関連資料も収集し、提供していくことで、産業の活性化に貢献していきます。

③ 地域に関係のある文化人の資料を収集し、提供するとともに、新宿にゆかりのあるまんが家の作品、新宿を舞台にした作品等を収集・保存し、活用するしくみをつくります。マンガについて今後、新宿区の特色を生かした選書基準を検討します。

④ 地域のお知らせ、ニューズレターなど地域ならではの資料を収集・保存・活用する方策を検討します。

3 電子資料等の活用

電子資料等の収集・保存・活用の検討

① 市場で流通している電子書籍等の導入について、継続して検討します。

② 区が作成している様々な冊子、パンフレット等のデジタルアーカイブ化を検討します。

4 行政資料の充実

行政資料の収集・保存・活用のしくみづくりの検討

区役所 1 階の区政情報センターとも連携を図り、区政に対する区民の関心を高め、参加を促進するため、区の刊行物、行政資料を充実させ、活用を検討していきます。

5 他自治体等との連携

他自治体図書館等との相互貸借

① 区立図書館で収集していない資料等については、他の自治体等の図書館と連携を図り、適切に取り寄せて資料提供に努めます。

② 区内在住・在勤・在学者が相互貸借をより利用しやすいしくみをつくります。

II. 区民を支える図書館

区民の生活に即した様々な相談や解決につながる情報提供をめざします。

6 区民の課題解決支援

身近な課題解決の支援

① 子育てや介護の悩みなどの問題解決に役立つ資料の収集

(2) 基本方針の取り組み

〈使命〉 区民にやさしい知の拠点

様々な課題について、自ら考え、他者と協働して解決する区民を支援すること、わかりやすい情報提供をすること、すべての人々にやさしい知の拠点であることを使命とします。

I. 区民に伝える図書館

多様な資料や情報を収集し、充実して、区民に分かりやすい情報を提供していきます。

1 資料の充実

バランスや地域の特性等を考慮した資料の充実

① 区立図書館全体のバランスを考えた蔵書構成を行うとともに、ビジネス街や、外国人の集住地域など、地域の特性

や、情報を提供します。また、ゴミや騒音など日常生活のなかで生じる様々な問題に関して、区役所の担当課とのネットワークを強化し、解決支援をしていきます。

- ② 外部の専門家や専門機関等と連携を強化していきます。

7 利用者にわかりやすく役立つサービスの提供

図書館利用及び、情報リテラシーの向上支援の充実

多様化している情報の中から、利用者が必要としている情報を容易に入手できるように、図書館の利用方法や、情報検索の支援を行っていきます。

8 外国人・障害者・高齢者に対する支援

多文化、障害者、高齢者サービスの充実

- ① 外国語の資料を収集するとともに、多文化共生プラザ等と連携を図りながら、区内に住む外国人の支援に努めます。
- ② 平成28年4月施行予定の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に伴い、障害者サービスの充実に努めるとともに、図書館に来ることが困難な方への家庭配本サービスの充実に努めます。
- ③ 区内の介護施設等と連携を図るとともに高齢者サービスの充実に努めます。

9 区内で活動する様々な人々、団体、企業等の活動支援

区民ニーズの把握及び様々な人々への活動支援

- ① 多様な利用者及び区民の利用を促進するために、区民ニーズを把握し、様々な人々への活動を支援していきます。
- ② 中小企業診断士による起業・創業・経営上の相談を行うビジネス情報支援相談会を引き続き実施します。
- ③ 例えば、区内の団体などから、FAXなどで質問・レファレンスを受けたり、該当資料を有料で郵送貸出するなど、非来館型サービスについて検討していきます。

10 博物館・大学等との連携

博物館や大学等と連携した資料提供や活用の充実

- ① これまでも新宿歴史博物館やウイズ新宿、大学等と連携を図っていますが、広く区民に周知していきます。
- ② 区民が、公立図書館を通じて、大学図書館等の専門的資料を利用できるようにし、大学図書館等は、公立図書館が持つ一般書や初級の専門書等の資料を利用できるようにするなど、相互にサービスを利用できるよう検討していきます。

11 行政支援

区の施策形成などの情報活用の支援

- ① 区職員の施策の企画立案に有効な情報の収集、活用をさらに促進していきます。
- ② 区の各部署等との連携を図っていきます。

Ⅲ. 区民が集う図書館

新宿に住み、働き、学び、活動する多様な人々の情報交換

や交流を支援していきます。

12 魅力あるイベントの実施

区民のニーズに的確に対応したイベントの実施

- ① 専門家、専門機関等との連携、協力による講座や相談会等を行っていきます。
- ② 開催時間を工夫するなど区民のニーズに的確に対応した、イベントを企画・実施していきます。イベントによって、知識や情報を得られるだけでなく、情報交換や交流の機会を得られるしくみづくりを行っていきます。
- ③ 図書館未利用者へのアプローチとして、魅力あるイベントのPRに努めます。

13 多様な学習機会の提供

区民の学習活動の支援と学習成果発表の場の提供

区民の自主的、自発的な学習活動や、趣味や教養などの成果をまとめ、発表する機会と環境を提供していきます。

14 情報の生産・発信・交流の支援

区民同士を結びつける橋渡しの工夫

- ① 区民が情報を発信したり、情報を交換したり、意見を伝え合える機会と場を検討していきます。
- ② インターネット環境を活用し、図書館未利用者を含めた区民同士の交流のきっかけづくりを工夫していきます。

15 区民との協働

図書館サポーター等の活動の継続・発展

- ① 読み聞かせや対面朗読、本の修理など様々な場面で、自主的に図書館を支えている図書館サポーターの活動を継続・発展させ、協働できる体制を整備します。
- ② 図書館サポーターの活動を広く紹介することなどにより、より多くの区民と協働した運営を行います。

Ⅳ. 子どもの成長を応援する図書館

子どもの健やかな成長を応援し、子どもの読書環境の充実と活動支援をしていきます。

16 「新宿区子ども読書活動推進計画」

子どもが自主的に読書活動を行うことができる読書環境の整備
家庭、地域、図書館、学校などが連携した事業を推進していきます。

この計画の対象は、乳幼児から中高校生までです。

17 読書環境の充実

本に触れ、本を親しむ機会の拡充

家庭、地域、図書館、学校など子どもの読書環境を整備し、拡充していきます。

18 読書活動への支援

読書活動に係る各種事業の実施・開催

読書活動に関連する施設や、人々への支援を行います。

19 区立図書館の利用促進

魅力ある図書資料及びイベントの充実

魅力ある図書資料を揃えるとともに、工夫をこらした各種イベントを開催していきます。また、図書館のホームページのこどもページをより見やすいものに改善していきます。

20 学校等との連携

団体貸出の充実

学校図書館支援員等との連携、強化を図るとともに、小中学校や子育て関係施設等への団体貸出専用の図書資料を充実していきます。

21 絵本でふれあう子育て支援

乳幼児への読み聞かせと絵本の配付

地域図書館及び地域ボランティアと連携、協力し、事業を継続していきます。

V. ICT の利活用の推進

図書館情報システムの充実と ICT のさらなる活用をめざします。

22 図書館情報システムの充実

図書館情報システムの充実

利用者ニーズや電子書籍等の ICT の状況に見合った図書館情報システムの導入を推進していきます。

23 ホームページの充実

ホームページの充実

- ① 区民からのご意見等を参考に、より見やすいホームページをつくっていきます。
- ② ホームページ内コンテンツ（地域資料探検隊や、調べ方案内（レファレンス）事例紹介等）を充実していきます。

24 ICT のさらなる活用

区史等データベースの充実及びデジタル化の検討

- ① 区史等データベース（区史索引データベース、区ゆかりの人物データベース、区内写真掲載資料検索データベース）や、各種商用データベース（新聞オンライン記事データベース、雑誌記事の検索、オンライン百科事典等）を充実するとともに、区民に広く周知し、活用できるようにしていきます。
- ② 地域資料のデジタル化については、民間企業や専門機関と連携を図りながら、継続して検討していきます。

VI. 図書館環境の整備

新中央図書館等の建設や地域図書館を整備していきます。また、より利用しやすい図書館づくりを行います。

25 新中央図書館建設と地域図書館の配置

新中央図書館建設の検討と地域図書館（落合地域）の整備

- ① 新中央図書館の建設については、新中央図書館等基本計画を踏まえ、早稲田大学や関連部署、民間専門機関との検討を継続して行います。
- ② 地域図書館の整備については、落合地域に下落合図書館の開設を進めます。
- ③ 新中央図書館の建設に伴い、近接する地域を含めた新宿区全体における図書館の配置、建物の老朽化に伴う修繕等について、検討していきます。

26 身近な場所の読書環境の整備

利用者ニーズに応じた資料提供の検討

- ① 身近な場所での貸出返却の検討をします。
- ② 学校や児童館など団体貸出の配本サービスを拡充するなど、身近な場所の読書環境を整備します。

27 運営体制の充実

効果的効率的な運営体制による図書館サービスの充実

- ① 中央図書館は、区立図書館を統括していくために直営で運営していきます。また、こども図書館は図書館の児童サービスの中核として、同様に直営で運営していきます。なお、必要に応じて業務委託等の拡充を検討していきます。
- ② 地域図書館は、地域に密着したサービスと、一層のサービス拡大をめざし、指定管理者制度を活用して効果的効率的な運営を行います。
- ③ 委託等においては、労働環境のモニタリングや事業評価等を通じて、適正な運営を確保していきます。

28 利用満足度の高い図書館運営

休館日の一部変更、多くの人々の意見を積極的に取り入れた運営

- ① 利用者の利用機会の充実を図るため、区立図書館の月曜日の一斉休館日を改め、一部の区立図書館の休館日を変更します。
- ② 変化の激しい時代に対応していくために、区民のニーズ等を分析し、適切な計画を立てるとともに、計画の進捗状況や成果に対する評価・公表を行い、よりよいサービスの提供に向けた改善を重ねていきます。
- ③ 区民や利用者など、多くの人々の意見を積極的に取り入れながら運営していきます。
- ④ 区内在住・在勤・在学者がより利用しやすいしくみを検討していきます。

29 人材の育成・活用

様々な機関等の案内、取次等できる人材の育成

- ① 図書館の職員としての専門性だけでなく、地域が抱える課題解決のための図書館サービスや、事業の企画・実施、そのための資料の組織化、コンテンツづくりのための知識や技術を持つなど、幅広い能力を持つ人材を育成し、活用

していきます。

- ② 効果的な運営や業務改善の能力を高めるとともに、「人」と「人」とのやりとりや、温かみをもって人と接することができるなど、資質の向上にも努めていきます。

30 利用者の快適な環境づくり

利用しやすい環境づくりの工夫

- ① Ⅲ 区民が集う図書館の12～15番に記した活動を支援するための環境づくりを工夫します。
- ② 区民からいただいたご意見等を参考に利用環境の改善を行います。

(3) 基本方針の実現に向けて（サービス計画）

基本方針は、新宿区基本構想のめざすまちの姿の実現に向けた施策を体系的、総合的に明らかにした行財政運営の指針である新宿区総合計画に基づくものです。また新宿区が計画的、優先的に推進する事業を示す実行計画と整合させるものです。

基本方針を達成するためには、図書館の限りある経営資源である施設と資料と職員を最大限活用して、効果的効率的にサービスを実施していく必要もあります。このため、各区立図書館ごとにサービス計画を定めて、重点的な取り組みや、達成状況などを明らかにしていきます。

また、サービス計画は、単年度ごとの新宿区実行計画のローリングと新宿区予算編成等とも整合させるものです。毎年、業務統計等の一部速報、過年度の評価、当年度の主な取り組みを冊子として作成、配布するとともに、ホームページでも公表します。

中央図書館とこども図書館は、区立図書館全体の統括を行う事業計画とします。

地域図書館は、指定管理者との協定で定めている「①地域に密着した図書館サービス」「②利用の拡大と満足度の向上」「③レファレンスサービスのさらなる充実」を取り入れた事業計画とします。

(4) 改定後の基本方針と前基本方針等との関係について

<使命> 区民にやさしい知の拠点

これまでの基本方針では、新宿区立図書館の使命についての言及がありません。改定後の基本方針では、これまでの基本方針の中の「地域の知の拠点」と、新中央図書館等基本計画の「新宿の知の拠点」のコンセプトを活かし、分かりやすいという意味と、利用しやすいという意味を含めて、「区民にやさしい知の拠点」としました。

方針Ⅰ 区民に伝える図書館

図書館の重要な役割のひとつは、情報資源（図書、雑誌、視聴覚資料等）を組織（収集、分類排列、保存等）し、提供（閲覧、貸出、複写等）していくことです。

これまでの基本方針では、これらのことを「従来からの図書館サービスの充実」の下に、「蔵書の充実」として位

置づけています。

改定後の基本方針では、本などの出版書籍のみならず、地域資料、電子資料など図書館資料を幅広く捉えるとともに、後世の利用者を含め、資料の提供や活用を重視した「伝える」ことを基本とし、新たに大きな柱としました。

また、これまでの基本方針の「従来からの図書館サービスの充実」の下のもうひとつの「子どもの健やかな成長を応援」については、改定後の基本方針では上位の大きな柱に位置づけ「子どもの成長を応援する図書館」としました。

方針Ⅱ 区民を支える図書館

図書館のもうひとつの重要な役割は、膨大な情報や資料の中から、利用者が求めるものをより迅速に、正確に入手できるよう支援することです。これは参考調査やレファレンスと呼ばれる図書館ならではのサービスです。

こうしたサービスを中心にした課題解決の支援について、これまでの基本方針では「これからの情報センターサービス」として特に強調し、その下に「地域の知の拠点」と「わかりやすい情報収集と発信」を位置づけています。「地域の知の拠点」では、生活や仕事等の課題解決を支援する相談・情報提供機能の強化を掲げています。また「わかりやすい情報収集と発信」では、印刷資料とインターネット等を組み合わせた情報提供を位置づけています。

改定後の基本方針では、これまで重点的に取り組んできた成果を踏まえ、これらの課題解決の支援の充実とともに、障害者や高齢者など対象別のきめ細かな支援、利用者の情報活用能力向上の支援など、対人サービスを重視した「伝える」ことを基本にし、新たに大きな柱としました。

方針Ⅲ 区民が集う図書館

さらに図書館の重要な役割として、読書会、映写会、講習会など情報資源を同時に多数で共有するサービスの提供と奨励、社会教育の学習機会を利用した成果を活用する機会や場の提供と奨励などの集会・行事サービスがあります。

これまでの基本方針では、これらのことがほとんど触れられていません。

改定後の基本方針では、図書館が魅力ある集会・行事サービスの提供機関であることを踏まえて、区民との協働を含め、交流を重視した「集う」を基本にし、新たに大きな柱としました。

方針Ⅳ 子どもの成長を応援する図書館

児童サービスは公立図書館の重要な分野です。

これまでの基本方針では「従来からの図書館サービスの充実」の下に「子どもの健やかな成長を支援」を位置づけています。改定後の基本方針では、「子どもの成長を応援する図書館」として、大きな柱に位置づけました。

新宿区では「子ども読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月12日 法律第154号）に基づく「新宿区子ども読書活動推進計画」を平成16年に策定し、以降順次

改定し、現在は平成 24 年度から平成 27 年度までの「第 3 次新宿区子ども読書活動推進計画」を推進しています。また平成 28 年度から平成 31 年度までの「第 4 次新宿区子ども読書活動推進計画」の策定に取り組んでいます。

子ども読書活動推進計画では、新宿区のすべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことを目指しています。そして家庭、地域、学校、図書館及び子育て支援施設等での読書環境の整備や読書活動の推進など約 60 の事業を計画しています。

改定後の基本方針では、この子ども読書活動推進計画の中で図書館が担っている取り組みを「子どもの成長を応援する図書館」とし、新たに大きな柱としました。

方針Ⅴ ICT の利活用の推進

今日、インターネットやコンピューターなど情報通信技術の利活用は図書館サービスの基盤となっています。これまでの基本方針では、「これからの情報センターサービス」の下に「わかりやすい情報収集と発信」として、利用者用のインターネット閲覧端末の整備や商用データベースの導入などを位置づけています。改定後の基本方針では、図書館が知識基盤社会の重要な担い手であることを踏まえ、図書館のインターネットの利活用や図書館情報システム等の情報通信分野の取り組みを新たに大きな柱としました。

方針Ⅵ 図書館環境の整備

これまでの基本方針では、「図書館環境の整備」として、新中央図書館の建設、開館時間の拡大と指定管理制度の活用、IC タグ及び自動貸出機の導入などを位置づけています。

このうち特に「新中央図書館の建設」については、これまでの基本方針策定後に、学識経験者や公募委員などで構成された「新中央図書館等基本計画策定委員会」の下で、アンケート調査、新しい図書館を考える集いなどの区民意見を踏まえた検討がなされ、その答申に基づいて、平成 22 年 11 月に「新中央図書館等基本計画～新宿の知の拠点をめざして～」を策定しました。建設候補地も旧戸山中学校に決定していましたが、平成 23 年の 3.11 東日本大震災を受けた新宿区緊急震災対策の中で、中央図書館は建設候補地の旧戸山中学校に仮移転し、新中央図書館の建設はあらためて判断することとしました。

新中央図書館等基本計画は、「新宿力で創造する、やすらぎとにぎわいのまちの実現に向けた新宿の知の拠点」の基本コンセプトとし、「伝える」、「支える」、「集う」のキャッチフレーズを相互に結びつけながら基本コンセプトの実現を目指すものとし、17 項目の取り組みを掲げています。

改定後の基本方針では、この 17 項目の取り組みを具体的に検討した新宿区図書館運営協議会の検討などを踏まえるとともに、「伝える」、「支える」、「集う」のキャッチフレーズを活かしています。さらに、旧中央図書館跡地に整備する下落合図書館、身近な読書環境の整備、利用満足度の向

上のひとつとして月曜日の一斉休館日の改善、図書館職員の人材育成など改定基本方針では「図書館環境の整備」を幅広く捉えた大きな柱としました。

基本方針を改定するにあたり、新宿区図書館運営協議会にて、「これからの図書館サービスのあり方」について、具体的に協議を重ねてきました。また、平成 26 年度の新宿区区民意識調査の特集調査のひとつとして、「図書館サービス」を取り上げ、その調査結果も十分に参考にしました。（表・図省略）

図書館の自由に関する宣言

日本図書館協会
1954 採 択
1979 改 訂
1979.5.30 総会決議

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することをもっとも重要な任務とする。

1. 日本国憲法は主権が国民に存するとの原理にもとづいており、この国民主権の原理を維持し発展させるためには、国民ひとりひとりが思想・意見を自由に発表し交換すること、すなわち表現の自由の保障が不可欠である。
知る自由は、表現の送り手に対して保障されるべき自由と表裏一体をなすものであり、知る自由の保障があってこそ表現の自由は成立する。
知る自由は、また、思想・良心の自由をはじめとして、いっさいの基本的人権と密接にかかわり、それらの保障を実現するための基礎的な要件である。それは、憲法が示すように、国民の不斷の努力によって保持されなければならない。
2. すべての国民は、いつでもその必要とする資料を入手し利用する権利を有する。この権利を社会的に保障することは、すなわち知る自由を保障することである。図書館は、まさにこのことに責任を負う機関である。
3. 図書館は、権力の介入または社会的圧力に左右されることなく、自らの責任にもとづき、図書館間の相互協力をふくむ図書館の総力をあげて、収集した資料と整備された施設を国民の利用に供するものである。
4. わが国においては、図書館が国民の知る自由を保障するのではなく、国民に対する「思想善導」の機関として、国民の知る自由を妨げる役割さえ果たした歴史的事実があることを忘れてはならない。図書館は、この反省の上に、国民の知る自由を守り、ひろげていく責任を果たすことが必要である。
5. すべての国民は、図書館利用に公平な権利をもっており、人種、信条、性別、年齢やそのおかれている条件等によっていかなる差別もあってはならない。
外国人も、その権利は保障される。

6. ここに掲げる「図書館の自由」に関する原則は、国民の知る自由を保障するためであって、すべての図書館に基本的に妥当するものである。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

第1 図書館は資料収集の自由を有する

1. 図書館は、国民の知る自由を保障する機関として、国民のあらゆる資料要求にこたえなければならない。
2. 図書館は、自らの責任において作成した収集方針にもとづき資料の選択および収集を行う。その際、
 - (1) 多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。
 - (2) 著者の思想的、宗教的、党派的立場にとらわれて、その著作を排除することはしない。
 - (3) 図書館員の個人的な関心や好みによって選択をしない。
 - (4) 個人・組織・団体からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄したり、紛糾をおそれて自己規制したりはしない。
 - (5) 寄贈資料の受入にあたっては同様に、図書館の収集した資料がどのような思想や主張をもっていようと、それを図書館および図書館員が支持することを意味するものではない。
3. 図書館は、成文化された収集方針を公開して、広く社会からの批判と協力を得るようにつとめる。

第2 図書館は資料提供の自由を有する

1. 国民の知る自由を保障するため、すべての図書館資料は、原則として国民の自由な利用に供されるべきである。

図書館は、正当な理由がないかぎり、ある種の資料を特別扱いしたり、資料の内容に手を加えたり、書架から撤去したり、廃棄したりはしない。

提供の自由は、次の場合にかぎって制限されることがある。

これらの制限は、極力限定して適用し、時期を経て再検討されるべきものである。

 - (1) 人権またはプライバシーを侵害するもの
 - (2) わいせつ出版物であるとの判決が確定したもの
 - (3) 寄贈または寄託資料のうち、寄贈者または寄託者が公開を否とする非公刊資料
2. 図書館は、将来にわたる利用に備えるため、資料を保存する責任を負う。図書館の保存する資料は、一時的な社会的要請、個人・組織・団体からの圧力や干渉によって廃棄されることはない。
3. 図書館の集会室等は、国民の自主的な学習や創造を援助するために、身近にいつでも利用できる豊富な資料が組織されている場にあるという特徴を持っている。

図書館は、集会室等の施設を、営利を目的とする場合を除いて、個人、団体を問わず公平な利用に供する。
4. 図書館の企画する集会や行事等が、個人・組織・団体からの圧力や干渉によってゆがめられてはならない。

第3 図書館は利用者の秘密を守る

1. 読者が何を読むかはその人のプライバシーに属することであり、図書館は、利用者の読書事実を外部に漏らさない。ただし、憲法第35条にもとづく令状を確認した場合は例外とする。
2. 図書館は、読書記録以外の図書館の利用事実に関しても、利用者のプライバシーを侵さない。
3. 利用者の読書事実、利用事実は、図書館が業務上知り得た秘密であって、図書館活動に従事するすべての人びとは、この秘密を守らなければならない。

第4 図書館はすべての検閲に反対する

1. 検閲は、権力が国民の思想・言論の自由を抑圧する手段として常用してきたものであって、国民の知る自由を基盤とする民主主義とは相容れない。

検閲が、図書館における資料収集を事前に制約し、さらに、収集した資料の書架からの撤去、廃棄に及ぶことは、内外の苦渋にみちた歴史と経験により明らかである。

したがって、図書館はすべての検閲に反対する。
2. 検閲と同様の結果をもたらすものとして、個人・組織・団体からの圧力や干渉がある。図書館は、これらの思想・言論の抑圧に対しても反対する。
3. それらの抑圧は、図書館における自己規制を生みやすい。しかし図書館は、そうした自己規制におちいることなく、国民の知る自由を守る。

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。

1. 図書館の自由の状況は、一国の民主主義の進展をはかる重要な指標である。図書館の自由が侵されようとするとき、われわれ図書館にかかわるものは、その侵害を排除する行動を起こす。このためには、図書館の民主的な運営と図書館員の連帯の強化を欠かすことができない。
2. 図書館の自由を守る行動は、自由と人権を守る国民のたかひの一環である。われわれは、図書館の自由を守ることと共通の立場に立つ団体・機関・人びとと提携して、図書館の自由を守りぬく責任をもつ。
3. 図書館の自由に対する国民の支持と協力は、国民が、図書館活動を通じて図書館の自由の尊さを体験している場合にのみ得られる。われわれは、図書館の自由を守る努力を不断に続けるものである。
4. 図書館の自由を守る行動において、これにかかわった図書館員が不利益をうけることがあってはならない。これを未然に防止し、万一そのような事態が生じた場合にその救済につとめることは、日本図書館協会の重要な責務である。

図書館員の倫理綱領

日本図書館協会
1980.6.4 総会決議

この倫理綱領は、「図書館の自由に関する宣言」によって示された図書館の社会的責任を自覚し、自らの職責を遂行していくための図書館員としての自律的規範である。

1. この綱領は、「図書館の自由に関する宣言」と表裏一体の関係にある。この宣言に示された図書館の社会的責任を日常の図書館活動において果たしていくのは、職業集団としての内容の充実によらなければならない。この綱領は、その内容の充実を目標とし、図書館員としての職責を明らかにすることによって、自らの姿勢をたやすための自律的規範である。したがってこの綱領は、単なる徳目の列挙や権利の主張を目的とするものでなく、すべての館種に共通な図書館員のあり方を考え、共通な基盤を拡大することによって、図書館を社会の有用な機関たらしめようという、前向きでしかも活動的なものである。

この綱領でいう図書館員とは、図書館に働くすべての職員のことである。綱領の各条項の具体化に当たっては、図書館長の理解とすぐれた指導力が不可欠である。

2. 綱領の内容はこれまでの図書館活動の実践の中から生まれたものである。それを倫理綱領という形にまとめたのは、今や個人の献身や一館の努力だけでは図書館本来の役割を果たすことができず、図書館員という職業集団の総合的な努力が必要となり、かつ図書館員のあるべき姿を、図書館員と利用者と、図書館を設置する機関または団体との三者が、共に考えるべき段階に立ち至ったからである。

3. この綱領は、われわれの図書館員としての自覚の上に成立する。したがってその自覚以外にはいかなる拘束力もない。しかしながら、これを公表することによって、われわれの共通の目的と努力、さらにひとつの職業集団としての判断と行動とを社会に誓約することになる。その結果、われわれはまず図書館に大きな期待を持つ人びとから、ついで社会全体からのきびしい批判に自らをさらすことになる。

この批判の下での努力こそが、図書館員という職業集団への信頼を生む。図書館員の専門性は、この信頼によってまず利用者に支えられ、さらに司書職制度という形で確認され、充実されねばならない。そしてその専門性がもたらす図書館奉仕の向上は、すべて社会に還元される。そうした方向へわれわれ図書館員全体が進む第一歩がこの倫理綱領の制定である。

4. この綱領は、すべての図書館員が館種、館内の地位、職種及び司書資格の有無にかかわらず、綱領を通して図書館の役割を理解し、綱領実現への努力に積極的に参加することを期待している。さらに、図書館に働くボランティアや図書館同種施設に働く人びと、地域文庫にかかわる人びと

等による理解をも望んでいる。

5. 綱領の構成は、図書館員個人の倫理規定にはじまり、組織体の一員としての図書館員の任務を考え、ついで図書館間および図書館以外の人びととの協力に及び、ひろく社会における図書館員の果たすべき任務に至っている。

(図書館員の基本的態度)

第1 図書館員は、社会の期待と利用者の要求を基本的なよりどころとして職務を遂行する。

図書館は社会の期待と利用者の要求の上に成立する。そして、ここから国民の知る自由の保障という図書館の目的も、またすべての国民への資料提供という基本機能も導き出される。したがって、図書館へのあらゆる期待と要求とを的確に把握し、分析し、かつ予測して、期待にこたえ、要求を実現するように努力することこそ、図書館員の基本的な態度である。

(利用者に対する責任)

第2 図書館員は利用者を差別しない。

国民の図書館を利用する権利は平等である。図書館員は、常に自由で公正で積極的な資料提供に心がけ、利用者をその国籍、信条、性別、年齢等によって差別してはならないし、図書館に対するさまざまな圧力や干渉によって利用者を差別してはならない。また、これまでサービスを受けられなかった人びとに対しても、平等なサービスがゆきわたるように努力すべきである。

第3 図書館員は利用者の秘密を漏らさない。

図書館員は、国民の読書の自由を保障するために、資料や施設の提供を通じて知りえた利用者の個人名や資料名等をさまざまな圧力や干渉に屈して明かしたり、または不注意に漏らすなど、利用者のプライバシーを侵す行為をしてはならない。このことは、図書館活動に従事するすべての人びとに課せられた責務である。

(資料に関する責任)

第4 図書館員は図書館の自由を守り、資料の収集、保存および提供につとめる。

図書館員は、専門的知識と的確な判断に基づいて資料を収集し、組織し、保存し、積極的に提供する。そのためには、資料の収集・提供の自由を侵すいかなる圧力・検閲をも受け入れてはならないし、個人的な関心や好みによる資料の収集・提供をしてはならない。

図書館員は、私的報酬や個人的利益を求めて、資料の収集・提供を行ってはならない。

第5 図書館員は常に資料を知ることにつとめる。

資料のひとつひとつについて知ることとは決して容易ではないが、図書館員は常に資料を知る努力を怠ってはならない。資料についての十分な知識は、これまでも図

書館員に対する最も大きな期待のひとつであった。図書館に対する要求が飛躍的に増大している今日、この期待もいちだんと高まっていることを忘れてはならない。さらに、この知識を前提としてはじめて、潜在要求をふくむすべての要求に対応し、資料の収集・提供活動ができることを自覚すべきである。

（研修につとめる責任）

第6 図書館員は個人的、集团的に、不断の研修につとめる。

図書館員が専門性の要求をみたすためには、(1) 利用者を知り、(2) 資料を知り、(3) 利用者と資料を結びつけるための資料の適切な組織化と提供の知識・技術を究明しなければならない。そのためには、個人的、集团的に日常不断の研修が必要であり、これらの研修の成果が、図書館活動全体を発展させる専門知識として集積されていくのである。その意味で、研修は図書館員の義務であり権利である。したがって図書館員は、自主的研修にはげむと共に研修条件の改善に努力し、制度としての研修を確立するようつとめるべきである。

（組織体の一員として）

第7 図書館員は、自館の運営方針や奉仕計画の策定に積極的に参画する。

個々の図書館員が積極的な姿勢をもたなければ、図書館は適切・円滑に運営することができない。図書館員は、その図書館の設置目的と利用者の要求を理解し、全員が運営方針や奉仕計画等を十分理解していなければならない。そのためには、図書館員は計画等の策定にたえず関心を持ち、積極的に参加するようつとめるべきである。

第8 図書館員は、相互の協力を密にして、集団としての専門的能力の向上につとめる。

図書館がその機能を十分に果たすためには、ひとりの図書館員の力だけでなく、職員集団としての力が発揮されなければならない。このためには、図書館員は同一職種内の協調と共に、他職種の役割をも正しく理解し、さらに、地域および全国規模の図書館団体に結集して図書館に働くすべての職員の協力のもとに、それぞれの専門的知識と経験を総合する必要がある。図書館員の専門性は、現場での実践経験と不断の研修及び職員集団の協力によって高められるのであるから、図書館員は、経験の累積と専門知識の定着が、頻繁すぎる人事異動や不当配転等によって妨げられないようつとめるべきである。

第9 図書館員は、図書館奉仕のため適正な労働条件の確保につとめる。

組織体の一員として図書館員の自覚がいかに高くても、劣悪な労働条件のもとでは、利用者の要求にこたえる十分な活動ができないばかりか、図書館員の健康そのものをも維持しがたい。適正数の職員配置をはじめ、労働災害や職

業病の防止、婦人図書館員の母性保護等、適切な図書館奉仕が可能な労働条件を確保し、働きやすい職場づくりにつとめる必要がある。図書館員は図書館奉仕の向上のため、図書館における労働の独自性について自ら追求すべきである。

（図書館間の協力）

第10 図書館員は図書館間の理解と協力につとめる。

図書館が本来の目的を達成するためには、一館独自の働きだけでなく、組織的に活動する必要がある。各図書館は館種・地域・設置者の別をこえ、理解と協力につとめるべきである。図書館員はこのことをすべて制度上の問題に帰するのではなく、自らの職業上の姿勢としてとらえなければならない。図書館間の相互協力は、自館における十分な努力が前提となることを忘れてはならない。

（文化の創造への寄与）

第11 図書館員は住民や他団体とも協力して、社会の文化環境の醸成につとめる。

図書館は孤立した存在であってはならない。地域社会に対する図書館の協力は、健康で民主的な文化環境を生み出す上に欠くことができない。他方、この文化環境によって図書館の本来の機能は著しい発達をうながされる。図書館員は住民の自主的な読書運動や文庫活動等をよく理解し、図書館の増設やサービス改善を求める要求や批判に、謙虚かつ積極的にこたえなければならない。さらに、地域の教育・社会・文化諸機関や団体とも連携を保ちながら、地域文化の向上に寄与すべきである。

第12 図書館員は、読者の立場に立って出版文化の発展に寄与するようつとめる。

出版の自由は、単に資料・情報の送り手の自由を意味するのではなく、より根本的に受け手の知る自由に根ざしている。この意味で図書館は、読者の立場に立って、出版物の生産・流通の問題に積極的に対処する社会的役割と責任を持つ。また図書館員は、「図書館の自由に関する宣言」の堅持が、出版・新聞放送等の分野における表現の自由を守る活動と深い関係を持つことを自覚し、常に読者の立場に立ってこれら関連分野との協力につとめるべきである。

日本図書館協会は、わが国の図書館の現状にかんがみこの倫理綱領を作成し、提唱する。本協会はこの綱領の維持発展につとめると共に、この綱領と相いれない事態に対しては、その改善に向って不断に努力する。

この印刷物は、720 部印刷しており、その経費として、業者委託
による製本経費を含め 1 部当たり 864 円（税込）がかかっています。
ただし、編集時の職員人件費や配送費等は含んでいません。

しんじゅくの図書館 2018

印刷物登録番号

2018-7-5519

平成 30 年 9 月発行

編集・発行

新宿区立中央図書館

東京都新宿区大久保 3-1-1

電話 (03) 3364-1421

印刷

株式会社 信英堂

電話 (03) 3357-6711

本誌は、地球環境保全推進のため、
再生紙を使用しています。